

T10C



2.4GHz Futaba Advanced Spread Spectrum Technology
PCM1024 / PPM Selectable



取扱説明書

注意

- 製品をご使用前に必ず本書をお読みください。
- 本書はいつでも活用できるように大切に保管してください。

保証書について

- セットに保証書が付属しています。お買上げ時、保証書に販売店印とお買上げ年月日の記入手続きをお受けください。

1M23N21001

模型用

Futaba[®]

Digital Proportional R/C System

このたびは **10C** システムをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
また、お読みになられたあとも大切に保管してください。

●リンク操作について（2.4GHz システムをご使用の場合）

FASST-2.4GHz システム（TM-10 RFモジュール搭載システム）の場合、RFモジュールには固有のID番号を持っています。ペアで使用する受信機にこのID番号を読み込ませることに
より操作が可能となります。（リンク操作）

受信機を買い足した場合や別の送信機で使用する場合は再度リンク操作が必要となります。
リンク操作についてはP26をご覧ください。

* FASST : Futaba Advanced Spread Spectrum Technology の略。Futaba 2.4GHz製品を示します。

●モデルタイプについて

この **10C** システムの送信機は、飛行機、ヘリコプターおよびグライダー機能に対応して
います。パラメーター機能内のモデルタイプ選択機能（P56）で、機体に合わせてタイプを
選択してください。また、各モデルタイプの機能マップは、P42（飛行機用）、P86（ヘリ
コプター用）、P116（グライダー用）をご覧ください。

用途、輸出、改造等に関するご注意

1. 模型用以外に使用しないで下さい。

本説明書に記載されている製品は、用途が模型用に限定されております。

2. 輸出する際のご注意

- （イ）本製品を海外に輸出する場合、輸出する国の電波法で認可されていないと使用すること
はできません。
- （ロ）模型以外の用途で使用する場合、輸出貿易管理令で規制される場合があり、輸出許可
申請等の法的手続きが必要となります。

3. 改造、調整、部品交換した場合のご注意

本製品を弊社以外で改造、調整、部品交換などの手が増えられた場合、一切の責任を負いか
ねますのでご了承ください。

●保証についてのご注意

本製品の保証につきましては、添付の保証書に記載の保証規定にしたがって保証いたしま
す。なお、本製品以外の機体、エンジン等につきましては保証の対象外となります。

- 本書の内容の一部または全部を無断で転載しないでください。
- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊
社までご連絡ください。
- お客様が機器を使用された結果につきましては、責任を負いかねることがございますのでご了承ください。

10CAP/HP

飛行機用／ヘリ用 10チャンネル

FASST-2.4GHz/PCM1024方式

取扱説明書

目次

安全にお使いいただくために

●表示の意味	7
●飛行時の注意	7
●ニッカド電池の取扱上の注意	9
●保管・廃棄時の注意	10
●その他の注意	10

お使いになる前に

●特長	11
●セット内容	13
●各部の名称／取り扱い方	14
送信機（正面）	14
送信機（裏面）	20
受信機	24
サーボ	25
●送受信機のリンク操作（2.4GHzのみ）	26
●パワーダウンモード（2.4GHzのみ）	27

組込方法

●受信機・サーボの接続方法	28
●R6014FS受信機の搭載	32
●組込時の安全上の注意	34

初期設定

●飛行機セッティング手順	36
●ヘリセッティング手順	38

飛行機用機能（ACRO）

●機能マップ	42	
●機能説明		
(ベーシックメニュー機能)		
モデル	モデル機能（モデルセレクト／データコピー／モデル ネーム）	44
デュアル, エクス	デュアルレート／エクスポネンシャル	46
エンドポイント	舵角調整	48
サブトリム	サブトリム	49
リバース	サーボリバース	50
トリム	トリム機能	51
スロットルカット	スロットルカット	52
アイドルダウン	アイドルダウン	53
フェイルセーフ	フェイルセーフ	54
AUXチャンネル	AUXチャンネル	55
パラメーター	パラメーター機能（データーリセット／モデルタイプ／ 2ndエルロン／モジュレーション／ATLトリム／LCD コントラスト調整／バックライト輝度調整／ユーザー ネーム）	56

タイマー	タイマー	61
トレーナー	トレーナー	62
ロジック SW	ロジックスイッチ	64
サーボ	サーボテスト	65

(アドバンスメニュー機能)

PROG. MIX 1-8	プログラマブルミキシング1~8	66
フラップ ロン	フラップロン	69
フラップ トリム	フラップトリム	71
ディファレンシャル	エルロンディファレンシャル	72
エアブレーキ	エアブレーキ	73
エレベーター→フラップ	エレベーター→フラップミキシング	75
Vテール	Vテール	76
エレボン	エレボン	77
エレベーター	エレベーター	79
スナップ ロール	スナップロール	80
スロットル デイレイ	スロットルデイレイ	81
スロットル→ニードル	スロットルニードル	82
ジャイロミキシング	ジャイロミキシング	83
スロットルカーブ	スロットルカーブ	84

ヘリコプター用機能 (HELI)

●機能マップ 86

●機能説明

(ベーシックメニュー機能)

モデル	モデル機能 (モデルセレクト/データコピー/モデル ネーム)	44
デュアル, エクス本	デュアルレート/エクスポネンシャル	88
エンドポイント	舵角調整	48
サブトリム	サブトリム	49
リバース	サーボリバース	50
トリム	トリム機能	51
スロットルカット	スロットルカット	90
スワッシュAFR	スワッシュAFR	92
フェイルセーフ	フェイルセーフ	54
AUXチャンネル	AUXチャンネル	55
パラメーター	パラメーター機能 (データーリセット/モデルタイプ/ スワッシュタイプ/モジュレーション/ATLトリム/ LCDコントラスト調整/バックライト輝度調整/ユー ザーネーム)	56
スロットルカーブ /N	スロットルカーブ(ノーマル)	93
ピッチカーブ /N	ピッチカーブ(ノーマル)	94
ピッチ→ラダー /N	ピッチ→ラダーミキシング(ノーマル)	95
タイマー	タイマー	61
トレーナー	トレーナー	62
ロジック SW	ロジックスイッチ	64
サーボ	サーボテスト	65

(アドバンスメニュー機能)

スロットルカーブ	スロットルカーブ	97
ピッチカーブ	ピッチカーブ	99
ピッチ→ラダー	ピッチ→ラダーミキシング	101
ジャイロミキシング	ジャイロミキシング	103
ホバリング スロットル	ホバリングスロットル	104
ホバリングピッチ	ホバリングピッチ	105
ハイ/ローピッチトリム	ハイ/ローピッチトリム	106
スロットルホルド	スロットルホルド	107
オフセット	トリムオフセット	108
デイレイ	デイレイ	109
ガバナーミキシング	ガバナーミキシング	110

安全にお使い
いただくために

お使いになる
前に

組込方法

初期設定

飛行機用機能

ヘリコプター用
機能

グライダー用
機能

参考

スロットル→ニードル	スロットルニードルミキシング	112
スロトルミキシング	スワッシュユ→スロトルミキシング	113
PROG. MIX1-6	プログラマブルミキシング1~6	66
コンディション	コンディションセレクト	114

グライダー用機能 (GLID)

●機能マップ 116

●機能説明

(ベーシックメニュー機能)

モデル	モデル機能 (モデルセレクト/データコピー/モデル ネーム)	44
デュアル, イクスト	デュアルレート/エクスポネンシャル	46
エンドポイント	舵角調整	48
サブトリム	サブトリム	49
リバース	サーボリバース	50
トリム	トリム機能	51
モーターカット	モーターカット	118
フェイルセーフ	フェイルセーフ	54
AUXチャンネル	AUXチャンネル	55
パラメーター	パラメーター機能 (データリセット/モデルタイプ/ 2ndエルロン/モジュレーション/ATLトリム/LCD コントラスト調整/バックライト輝度調整/ユーザー ネーム)	56
タイマー	タイマー	61
トレーナー	トレーナー	62
ロジック SW	ロジックスイッチ	64
サーボ	サーボテスト	65

(アドバンスメニュー機能)

PROG. MIX1-8	プログラマブルミキシング1~8	66
フラップ ロン	フラップロン (1A+1Fのみ)	69
Vテール	Vテール	76
ディファレンシャル	エルロンディファレンシャル (1A+1Fを除く)	119
バタフライ	バタフライミキシング	121
バタフライ→エレベ	バタフライ→エレベーターミキシング	123
エレベーター→フラップ	エレベーター→フラップミキシング	124
エルロン→フラップ	エルロン→フラップミキシング (2A+2Fのみ)	126
スタートデレイ	スタートデレイ (1A+1Fのみ)	127
キャンパー→フラップ	キャンパー→フラップ	128
オフセット	オフセット	129
コンディション	コンディション/ファンクション	130
キャンパーミキシング	キャンパーミキシング	131
エルロン/ラダー	エルロン/ラダーミキシング	132
スポイラーミキシング	スポイラーミキシング	133
フラップトリム	フラップトリム	71
エレボン	エレボン (1A+1Fのみ)	77

参考

●規格	135
●オプションパーツ	136
●ワーニング表示/エラー表示	137
●修理を依頼されるときは	139

安全にお使いいただくために

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点にご注意ください。
また、2.4GHzシステムの場合、製品に添付の注意書き「はじめにお読みください」に記載の注意事項も必ずお守りください。

表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要がある内容を示しています。

表示

意味



危険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。



警告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または、軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。



注意

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号： ; 禁止事項

; 必ず実行する事項

下記の記号はシステム毎に異なる注意事項を示します。

I2.4GI : 2.4GHzシステムの場合の注意

I40/72MI : 40/72MHzシステムの場合の注意

(表示なし) : 2.4GHzシステム、40/72MHzシステム共通の注意

飛行時の注意



警告



I2.4GI 飛行中は送信機アンテナを絶対に握らない。

■送信出力が極端に低下します。



I2.4GI 他の2.4GHzシステム等からのノイズの影響により電波が届かなくなる場合があります。ご使用前の動作テストや使用中にこのような状況がある場合は使用を中止する。



I2.4GI パワーダウンモードの状態では絶対に飛行させない。

■距離テスト専用のパワーダウンモードの場合、飛行範囲が狭く墜落の恐れがあります。



I40/72MI 同じ周波数で同時に飛行させない。

■電波が混信して墜落します。

*変調方式 (AM、FMおよびPCM方式等) が違っていても周波数が同じ場合は混信します。



操作中、送信機を他の送信機や携帯電話等の無線装置に接触させたり近づけたりしない。

■誤動作の原因となります。



飛行中、アンテナ先端を機体方向に向けない。

■指向性があり送信出力が一番弱くなります。(アンテナ横方向からの電波が最大となります。)



雨の日、風の強いときや夜間は絶対に飛行させない。

■装置内部に水が入り誤動作したり、操縦不能となったり、見失ったりして墜落します。



フックバンドを首にかけたままで、エンジンのスタート操作をしない。

■フックバンドが回転するプロペラへ吸い込まれると大ケガとなります。



疲れているとき、病気るとき、酔っぱらっているようなときは飛行させない。

■集中力を欠いたり、正常な判断ができないため思わぬ操作ミスをおかして墜落します。



次のような場所では飛行させない。

- ・人の近くや上空
- ・家屋、学校、病院などの人の集まる場所の近く
- ・高圧線、高い建造物または通信施設の近く

■電波の混信や障害物などにより墜落したり、万一、プロポや機体の故障により墜落した場合、人命を奪ったり、家屋等の損傷をひきおこします。



安全のため、常に機体が視認できる状態で飛行する。

■建物等の大きな障害物の背後への飛行は見えないばかりでなく、通信品質も低下し機体のコントロールができなくなる恐れがあります。



飛行前には必ずプロポのテストを実行する。

■プロポ、機体等のどこかに一つでも異常があれば墜落します。

*エンジン始動前に、各舵を動作させてみて、各舵が追従動作することを確認します。追従動作しない場合や異常な動作をする場合は飛行しないでください。



安全上、必ずフェイルセーフ機能の設定を行なう。(2.4GHz/PCMシステムの場合)

■スロットルのフェイルセーフ設定は通常飛行機の場合最スロー、ヘリの場合ホバリング位置よりスロー側になるように設定します。また、状況に合わせて安全な位置に設定してください。正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。



フライト時は必ず送信機の設定画面を初期画面に戻しておく。

■フライト中にエディットキーに触れて、誤入力すると大変危険です。



I40/72MI 送信機のアンテナは全段伸ばして使用する。

■アンテナを縮めた状態で使用すると、電波の到達距離が短くなり墜落します。



I40/72MI 送信機のアンテナがゆるんでいないか確認する。

■飛行中にゆるんで外れると送信不能となり墜落します。



I40/72MI 周波数を変更するときは、必ず本書に指定されたFutaba純正クリスタルセット(送受信機用)を使用する。

■他のクリスタルを使用すると、全く動作できなかったり、動作はできても電波の到達距離が短くなり、墜落の原因となります。

⚠ 注意



飛行準備中に送信機を地上におく場合、送信機を立てて置かない。

■送信機が風などで倒れ、スティックが操作状態となり、不意にプロペラが回転すると大ケガとなります。



使用中、使用直後には、エンジン、モーター、FETアンプ等には触れない。

■高温になっているためヤケドします。

**<電源スイッチを入れるとき>**

送信機のスロットルスティックを最スローの状態とした後、

1. 送信機の電源スイッチを入れてから
2. 受信機側の電源スイッチを入れる

<電源スイッチを切るとき>

エンジンまたはモーターを停止させた後、

1. 受信機側の電源スイッチを切ってから
2. 送信機の電源スイッチを切る

■操作の順番を逆にすると、不意にプロペラやローターが回転し、ケガをします。

*最スロー：エンジンまたはモーターが一番低速回転となる方向。



プロポの調整を行うときは、必要な場合を除き、エンジンを停止させて行う。

■不意にプロペラやローターが高回転となった場合ケガをします。

ニッカド電池取扱上の注意

警告



ニッカド電池は飛行前に必ず充電する。

■飛行中に電池がなくなると墜落します。



プロポ用ニッカド電池の充電は専用充電器または別売りのプロポ用の急速充電器を使用する。

■規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。

注意



市販の単3型ニッカド電池は使用しない。

■急速充電時、バッテリーホルダーの接点部分が異常発熱し装置が破損したり充電できない場合があります。



ニッカド電池の接続コネクタの端子をショートさせない。

■ショートすると発火、異常発熱等によりヤケドしたり火災を引き起こします。



ニッカド電池は、落下させるなどの強い衝撃をあてない。

■ショートして異常発熱したり、壊れて電解液が漏れると、ヤケドしたり、化学物質による被害を受けます。

<ニッカド電池の電解液について>

ニッカド電池内の電解液は強アルカリ性のため、電解液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。こすらずに、すぐにきれいな水でよく洗い流した後、直ちに医師の治療を受けてください。また、電解液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

保管・廃棄時の注意

警告

- ⊘ プロポ、電池、機体等を幼児の手の届く所に放置しない。
■ 触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けます。
- ⊘ ニッカド電池を火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。
■ 破裂、異常発熱、漏液等により、ケガ、ヤケド、失明等をします。
- ⚠ 飛行させない場合は放電器等でニッカド電池を放電させた状態で保管し、次の飛行前に充電するようにする。
■ ニッカド電池の放電が浅い状態で充電を繰り返すことが多いと、ニッカド電池のメモリー効果によって、充電を行っても飛行可能時間が極端に減少することがあり、墜落の原因となります。

注意

- ⊘ プロポは次のような場所に保管しない。
 - ・ 極端に暑いところ（40℃以上）、寒いところ（-10℃以下）。
 - ・ 直射日光があたる場所。
 - ・ 湿気の多いところ。
 - ・ 振動の多いところ。
 - ・ ほこりの多いところ。
 - ・ 蒸気や熱があたる場所。■ 上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。
- ⚠ 長期間使用しない場合は、ニッカド電池を送信機や機体から取り出して、湿気の少ない場所に保管する。
■ そのまま放置すると、電池の漏液により、送信機や機体の性能や寿命を低下させます。

<ニッカド電池のリサイクルについて>

使用済みニッカド電池は貴重な資源です。端子部分にテープを貼るなどの処理をして、ニッカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

その他の注意

注意

- ⊘ 燃料、廃油、排気等を直接プラスチック部分にかけない。
■ そのままにしておくと、プラスチックが侵され、破損します。
- ⚠ 送信機、受信機、サーボ、FETアンプ、ニッカド電池その他オプションパーツは、必ずFutaba純正品の組み合わせで使用する。
■ Futaba純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。
- ⚠ ラジコン保険に加入する。
■ ラジコン保険の加入申し込みはラジコン操縦士登録代行店に問い合わせてください。

お使いになる前に

特長

T10CAP/HP送信機

●FASST-2.4G/PCM1024/FM方式多機能10チャンネル送信機

FASST-2.4G方式：

TM-10 2.4GHz RFモジュールを装着時、FASST-2.4G方式送信機として動作します。

10ch/7chモードが切替可能。10chモード時、8つのリニアチャンネルと2つのスイッチチャンネルが使用可能。7chモード時、7つのリニアチャンネルが使用可能。ご使用の受信機に合わせてモードを選択します。

* FASST：Futaba Advanced Spread Spectrum Technology の略。Futaba 2.4GHz製品を示します。

PCM1024/FM方式：

TP-FSMまたはTP-FM RFモジュールを装着時、PCM1024またはFM方式送信機として動作します。PCM1024/PPMモードが切替可能。PCM1024モード時、8つのリニアチャンネルと2つのスイッチチャンネルが使用可能。PPMモード時、8つのリニアチャンネルが使用可能。ご使用の受信機に合わせてモードを選択します。

●大型グラフィック液晶パネル（160x70ドット/LEDバックライト付）

バックライト付大型グラフィック液晶パネルを採用。設定カーブのグラフ表示、サーボ動作のバーグラフ表示等がより見易くなりました。また、機能名等のカタカナ表示に対応。

●エディットキーにカーソルレバー、データインプットダイヤルを採用

素早いカーソル移動およびデータ入力が可能。大型グラフィック液晶画面との組み合わせで、効率の良いデータ入力が可能となります。

●独自のモデルメモリーシステム

送信機本体に15機分のモデルメモリーが搭載されています。さらに、データパックDP-16K/128K（別売り）によりモデルメモリーを増設できます。（DP-16Kで4機分、DP-128Kで33機分増設可能）また、T9C/T9CSシリーズ送信機のデータをT10C送信機のデータに変換可能。モデルデータはバッテリーバックアップ不要のメモリー素子に保存されます。

●ミキシングタイプが選べる

機体に合わせて、ACRO（飛行機用）、HELI（ヘリコプター用）、GLID（グライダー用）のミキシングタイプが選べます。また、ヘリコプター用は8種類のスワッシュプレートタイプに対応可能。グライダー用はウイングタイプが1エルロン+1フラップ、2エルロン+1フラップ、2エルロン+2フラップに対応可能。

●デジタルトリム

飛行中に素早いトリム調整が可能です。また、トリムを押し続けると、トリム移動が速くなっていきます。トリムセンターで音が変わります。ステップ量は舵に合わせて任意に変換できます。トリム位置は液晶パネルに表示されます。

●スティックのレバーテンション調整、レバーヘッドの長さ調整、新形状レバーヘッド

スティックは好みの強さに調整できます。また、レバーヘッドの長さが調整できます。操作時のスリップを減らす新形状のレバーヘッド採用。

●**スイッチ／つまみ位置の変更、AUXチャンネルのファンクション変更**

ミキシング等のスイッチやつまみの選択範囲が広がりました。また、AUXチャンネル（5～10ch）のファンクション変更もできるため、プログラマブルミキシングを使用して、既定のミキシング以外にオリジナルのミキシングも作成できます。（5～8ch）

●**トレーナー機能**

練習したいチャンネルが選択できます。また、4チャンネルの送信機でもヘリコプターの練習ができます。（スティックチャンネルのみの練習）（トレーナーコードは別売り）

●**高周波モジュール方式**

周波数帯の変更はモジュール交換で行えます。ただし、T10C送信機には2.4GHz帯用モジュールTM-10（T10C専用）およびTM-8、40および72MHz帯用のTP-FSM（シンセサイザー方式）およびTP-FM（クリスタル交換方式）の各モジュールが使用可能です。その他のモジュールは使用できません。

R6014FS受信機（2.4GHz帯）

- FASST方式／14チャンネル／Multi-chモード対応**
- バッテリーフェイルセーフ機能付き**
- 対応送信機およびモジュール**
右の対応表を参照してください。

R3110DPS受信機（40/72MHz帯）

- PCM1024方式／10チャンネル／シンセサイザー方式**
- デュアルコンバージョン方式**
- バッテリーフェイルセーフ機能付き**

FASST-2.4GHzシステム 送信機・モジュール vs. 受信機 対応表			
送信機		受信機	
		R616FFM R607FS R617FS	R608FS R6014FS
TM-14モジュール	Multi-chモード	----	○
	7chモード	○	----
TM-10モジュール	10chモード	----	○
	7chモード	○	----
TM-8モジュール	8chモード	----	○
	7chモード	○	----
T7C-2.4GHz送信機		○	----
T6EX-2.4GHz送信機		○	----

○：対応します。 ----：対応しません。

セット内容

10CAP 飛行機用/10CHP ヘリ用システムにはそれぞれ下記のものが付属します。
セットによって内容が異なります。

	10CAP飛行機用システム		
	S3010x4付	S3151x4付	S9252x4付
送信機	T10CAP ●電池ボックス付属		
高周波モジュール	TM-10 (2.4GHz) または TP-FMS (40/72MHz) ●送信機に取り付けてあります。		
受信機	R6014FS (2.4GHz) または R3110DPS (40/72MHz)		
サーボ	S3010 (x4) ●付属品付 (一式)	S3151 (x4) ●付属品付 (一式)	S9252 (x4) ●付属品付 (一式)
受信機バッテリー および 充電器	NR-4J FBC-20A(4)		NR4F1500 FBC-29A(4)
その他	受信機用スイッチ、ミニドライバ 取扱説明書 (本書)、保証書 ●セットにより延長コードが付属します。 ●40/72MHz帯製品の場合、周波数カラーテープが付属します。		

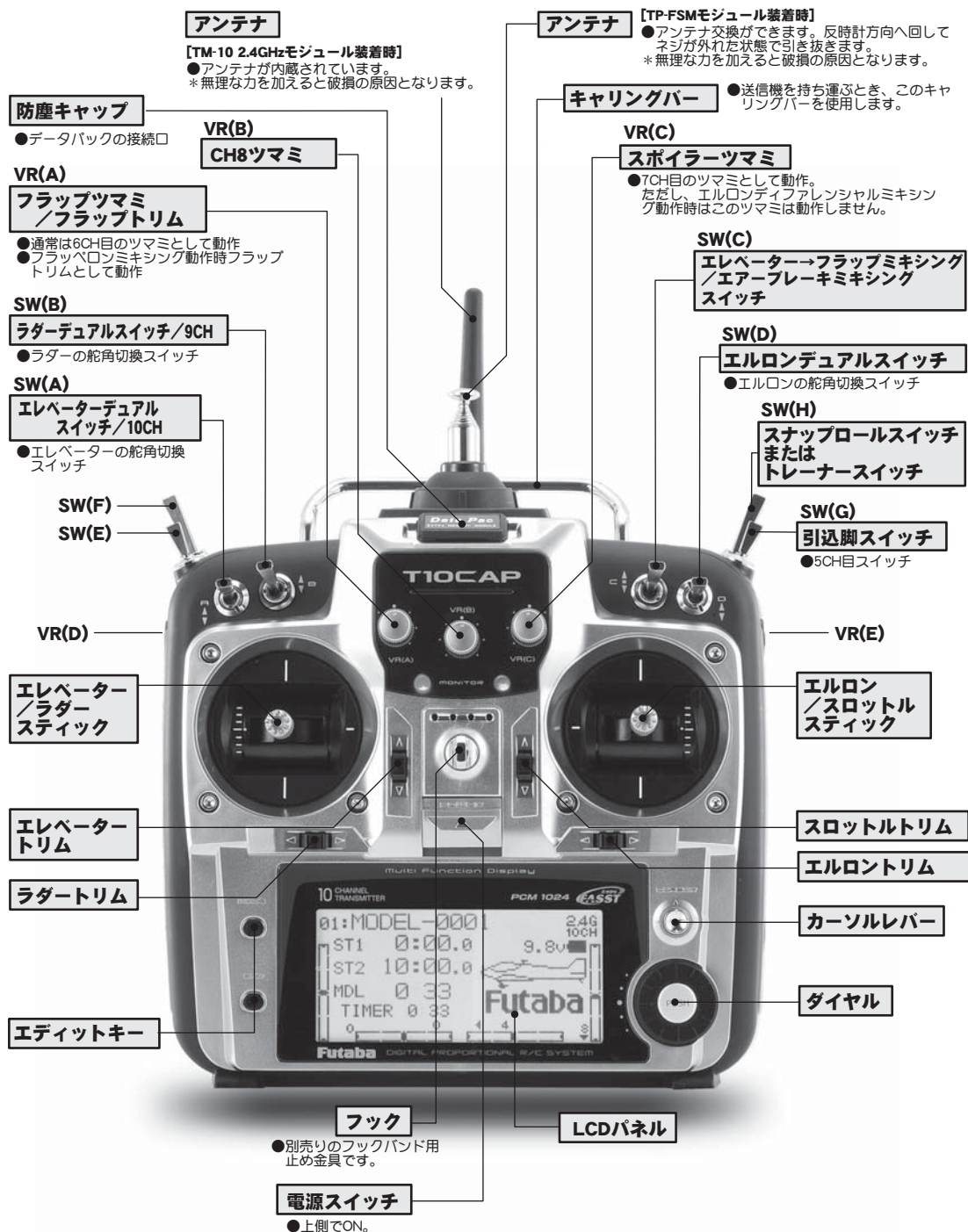
	10CHPヘリ用システム		
	S3010x4付	S3151x4付	S9255x4付
送信機	T10CHP ●電池ボックス付属		
高周波モジュール	TM-10 (2.4GHz) または TP-FMS (40/72MHz) ●送信機に取り付けてあります。		
受信機	R6014FS (2.4GHz) または R3110DPS (40/72MHz)		
サーボ	S3010 (x4) ●付属品付 (一式)	S3151 (x4) ●付属品付 (一式)	S9255 (x4) ●付属品付 (一式)
受信機バッテリー および 充電器	NR-4RB FBC-20A(4)		NR4F1500 FBC-29A(4)
その他	受信機用スイッチ、ミニドライバ 取扱説明書 (本書)、保証書 ●セットにより延長コードが付属します。 ●40/72MHz帯製品の場合、周波数カラーテープが付属します。		

お使いになる前に

各部の名称／取り扱い方

送信機 T10CAP (飛行機用)

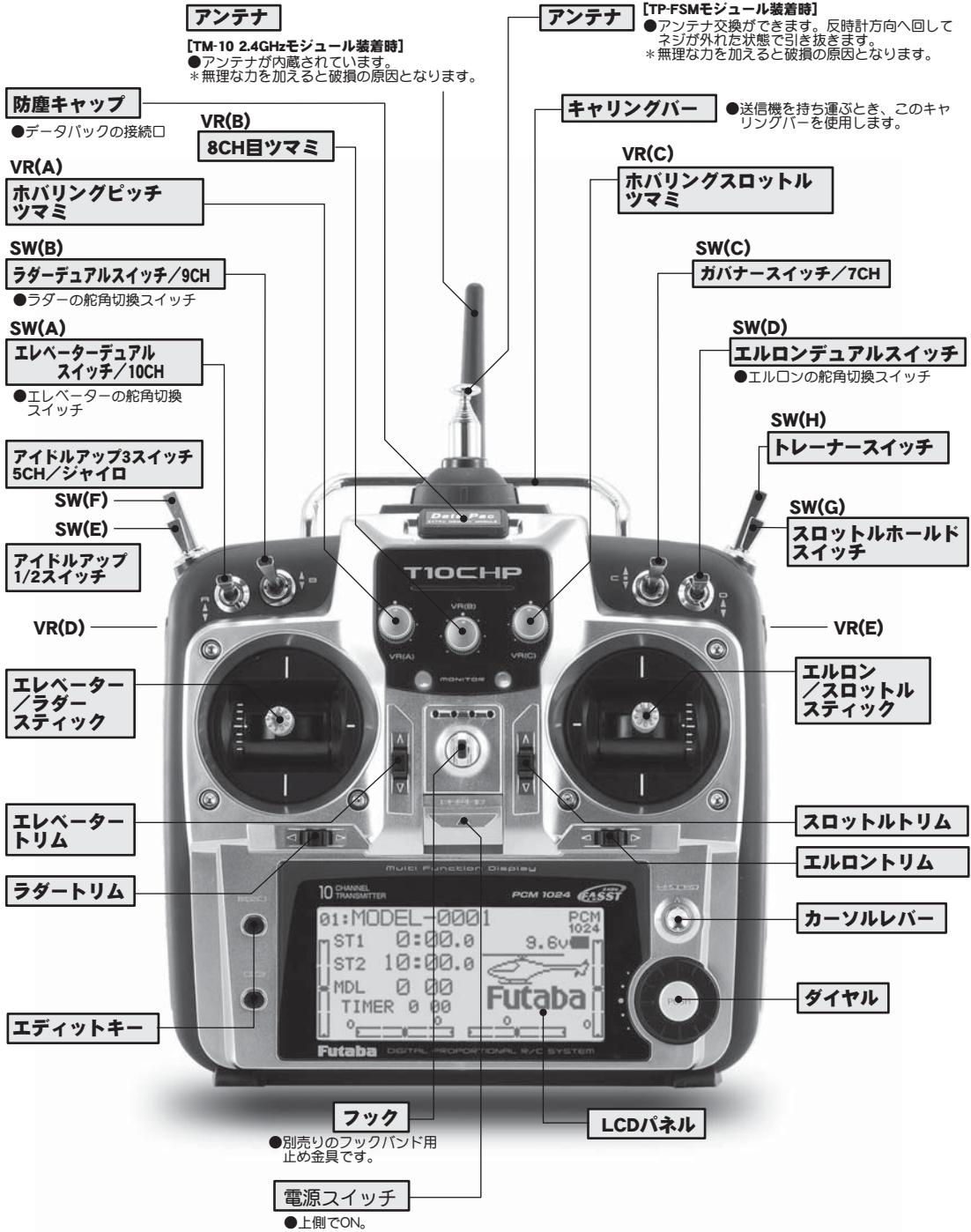
お使いになる前に



*各スイッチの位置は飛行機用の初期設定の位置です。スイッチ位置は各機能の設定項目で変更が可能です。また、AUX-CH機能でCH5～10のファンクションも変更できます。

送信機 T10CHP (ヘリ用)

お使いになる前に



*各スイッチの位置はヘリ用の初期設定の位置です。スイッチ位置は各機能の設定項目で変更が可能です。また、AUX-CH機能でCH5,CH7~10のファンクションも変更できます。

LCD画面／エディットキー

電源スイッチを入れると、「ピッ」という確認音とともに約1秒間「NOW LOADING・・・」が表示された後、さらに「ピッピッ」という確認音がして、下のスタート画面が現れます。

データパックが挿入されている場合、「NOW LOADING・・・」表示中に「ATTACHED Memory-Pac」も表示されます。

タイマーのリセット方法：

カーソルレバーでタイマーを選択し（点滅表示）、ダイヤルを1秒以上押すとリセットされます。

- **アップ/ダウンタイマー (ST1, ST2) 表示 (分：秒)**
- **モデルタイマー(MDL)表示 (時間：分)**
モデル毎の電源スイッチON時間を積算表示します。
(各タイマーの設定は「タイマー機能」を参照)
- **トータルタイマー(TIMER)表示 (時間：分)**
送信機の電源スイッチON時間を積算表示します。

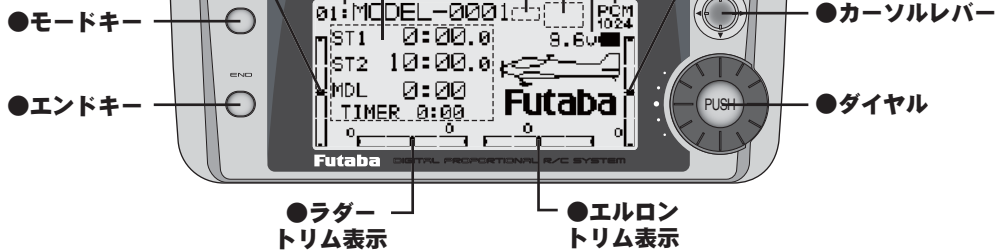
- **モデルネームおよびモデルNo.**
- **エレベータートリム表示**

- **"MIX"**
特定のミキシングがONのときに表示します。
(「ミキシングワーニング」の項目を参照)

- **"16/128"**
データパック装着時に表示します。
- **"9C"**
T9C/T9CSのデータパック装着時に表示します。

- **バッテリー電圧表示**
- **モジュレーション表示**
"2.4G 7CH"/"2.4G 10CH",
"PCM1024"/"PPM FM"

- **スロットトリム表示**



- **モードキー(MODE)**
初期画面からメニュー画面を呼び出すときに押します。(1秒以上)
また、ベーシックメニューとアドバンスメニュー間の移動のときに押します。

- **エンドキー(END)**
設定画面や、メニュー画面を終了させたいときに押します。

- **カーソルレバー(CURSOR)**
メニュー画面での機能の選択、設定画面での設定項目の選択に使用。上下左右への移動が可能。
メニュー画面や設定画面が複数ページある場合、カーソルレバーを押して次のページに移動可能。

- **ダイヤル**
設定画面でのデータ入力に使用する。ダイヤル操作には「回す」、「押す」、「1秒以上押す」の3つの動作があります。

注意：

- * 飛行する前には必ずモデルネームを確認しましょう。
- * 電源ON/OFF時にLCD画面上に短時間縞模様等が発生する場合がありますが、異常ではありません。
- * 電源ON/OFFを速く繰り返した場合、画面表示されない場合があります。一旦電源スイッチをOFFしてから再度立ち上げ直してください。

LCD画面のコントラスト調整

LCD画面のコントラスト調整は、エンドキー (End) を押しながらダイヤルを廻して行ないます。温度補償機能内蔵のため、お好みのコントラストに調整後は変更の必要がありません。

- 時計方向に回すと濃くなり、反時計方向に回すと薄くなります。

モニターLED表示

T10C送信機には2つのLEDインジケータが搭載されています。左側の赤色のLEDは送信機の電源が入ると点灯します。その他、電源ON時のミキシングワーニング（警告）表示、ローバッテリーアラームのときに点滅表示します。

右側の青色のLEDは高周波モジュールが装着されている状態で電源を入ると点灯し、電波が出ていることを表示します。高周波モジュールを外している場合は点灯しません。



LED
(赤)

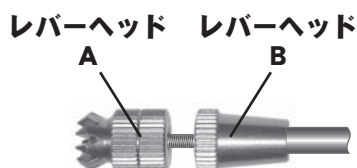
LED
(青)

ノンスリップアジャスタブルレバーヘッド

好みに合わせてスティックのレバーヘッドの長さが可変できます。あなたの手に合わせて長さの調整をしてください。

調整方法

- 1 レバーヘッドBを保持し、レバーヘッドAを反時計方向へ回すとロックがはずれます。
- 2 レバーヘッドBを調整したい方向に移動して保持し、レバーヘッドAを時計方向へロックするまで回す。



お
使
い
に
な
る
前
に

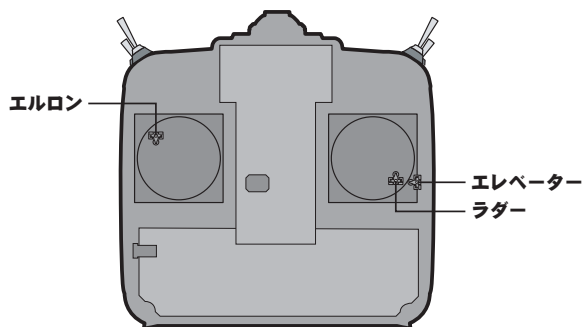
スティックレバーのテンション調整

スティックレバーのテンション調整が可能です。

調整方法

- 1 送信機から電池及び高周波モジュールを外す。
- 2 送信機裏ブタの4ヶ所の止めビスを外して裏ブタを開ける。
- 3 各スティックの調整用ビスをまわして、好みのスプリングの強さに設定する。（右回しでテンションが強くなります）

*調整が終わって、フタをしめる時は高周波モジュール用のコネクタピンや電源用コネクタピンを曲げないように注意してください。



(送信機の裏ブタを開けた状態)

データパックの取扱い

このT10C送信機には送信機本体に15機分と、取り外しが可能なデータパックDP-16K/128K（オプション）に4機分/33機分の設定データを保存することができます。

データパックの初期化について

データパックを使用する場合、初回の電源ON時に、データパックをこの送信機で使えるようにするための初期化の操作が必要となります。

*他の機種種のデータを保存したデータパックを初期化した場合、すべてのデータが消去されますのでご注意ください。

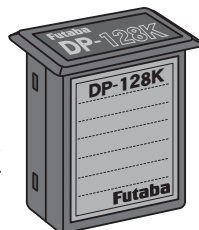
電源ON時に画面上に下図が表示されたら、カーソルレバーで"Yes"を選択し、ダイヤルを押してください。初期化が開始されます。以降この操作は必要ありません。初期化しない場合は"No"が選択された状態でダイヤルを押すが、ENDキーを押してください。

```
[EXT-MEMORY]
INITIALIZE Pac▶No
                    ▶Yes
*データPac シヨウテキマゼン
Pac TYPE=128k(33models)
```

バックアップ不要について

*設定データ（送信機本体およびデータパック）はバックアップ電池を必要としないメモリー素子に保存されます。したがって、バックアップ電池の寿命を気にすることなくご使用いただけます。もちろん、送信機本体の電池を交換してもその設定データは消えることはありません。

データパック
DP-16K/128K
(オプション)



*データパックを使用するときは、送信機の防塵キャップを取ってデータパックを奥まで挿入してください。

*データパックを挿入するとき/取り外すときは、必ず送信機の電源を切った状態で抜き差ししてください。

お
使
い
に
な
る
前
に

T9C/T9CS送信機のデータの変換方法について

T9C/T9CSのデータが保存されたデータパックのデータをこのT10C送信機本体のモデルにコピーすることができます。

T9C/T9CSのデータパックが挿入されている状態で、電源スイッチをONにすると右の画面が現れます。ここではデータパックを初期化しないため、ダイヤルまたはENDキーを押して、データパック初期化の画面を終了させます。

```
[EXT-MEMORY]
INITIALIZE Pac▶No
                    ▶Yes
*T9Cデータ ヘルカテキマゼン
Pac TYPE= 16k( 4models)
```

この初期化の画面で"Yes"を選択して初期化を実行しないでください。T9C/T9CSのデータが完全に消えてしまいます。

次に、モデルセレクト機能呼び出して、T9C/T9CSのデータをT10C送信機本体のモデルにコピーしてください。（コピー方法はP44を参照してください。）

デジタルトリムの取扱い

この送信機にはデジタルトリムが装備されています。トリムを操作する毎に一定のステップ量で移動します。トリムを押し続けると、途中から動作速度が速くなります。また、トリムがセンターの位置にくると、動作音が変化して知らせます。トリム位置はLCD画面の左右および下端に常にグラフィック表示されます。

*デジタルトリムのため、トリムメモリーの必要はありません。

スイッチ対照表

*各ミキシングタイプのスイッチ及びツマミのはたらきは下表のとおりです。

スイッチ/ツマミ名	ACRO	GLID	HELI
スイッチ A	エレベーター-D/R/10CH	エレベーター-D/R/10CH (下) バタフライ	エレベーター-D/R/10CH
スイッチ B	ラダー-D/R/9CH	ラダー-D/R/9CH	ラダー-D/R/9CH
スイッチ C	(上) ELE→FLP (中/下) アイドルダウン (下) エアブレーキ	(上) ELE→FLP (中) DISTANCE [デ] イゾ (下) LANDING [デ] イゾ	ガバナー/7CH
スイッチ D	エルロンD/R	エルロンD/R	エルロンD/R
スイッチ E		(奥) SPEED [デ] イゾ (手前) START [デ] イゾ	アイドルアップ1.2
スイッチ F			アイドルアップ3/ジャイロ /5CH
スイッチ G	引込脚/5CH		スロットルホールド
スイッチ H	スナップロール/トレーナー	トレーナー	スロットルカット/トレーナー
ツマミ A	フラップツマミ/6CH (*1)	フラップツマミ/6CH	ホバリングピッチ
ツマミ B	8CH	8CH	8CH目
ツマミ C	スポイラー/7CH (*2)	7CH (*3)	ホバリングスロットル
スライドレバー D		5CH (*4)	
スライドレバー E			ハイピッチ

(*1) フラップロン使用時、ツマミAはフラップトリムとして動作します。ただし、レートの初期設定は0%。

(*2) エルロンディファレンシャル使用時、ツマミCは7CHのツマミとしては動作しません。

(*3) GLID(1A+1F) 時のみ。

(*4) GLID(2A+2F) は除く。

●コンディション切替スイッチの設定 (モデルタイプがヘリまたはグライダーの場合)

機能によりフライトコンディション毎の設定が可能です。コンディションの切替えを可能とするため、予めアドバンスメニューのコンディション設定画面 (ヘリ: P114/グライダー: P130) で切替スイッチの設定を行ってください。(初期設定: INH)

ヘリ (HELI) の各コンディションのスイッチ位置 (初期設定)

IDLE-UP1 (アイドルアップ1) : スイッチEのセンター

IDLE-UP2 (アイドルアップ2) : スイッチEの手前側

IDLE-UP3 (アイドルアップ3) : スイッチFの手前側

THR-HOLD (スロットルホールド) : スイッチGの手前側

グライダー (GLID) の各コンディションのスイッチ位置 (初期設定)

START (スタート) : スイッチEの手前側

SPEED (スピード) : スイッチEの奥側

DISTANCE (ディスタンス) : スイッチCのセンター

LANDING (ランディング) : スイッチCの下側

●ロジックスイッチの設定 (全モデルタイプ)

機能によりON/OFFスイッチとしてロジックスイッチ (LSW1~LSW3) を選択可能です。ロジックスイッチを使用するため、予めベーシックメニューのロジックSW設定画面 (P64) でスイッチの設定を行ってください。(初期設定: NULL)

ロジックスイッチは2つのスイッチの組み合わせで機能のON/OFFが可能です。また、ANDまたはORの論理が選択できます。

送信機 T10CAP/HP (裏面)

お使いになる前に



送信機アンテナの取扱い (2.4GHzの場合)

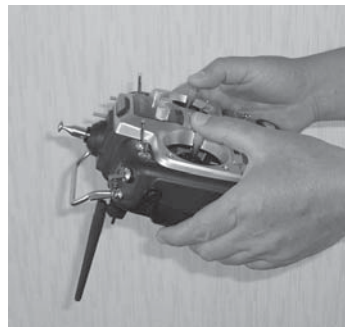
アンテナには指向性があります。電波の強さはアンテナの横方向からの出力が最大となり、アンテナの先端方向が最小となります。できるだけアンテナ先端が機体方向に向かないような状態で操作してください。通常、下の写真のように送信機の操作面に対して垂直方向に立ててご使用ください。また、操縦スタイルに合わせてアンテナ方向を調整してください。

警告



飛行中、絶対にアンテナを握らない。
アンテナ部には金属等の導電性のあるものを取り付けない。

■送信出力低下によりコントロールできなくなります。



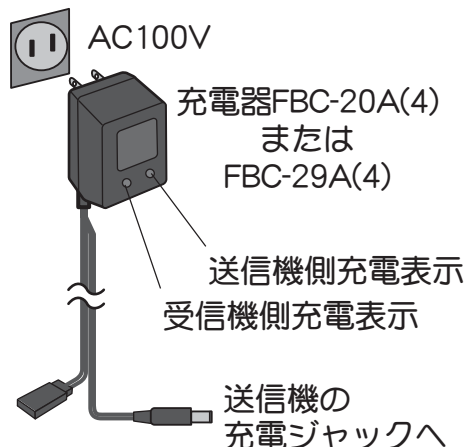
ニッカド電池の充電方法（ニッカド電池を使用の場合）

充電方法

- 1 付属の専用充電器の各コネクターを、送信機および受信機用ニッカド電池に接続する。
- 2 AC100Vのコンセントに充電器を接続する。
- 3 それぞれの充電表示LEDが点灯していることを確認する。

* 所定の時間充電後、充電器からニッカド電池を外します。また、充電器はコンセントから外しておきます。

受信機用
ニッカド電池へ



* 送信機側の充電は送信機をニッカド式に変更した場合のみ行います。

充電時間

FBC-20A(4)で、NT8S600B（別売）は13時間、NR-4Jは9時間、NR-4RBは15時間充電してください。

FBC-29A(4)で、NT8S600B（別売）は8時間、NR4F1500は15時間充電してください。

* ただし、しばらく使用しなかった場合は、充放電を2~3回くりかえして、電池を活性化させてからご使用ください。

保護回路について

* 送信機の充電回路にはショート保護用の素子が入っているため、プロポ用以外の急速充電器で充電した場合、正常に充電されない場合があります。

高周波モジュールについて

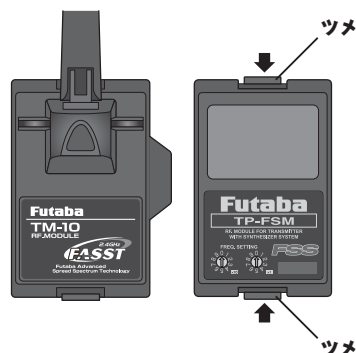
- モジュールを抜き挿しする場合は電源スイッチがOFFの状態で行ってください。

高周波モジュールの外し方

- 1 モジュールの上下のつめを内側に押しながら手前に引き抜く。

高周波モジュールの入れ方

- 1 送信機側のコネクタのピンが折り曲がらないように注意しながら、モジュールを挿入する。
- 2 つめが“カチッ”とロックするまで押し込む。



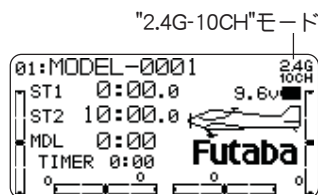
高周波モジュールの温度上昇について

* 送信機使用中に高周波モジュールは温度が上昇しますが異常ではありません。

- モジュールを装着したら、初期画面でモジュレーションのモードを確認し、使用する受信機のタイプに合わせて、モードを変更してください。ベーシックメニューのパラメーター機能 (P56) で変更が可能です。

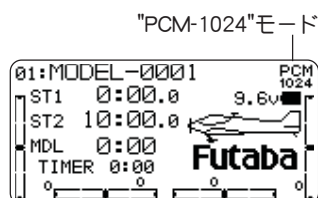
TM-10 (2.4GHz) モジュールの場合

TM-10モジュールを装着した場合、送信機のモジュレーションの設定は自動的に"2.4G-10CH"または"2.4G-7CH"モードに切り替わります。R6014FS受信機をご使用の場合は"2.4GHz 10CH"モードに設定してください。



TP-FSM (40/72MHz) モジュールの場合

TP-FSMモジュールを装着した場合、送信機のモジュレーションの設定は自動的に"PCM-1024"または"PPM-FM"モードに切り替わります。R3110DPS受信機をご使用の場合は"PCM-1024"モードに設定してください。



お使いになる前に

周波数の設定方法

- 下記の周波数の設定は送信機の電源スイッチがOFFの状態で行ってください。

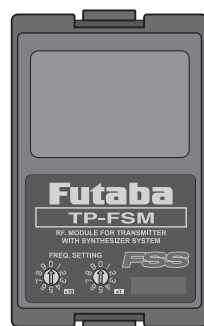
1 付属のミニドライバーを使用して、モジュールの左側のダイヤルスイッチ (x10側) を設定したいバンドNo.の10の位の数字に合わせます。

2 次に、右側のダイヤルスイッチ (x1側) を設定したいバンドNo.の1の位の数字に合わせます。

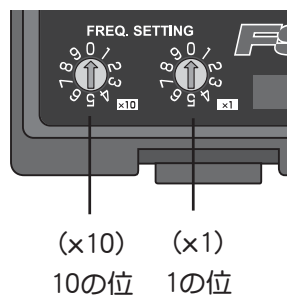
3 受信機側のバンドが上記のバンドに合っていることを確認後、送信機、受信機の順に電源スイッチをONにします。

- 送信機の電源ON後、約1秒後に信号が送出されます。

4 正常に動作することを確認します。



TP-FSMシンセサイザーモジュール



スティックモードの変更／スロットルリバースの設定

(この機能は通常使用しません。特に必要な場合以外は設定を変更しないでください。)

"MODE"キーと"END"キーを同時に押しながら電源スイッチをONにすると右の"ウツシキ セッテイ"画面が現れます。

【ウツシキ セッテイ】
 STK-MODE▶**1**
 THR-REV▶NOR
 ヒョウジ▶ニホンゴ(JPN)
 TM10-MODE▶GENERAL

スティックモードの変更 (モード1~4)

"STK-MODE"の項目が選択された状態で、ダイヤルを回してモードを選択します。

ここでの変更はソフト的なモード変更のみです。実際にスティックモードを変更する場合、スロットルスティックのラチェット機構の変更や各スティックの補正が必要です。

弊社ラジコンサービスセンター宛ご依頼ください。(有償改造)

スロットルリバースの設定

スロットルスティックとスロットルトリムの操作方向を反転することができます。

カーソルレバーで"THR-REV"の項目を選択し、ダイヤルを反時計方向に回して"REV"を選択します。

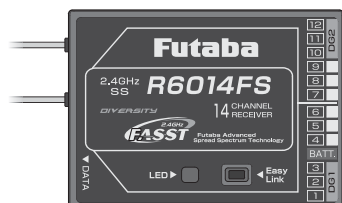
表示言語の変更

機能名の表示言語を変更できます。初期設定：日本語(カタカナ)

TM-10のエリア設定 (TM-10使用時のみ表示)

この設定は必ず"GENERAL"側で使用してください。

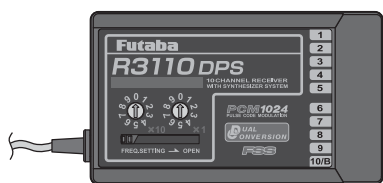
受信機 R6014FS/R3110DPS



R6014FS受信機

コネクタ部

- "1~12": 1~12チャンネル出力
(10Cシステムでは11~12CHは使用しません)
- "DG1, DG2": デジタルチャンネル出力
(10CシステムではDG1, DG2は使用しません)
- "BATT.": 電源接続コネクタ



R3110DPS受信機

コネクタ部

- "1~10": 1~10チャンネル出力
- "B": 電源接続コネクタ

お使いになる前に

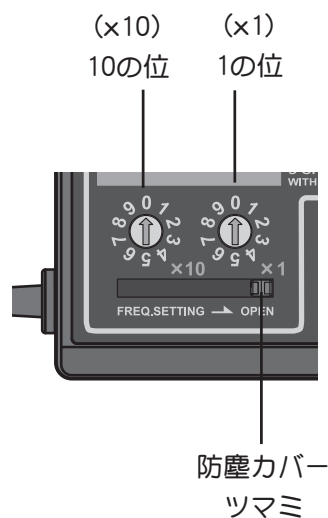
受信機の接続方法および搭載時の安全上の注意点については「組込方法」のページをご覧ください。

- 下記の周波数の設定は電源スイッチがOFFの状態で行ってください。
- 電源が入った状態で周波数を切替えた場合、電源を入れ直した時点で受信周波数が切り替わります。

R3110DPSシンセサイザー受信機

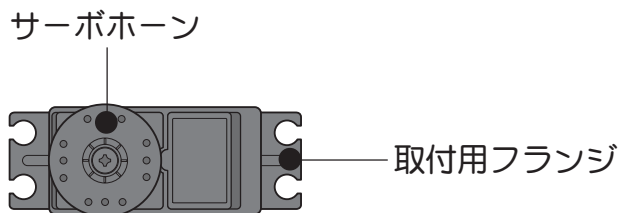
周波数の設定方法

- 1 防塵カバーツマミを右側にスライドさせて防塵カバーを開きます。
- 2 付属のミニドライバーを使用して、受信機の左側のダイヤルスイッチ (×10側) を設定したいバンドNo.の10の位の数字に合わせます。
- 3 次に、右側のダイヤルスイッチ (×1側) を設定したいバンドNo.の1の位の数字に合わせます。
- 4 送信機側のバンドが上記のバンドに合っていることを確認後、送信機、受信機の順に電源スイッチをONにします。
- 5 正常に動作することを確認します。



サーボ S3010/S3151/S9252/S9255

サーボの接続方法および搭載時の安全上の注意点については「組込方法」のページをご覧ください。



<付属品>

セットには次のものが付属しています。

- 予備のサーボホーン
- サーボ取り付け用部品

リンク操作 (FASST-2.4GHzシステムの場合)

TM-10 モジュールとR6014FS受信機の場合、ご使用前にモジュールのIDコードを受信機に読み込ませる操作（リンク操作）を行う必要があります。一度リンク操作が行われると、そのIDコードは受信機に記憶され、その受信機を別の送信機で使用するまでは再リンク操作の必要はありません。

警告



リンク操作時は動力用モーターが接続された状態やエンジンがかかった状態では行わない。

■不意にモーターが回転したり、エンジンが吹け上がったりすると大変危険です。



リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源をOFFとし、リンクした送信機で操作ができることを確認してください。

お
使
い
に
な
る
前
に

次の手順に従ってリンク操作を行ってください。

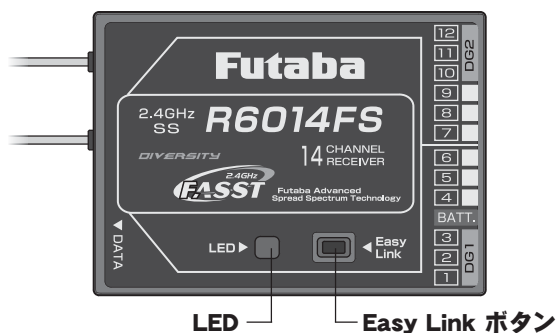
1 送信機と受信機を1m以内に近づけた状態で、送信機の電源をONにします。送信機の赤と青のモニターLEDが交互に点滅後、点灯状態となります。

2 上記の状態、受信機電源をONにしてください。

3 受信機のLEDが緑色の点滅を始めます。これは送信機からのRF信号を検知しているが、まだ、IDコードはリンクされていないことを示します。

*すでにリンクされている場合は緑色の点灯となります。

4 受信機のEasy Linkボタンを約2秒間押した後、離します。受信機はリンク処理を開始します。リンク処理が完了すると、受信機のLEDが緑の点灯に切り替わり、送信機と受信機が使用可能な状態となります。



受信機のLED表示

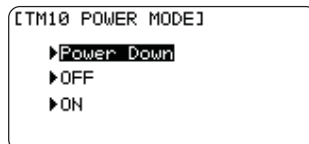
緑色	赤色	状態
消灯	点灯	無信号時
点灯	消灯	通常動作時
点滅	消灯	受信信号のIDが不一致
交互に点滅		受信機内部の異常 (EEPROM等)

パワーダウンモード (FASST-2.4GHzシステムの場合)

安全にご使用いただくために、飛行前には必ず距離テストを実行してください。T10C送信機 (TM-10モジュール使用時) には距離テスト専用のパワーダウンモードが搭載されています。

次の手順に従って距離テストを行ってください。

1 送信機のダイヤルを押しながら、送信機電源をONにし、パワーモード切替画面を呼び出します。"Power Down"が選択された状態でダイヤルを押します。



2 パワーダウンモードでRF出力され、ビープ音とともに送信機の青のLEDが2回点滅の状態となります。このパワーダウンモードは約90秒経過後、自動的に解除され、通常の状態となります。また、パワーダウンモード中にダイヤルを1秒以上押すと、その時点で解除されます。

3 スティック等を操作しながら、機体から離れて行きます。すべての操作が完全に正確に動作することを、機体のそばにいる助手に確認してもらいます。機体から30~50歩 (30m) 程度離れた位置で正常に動作することを確認します。

4 すべて正常に動作したら機体のそばに戻ります。スロットルスティックを最スローの状態としてから、エンジンやモーターを始動します。助手に機体を保持してもらい、エンジン回転数を変化させて距離テストを実行します。このとき、サーボがジッターしたり、操作とは異なる動きをする場合は何らかの問題があることが考えられます。原因を取り除くまではそのまま飛行しないでください。その他、サーボ接続のゆるみやリンケージの状態等も確認します。また、フルに充電されたバッテリーを使用してください。

(パワーダウンモード時の表示)

パワーダウンモード動作中、ビープ音とともに送信機の青色のモニターLEDが2回点滅の状態となります。

(その他のモード)

上記"TM10 POWER MODE"設定画面では、パワーダウンモードの他、カーソルレバーで"OFF"を選択した状態でダイヤルを押すと、送信出力を停止した状態で送信機の電源をONにすることができます。この場合、送信機の赤色のモニターLEDのみ点灯し、青色のLEDは消灯します。

また、"ON"を選択した状態でダイヤルを押すと、通常の状態となります。

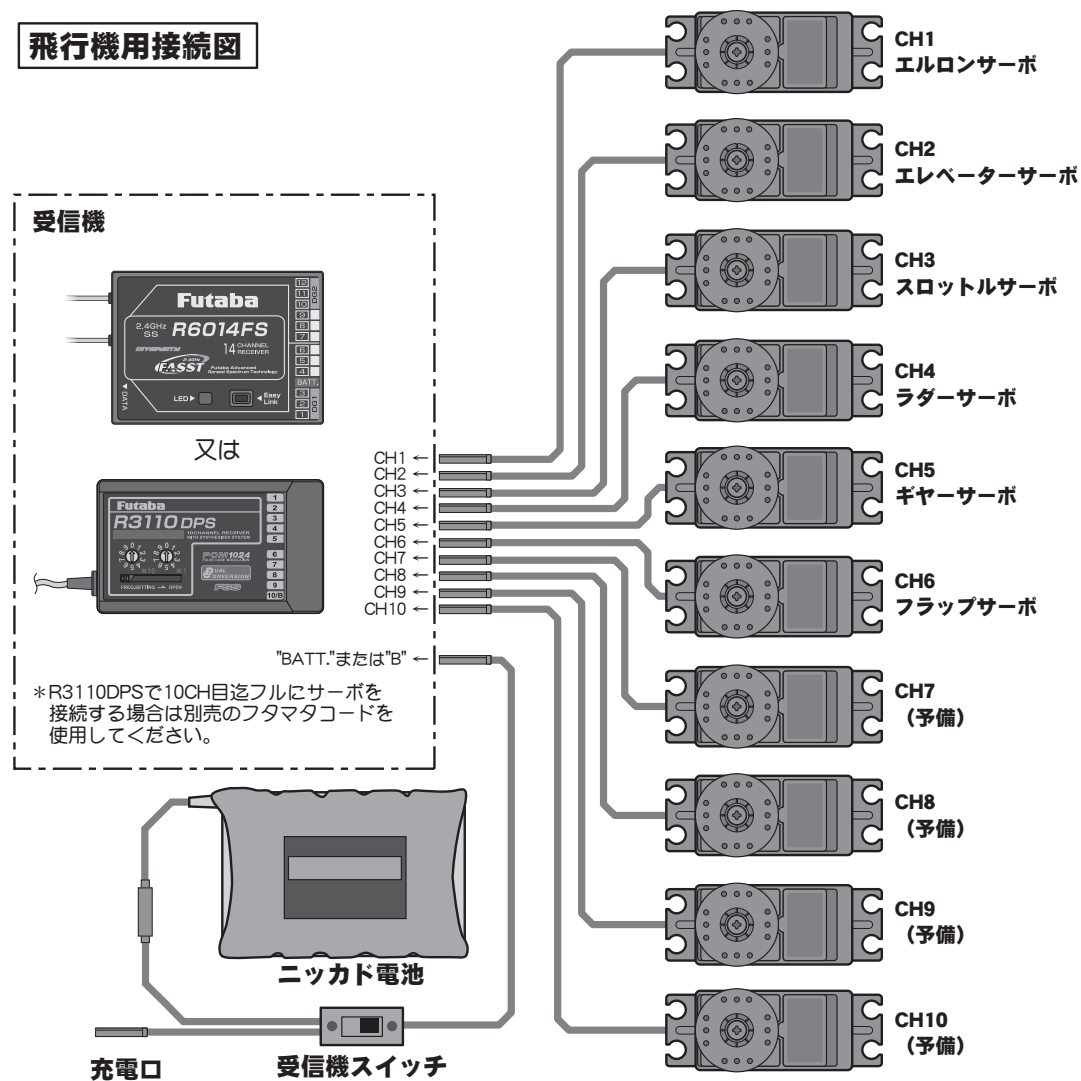
組込方法

受信機、サーボ等を機体へ組み込むときの接続方法および搭載方法を説明します。

受信機・サーボの接続方法

下図は飛行機の場合の接続例を示します。ご使用のウイングタイプ・テールタイプに合わせてサーボを接続してください。

飛行機用接続図



サーボ接続位置

下表はウイングタイプ・テールタイプ別のサーボ接続位置を示します。

受信機出力CH	飛行機 (ACRO)
1	エルロン/エルロン1(*1)/エルロン1 (フラップ2) (*2)/エルロン1 (エレベーター2) (*3)
2	エレベーター/エレベーター1 (エルロン2) (*3)/エレベーター1 (ラダー2) (*4)
3	スロットル
4	ラダー/ラダー1 (エレベーター2) (*4)
5	予備/ギヤ/エルロン2(*1,3)/フラップ1 (エルロン2) (*2,3)
6	予備/フラップ/フラップ1 (エルロン2) (*2)
7	予備/エルロン2(*1)
8	予備/エレベーター2(*4)/ミクスチャーコントロール
9	予備
10	予備

(*1)エルロンディファレンシャル機能使用時 (P72)

(*2)フラップロン機能使用時 (P69)

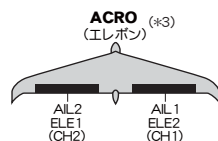
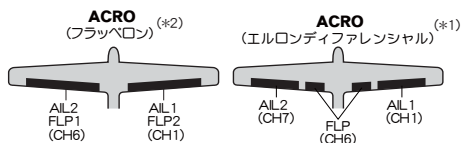
(*3)エレボン機能使用時 (P77)

(*4)Vテール機能使用時 (P76)

(*5)2ndエルロンを5ch目にも出力できるように設定時 (P56)

(*6)エレベーターに2サーボ使用時 (P79)

(ウイングタイプ)



(テールタイプ)

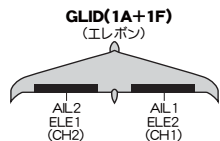
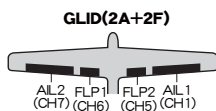
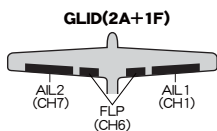
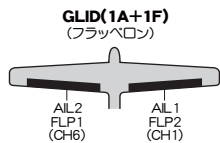


受信機出力CH	グライダー (GLID)			
	GLID (1A+1F)		GLID (2A+1F)	GLID (2A+2F)
	フラップロン(初期設定)	エレボン	(エルロンディファレンシャル)	(エルロンディファレンシャル)
1	エルロン1 (フラップ2)	エルロン1 (エレベーター2)	エルロン1	エルロン1
2	エレベーター/エレベーター1 (ラダー2) (*2)	エレベーター1 (エルロン2)	エレベーター/エレベーター1 (ラダー2) (*2)	エレベーター/エレベーター1 (ラダー2) (*2)
3	予備/モーター	予備/モーター	予備/モーター	予備/モーター/スポイラー2(*1)
4	ラダー/ラダー1 (エレベーター2) (*2)	ラダー	ラダー/ラダー1 (エレベーター2) (*2)	ラダー/ラダー1 (エレベーター2) (*2)
5	予備/スポイラー2(*1)	予備/スポイラー2(*1)	予備/スポイラー2(*1)	フラップ2
6	フラップ1 (エルロン2)	フラップ	フラップ	フラップ1
7	予備	予備	エルロン2	エルロン2
8	予備/スポイラー/スポイラー1(*1)	予備/スポイラー/スポイラー1(*1)	予備/スポイラー/スポイラー1(*1)	予備/スポイラー/スポイラー1(*1)
9	予備	予備	予備	予備
10	予備	予備	予備	予備

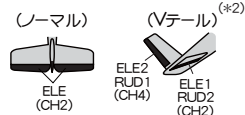
(*1)スポイラーに2サーボ使用時 (P133)

(*2)Vテールミキシング使用時 (P76)

(ウイングタイプ)



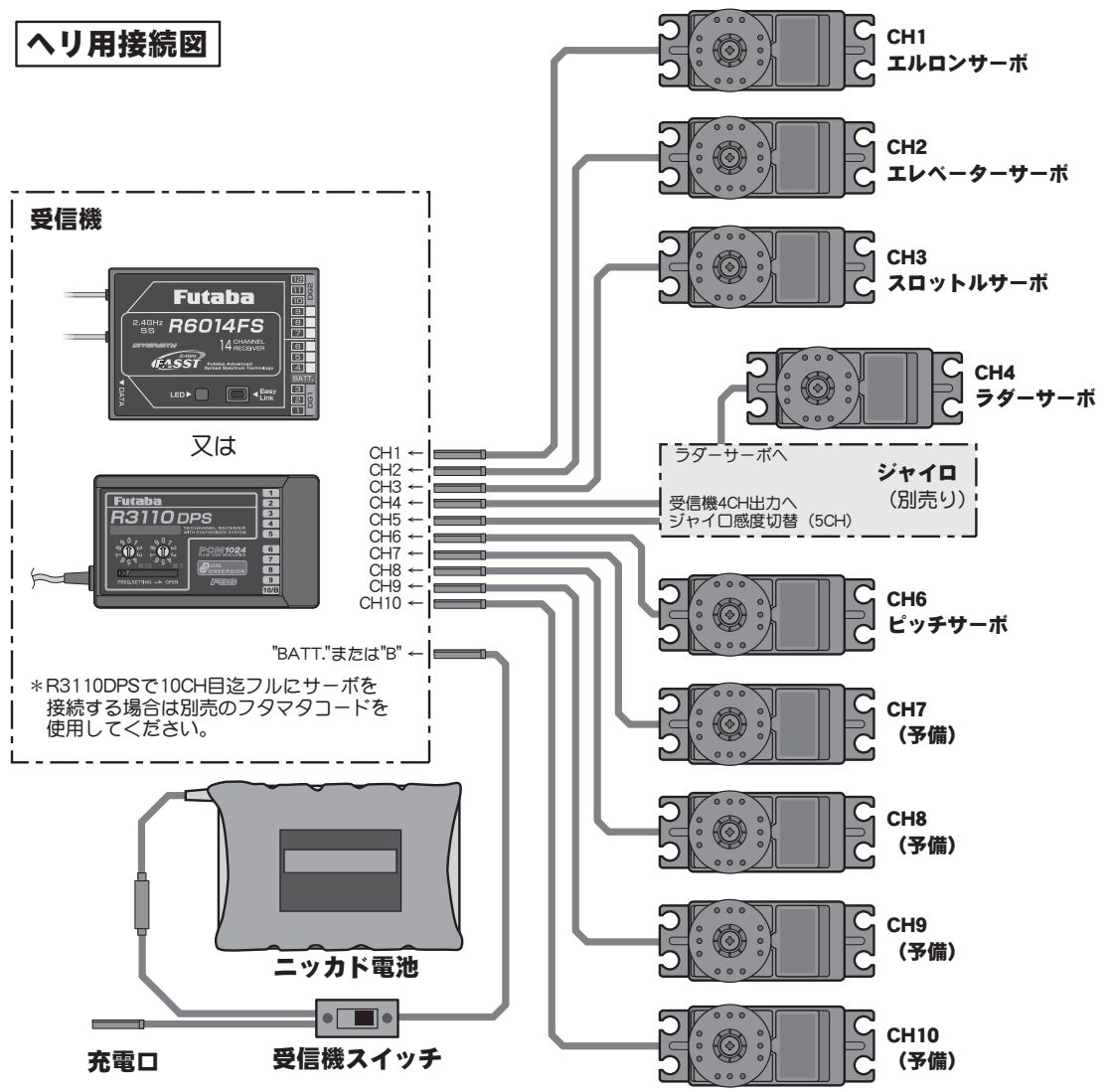
(テールタイプ)



下図はヘリの場合の接続例を示します。ご使用のスワッシュタイプに合わせてサーボを接続してください。

ヘリ用接続図

組
込
方
法

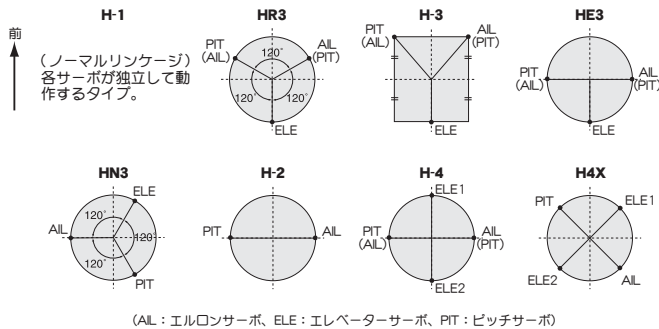


サーボ接続位置

下図はスワッシュタイプ別のサーボ接続位置を示します。

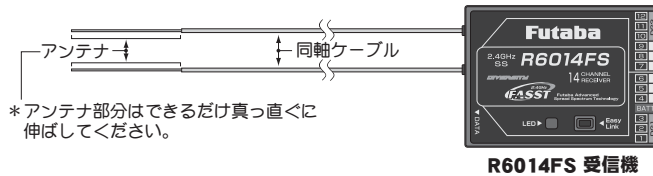
受信機 出力 CH	ヘリコプター (HELI)
1	エルロン
2	エレベーター
3	スロットル
4	ラダー
5	ジャイロ
6	ピッチ
7	予備／ガバナー
8	予備／ミクスチャーコントロール
9	予備
10	予備

(スワッシュタイプ)



R6014FS受信機の搭載

R6014FS受信機は従来周波数の受信機とはアンテナの構造や構成が異なります。



2つの異なる位置で信号を受信できるように、2つのアンテナが装備されています。(ダイバーシティ方式アンテナ) 2つのアンテナの受信状態の良い方に自動的に切り替えて常に安定した受信状態を確保しています。R6014FSの性能を発揮させるために、次の手順および注意事項に従って搭載してください。

組込方法

1 機体に受信機を搭載する場合、機体の振動から受信機を保護するため、従来周波数の受信機と同様にスポンジ等で防振対策を行ってください。

2 2つのアンテナ(同軸ケーブル部は除く)はできるだけ曲げないように搭載します。曲げると受信特性に影響があります。

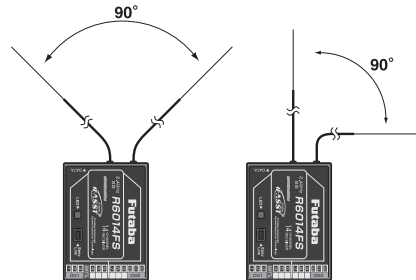
3 また、2つのアンテナがお互いに90度の位置関係になるようにし、アンテナ同士はできるだけ離して搭載することが重要です。

4 受信機アンテナの搭載位置の近くに、金属等の導電体がある場合、受信特性に影響を与える可能性があるため、アンテナはその導電体を挟んで、機体の両サイドに配置するようにします。これにより、機体姿勢に関係なく良好な受信特性が得られます。

5 アンテナは金属やカーボン等の導電体から少なくとも1cm以上離して搭載してください。なお、同軸ケーブル部は離す必要はありません。ただし、同軸ケーブルおよびアンテナはきつく曲げないでください。

6 機体がカーボンや金属を蒸着したフィルム等の導電性の材質で覆われている場合、アンテナ部分は必ず機体の外側に出ていることが必要です。また、上記と同様、アンテナを導電性の胴体に付けしないでください。

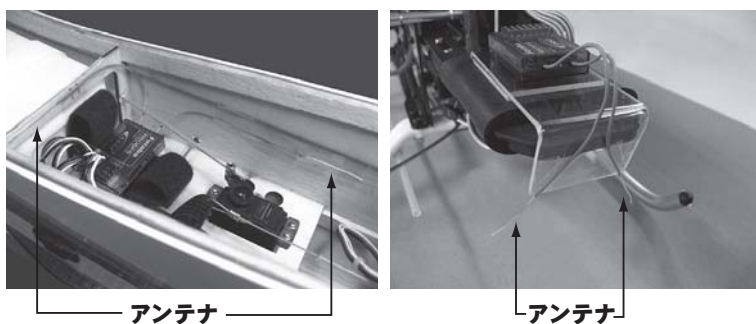
*例えば、グライダーの多くでカーボン製の胴体が使用されています。このような機体に受信機を搭載する場合は上記の注意を必ずお守りください。



警告

⊘ アンテナを引っ張ったり、余分な力を加えない。
■受信機内部でアンテナが断線してしまいます。

ⓘ アンテナはモーター、アンプおよびその他のノイズ源からできるだけ離す。



- * 上記写真は2つのアンテナの位置関係を示しています。実際の搭載時には、受信機は機体の振動から保護するため、スポンジに包んだり、機体の振動の影響を受けない場所に搭載します。
- * 受信機には壊れやすい電子部品が使用されています。振動、衝撃、高温等に対する保護対策を施してください。
- * 受信機は湿気の侵入を防止する構造ではありません。湿気が受信機内部に侵入すると、一時的に動作が停止したり、異常動作を引き起こす可能性があります。湿気の侵入を防ぐため、受信機をビニール袋等に入れて保護してください。燃料や排気からの保護にもなります。

組込時の安全上の注意

警告

コネクター接続について

- コネクターやクリスタルは奥まで確実に挿入する。
 - 飛行中に、機体の振動等でコネクター等が抜けると墜落します。特に、エルロンサーボへの延長コードを主翼につなぐ場合に、受信機側が抜けやすい。

受信機の防振／防水について

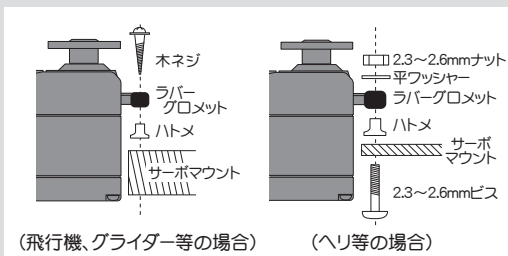
- 受信機はスポンジゴム等で包んで防振対策を行う。また、水のかかる恐れのある場合はビニール袋等に入れて、防水対策を行う。
 - 強い振動やショックを受けたり、水滴の侵入によって誤動作すると墜落します。

サーボの動作中について

- 各舵のサーボを動作中いっぱい動作させてみて、プッシュロッドがひっかかったり、たわんだりしないように調整する。
 - サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって墜落します。

サーボの取り付けについて

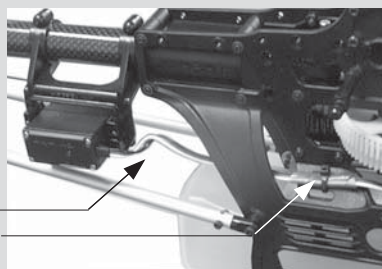
- サーボは防振ゴム（ラバーグロメット）を介してサーボマウント等に取り付ける。また、サーボケースがサーボマウント等の機体の一部に直接触れないように搭載する。
 - サーボケースが直接機体に触れていると、機体の振動が直接サーボに伝わり、その状態が続くとサーボが破損し墜落します。



サーボリード線の固定

- サーボのリード線は飛行中の振動に共振して断線することを防ぐため、突っ張らないよう少し余裕を持たせ、適当な位置で固定してください。また、日頃のメンテナンス時にも定期的を確認してください。

- (固定例)
- リード線に余裕を持たせる。
 - リード線が暴れないようサーボの出口から5~10cm程度のところを固定する。

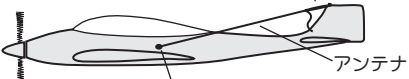


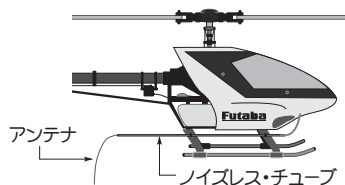
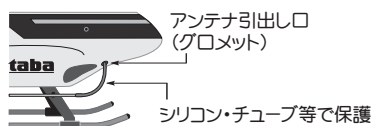
受信機アンテナについて (R3110DPSの場合)

- 受信機アンテナは切断したり束ねたりしない。また、サーボのリード線と一緒に束ねない。
- また、フレーム等の金属からはできるだけ離して下さい。
 - 切断したり、束ねたりすると、受信感度が下がって飛行範囲が狭くなって墜落します。

受信機アンテナの張り方 (R3110DPSの場合)

安定した受信状態を確保するため、下記の例に従ってアンテナを搭載してください。

- 輪ゴム等で軽くアンテナを引っ張って固定します。
- 
- アンテナ
- アンテナが機体から出てくる部分は、擦れて切れないように、ゴムブッシング等を使用してください。
 - また、アンテナが抜けないように内部で結び目を付けてください。



電源スイッチの取り付け

機体に受信機側電源スイッチを取付ける場合、スイッチのつまみ全ストロークより、多少大き目の長方形の孔を開け、ON/OFF が確実にスムーズに行えるように取付けてください。取り付けビスを変更しなければならないときは、スイッチの配線を押さないようビスの長さを選んでください。ショートすると火災、破損、墜落の原因となります。

また、エンジンオイル、ほこり等が直接かからない場所に取付けてください。一般的にマフラー排気の反対側の胴体側面に取付けます。

初期設定

飛行機セッティング手順 (一般的な120クラススタント機の場合)

飛行機のセッティング手順について、ここではF3A用のセッティングを例にとって説明します。実際に使用される機体に合わせて数値は読み替えてください。

次の設定を行う前に、ベーシックメニュー内のモデル機能(44ページ)を呼び出し、モデルセレクト機能で空いているモデルを選択します。また、モデルネーム機能でわかりやすいモデルの名前を登録しておく、後で呼び出す時に便利です。

また、パラメーター機能(56ページ)を呼び出し、モデルタイプ選択機能で、"ACROBATIC" (飛行機) が選ばれていることを確認します。別のタイプが選ばれている場合は、"ACROBATIC"を選択します。

1. 基本となる舵角を設定します

舵角を設定する前に各舵の方向が合っているかどうかを確認し、逆の場合はベーシックメニューのリバース機能(50ページ)で方向を合わせます。

【リバース】	→1:AILE	NOR
	2:ELEV	NOR
	3:THRO	NOR
CH1:エルロン	4:RUDD	NOR
	5:GEAR	NOR
REV NOR	6:FLAP	NOR
	7:AUX1	NOR
	8:AUX2	NOR

主翼のエルロンは、右翼に受信機の1CH(エルロン)、左翼に6CH(フラップ)を接続してください。そして、アドバンスメニューのフラップオン機能(69ページ)をONにします。エルロンとしての動作を確認してください。

【フラップオン】		
MIX▶INH		
	(L)	(R)
RATE▶AIL1▶+100%		+100%
AIL2▶+100%		+100%
FLP2▶+100%		
FLP1▶-100%		

まずエルロンは6本アーム型ホーン(ホーンB)の外側から2番目、エレベーター、ラダーは一番外側を使用します。微調整は送信機側で行います。

●舵角の調整(48ページ)

舵角設定はエンドポイント機能で行います。(ベーシックメニューから呼び出します)

【エンドポイント】	→1:AILE	100/100
	2:ELEV	100/100
	3:THRO	100/100
CH1:エルロン	4:RUDD	100/100
←→	5:GEAR	100/100
100% 100%	6:FLAP	100/100
	7:AUX1	100/100
	8:AUX2	100/100

(エルロンの設定)

左右のエルロン動作量が上下14~15mm程度動くように定規をあてて計ります。ずれている場合はエンドポイント機能で、エルロン(1CH)、フラップ(6CH)を調整します。90~110%の範囲で調整できるはずです。

(エレベーターの設定)

同様にエレベーターも上下15mm程度動くようにエンドポイント機能で調整します。

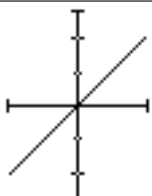
(ラダーの設定)

同様にラダーも左右45°程度動くようにエンドポイント機能で調整します。

●デュアルレート機能(D/R)の調整(46ページ)

飛行後のレート調整はデュアルレート機能(D/R)で行います。(ベーシックメニューから呼び出します)

【デュアルレート】		
CH▶1234		
AIL1(UP▼)		
←→		
D/R▶100%		100%
EXP▶0%		0%
SW1▶D		
SW2▶-		



とりあえず、下記の値に調整します。

(エルロンの設定)

上下11mm程度動くようにD/Rのレートを調整します。

同時に、エクスポネンシャル機能(EXP)も調整しましょう。EXPのレートを-20~-30%を入力しておくといいでしょう。

(エレベーターの設定)

上側12mm、下側13mm程度動くようにD/Rのレートを調整します。EXPは-15~-20%前後で良いでしょう。

(ラダーの設定)

左右40~45° くらい動くように調整してください。EXPも-20%前後で良いでしょう。

2. エアブレーキの設定

エルロンを両方上げ(アップ)て、エレベーターダウンにすることによりエアブレーキとして利用します。着陸時に失速しにくくなり、狭い飛行場に有利です。

[注意事項]

横風が強いときはエルロンのききが悪くなるので、エアブレーキの使用はおすすめできません。

●エアブレーキの設定(73ページ)

アドバンスメニューのエアブレーキを呼び出します。

```

【エアブレーキ】
  -rate-
AIL1▶+ 50%      MIX▶INH
ELEV▶- 10%      SW▶SwC
FLAP▶+ 50%      ▶DOWN
AIL2▶ ---      MODE▶Offset
  -delay-
ELEV▶ 0%
  
```

オフセットモード(Offset)とします。(通常はオフセットモードで使用します)

初期設定はSW(C)になっており、下側でONになっています。レートは初期設定の値で良いでしょう。

フラップレート(AIL1, FLAP)+50~+55%(1CH,6CHとも)、エレベーターレート(ELEV)-15%~-20%にセッティングすればOKです。SW(C)を下側にして動作を確認してください。

中スローで飛行したときに、機体が水平に飛ぶようにエレベーターレートで微調整してください。

3. スナップロールの設定

(80ページ)

アドバンスメニューのスナップロールを呼び出します。

```

【スナップロール】      (1:R/U)
                          MIX▶INH
-rate-
AIL1▶+100%      SAFE-MODE▶FREE
ELEV▶+100%      DIR-SW1▶NULL
RUDD▶+100%      2▶NULL
  
```

スナップロール機能を有効にして、まず方向切替えスイッチ(DIR-SW1, 2)を選択してください。そして、各方向切替えスイッチの位置毎に舵角をセッティングします。

エルロン：80~100%

エレベーター：90~110%

ラダー：60~70%

但し、方向によって極性が異なりますので注意してください。

これでとりあえずスナップができるはずですが、入りの悪い機体はエレベーターとラダーの舵角を増やしてください。なお、安全のためにセーフティスイッチもON(脚が出ている時はスナップロールしない安全機構)にしておいてください。

[注意事項]

舵角を増やしてもスナップロールしない場合は重心位置が前すぎるか、機体の特性によるものです。

これで一通りの設定は終わりましたが、最後にフェイルセーフ機能(F/S)(54ページ)をスロットルチャンネルに設定しておいた方が良いでしょう。もちろん、スロットル最スローに設定します。

初期設定

ヘリコプターセッティング手順 (一般的なヘリセッティング例)

ヘリのセッティング手順について、一般のヘリのセッティングを例にとって説明します。実際に使用される機体に合わせて数値は読み替えてください。

設定を行う前に、ベーシックメニューからモデル機能(44ページ)を呼び出し、モデルセレクト機能で空いているモデルを選択します。また、モデルネーム機能でモデルの名前を登録しておく、後で呼び出す時に便利です。

また、パラメーター機能(56ページ)を呼び出し、モデルタイプ選択機能でHELICOPTER(ヘリ)が選ばれていることを確認します。別のタイプが選ばれている場合は、HELICOPTERを選択します。(この設定ではスワッシュタイプは"H-I"とします。実際に使用される機体に合わせて変更してください。)

1.機体側のリンケージ

エルロン、エレベーター、スロットル、ラダー、ピッチの各舵をキットの取扱説明書に従ってリンケージします。

リンケージの動作方向が逆の場合は、ベーシックメニューのリバース機能(50ページ)により方向を合わせます。ジャイロの動作方向も合わせます。

スロットルに関してはトリム全閉でキャブレター全閉となり、エンジンカットできるようにリンケージしてください。

舵角は基本的にはサーボホーンで調整し、舵角調整機能(エンドポイント)(48ページ)で微調整します。

2.ノーマル/アイドルアップ/スロットルホールド切替スイッチ

アドバンスメニューのコンディションセレクト機能(??ページ)を呼び出し、切替スイッチを使用可能な状態に設定します。(初期設定はINH)

ノーマル : (スイッチOFFの時動作)

アイドルアップ1 : Eスイッチの真ん中で動作

アイドルアップ2 : Eスイッチの手前で動作

スロットルホールド : Gスイッチの手前で動作

優先順位はスロットルホールド/アイドルアップ2/アイドルアップ1/ノーマルで、スロットルホールドが最優先となります。

ノーマル : エンジン始動からホバリング演技に使用

アイドルアップ1 : 上空でループなどに使用

アイドルアップ2 : 上空でロールなどに使用

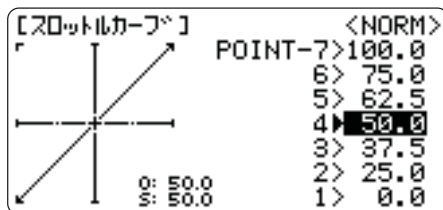
スロットルホールド : オートローテーションに使用

3.ノーマルの設定

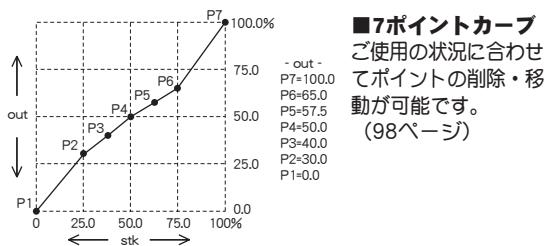
まず、ノーマルの設定を行います。アイドルアップ/スロットルホールドスイッチを全てOFFにすると、ノーマルの状態です。

●スロットルカーブ(93ページ)

ベーシックメニューからスロットルカーブ/N(ノーマル)を呼び出します。



スロットルカーブをとりあえず下図の値に設定してみます。



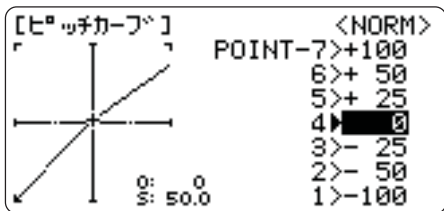
■7ポイントカーブ
ご使用の状況に合わせてポイントの削除・移動が可能です。(98ページ)

この設定は、ホバリング(4ポイント目)を基準に前後を寝かせたカーブで、ホバリング付近を鈍くしてあります。

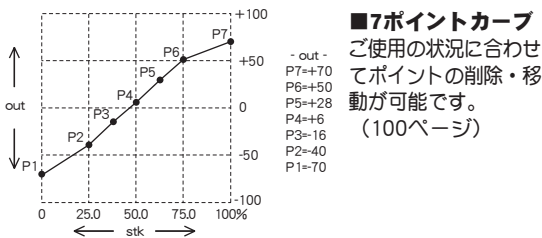
ホバリング時のレスポンス、回転数を見ながら、2~6ポイントで調整します。ピッチとの兼ね合いもあるので合わせて考えてください。

●ピッチカーブ/N(ノーマル)(94ページ)

ベーシックメニューからピッチカーブ/N(ノーマル)を呼び出します。



ピッチカーブをとりあえず次の表の値に設定してみます。



ホバリング時のピッチは約+5~6° にします。

この設定は、立ち上がりがスロー側で早く、ハイ側が遅くなるカーブです。

[調整ポイント1]

■離着陸ではポイント1、2を使い、上昇、下降時のレートに合わせてます。

[調整ポイント2]

■ホバリングではポイント4を基準にピッチ回転数を設定します。

■上昇側のセットはポイント5の数値を増減させることによりレスポンスを変えることができます。数値を増やすと敏感に、減らすと鈍感になります。スティックがポイント5を越えたときはポイント5の調整領域となります。

■下降側のセットはポイント3の数値を増減させることによってレスポンスを変えることができます。数値を増やすと鈍感に、減らすと敏感になります。

*ホバリングの時の安定は、スロットルカーブとの兼ね合いがあります。ホバリングスロットル、ホバリングピッチ機能を合わせて使うと調整が楽になります。

4.アイドルアップ1の設定

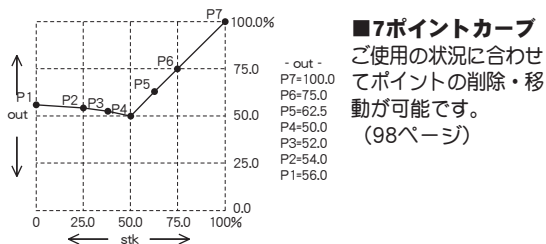
次にアイドルアップ1の設定を行います。アイドルアップ1は540° ストールターン、ループ、ローリングストールターンの演技に使用します。

アイドルアップスイッチ(Eスイッチ)を真ん中にするとうアイドルアップ1の状態です。

●スロットルカーブ(97ページ)

アドバンスメニューからスロットルカーブのアイドルアップ1(IDL1)を呼び出します。

次の値を設定してください。

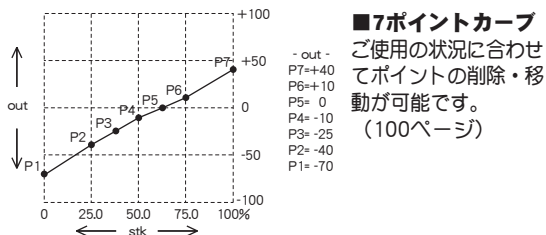


スロットルスティックをスロー側にしても回転を維持する設定となります。

●ピッチカーブ(99ページ)

アドバンスメニューからピッチカーブのアイドルアップ1(IDL1)を呼び出します。

アイドルアップ1のピッチカーブは、ポイント1、2をノーマルと同じ設定値とし、ホバリングよりハイ側は、使用エンジンにより、最大ピッチ角が8~10°の間になると思われます。



5.アイドルアップ2の設定

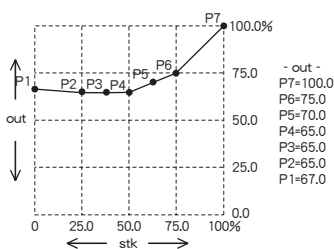
次に、アイドルアップ2の設定を行います。アイドルアップ2はロールの演技に使用します。

アイドルアップスイッチ(Eスイッチ)を手前とするとアイドルアップ2の状態です。

●スロットルカーブ(97ページ)

アドバンスメニューからスロットルカーブのアイドルアップ2(IDL2)を呼び出します。

次の値を設定してください。



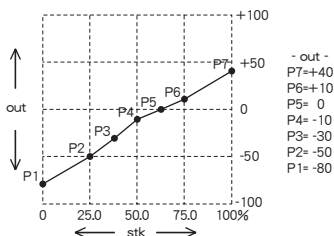
■7ポイントカーブ
ご使用の状況に合わせて
ポイントの削除・移動
が可能です。
(??ページ)

スロットルスティックをスロー側にしピッチをぬいた時でも、回転が維持できるアイドルアップ量となります。

●ピッチカーブ(99ページ)

アドバンスメニューからピッチカーブのアイドルアップ2(IDL2)を呼び出します。

ハイ側ピッチの設定はアイドルアップ1と同じ設定にします。カーブは下図の値に設定します。



■7ポイントカーブ
ご使用の状況に合わせて
ポイントの削除・移動
が可能です。
(100ページ)

この時の-ピッチはロールを行った時に機体をリフトできるピッチとします。

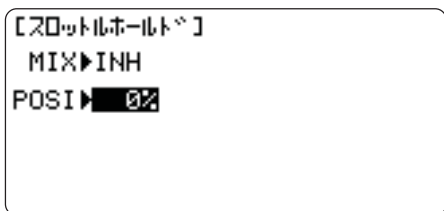
6.スロットルホールドの設定

次にスロットルホールドの設定を行います。スロットルホールドはオートローテーションに使用します。

スロットルホールドスイッチ(Gスイッチ)を手前にするとスロットルホールドの状態になります。

●スロットルホールド(107ページ)

アドバンスメニューからスロットルホールドを呼び出します。

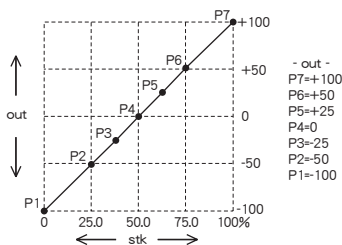


スロットルホールド時のサーボポジションを15%に設定します。(アイドルリングの状態とします)

●ピッチカーブ(99ページ)

アドバンスメニューからピッチカーブのホールド(HOLD)を呼び出します。

オートローテーションの場合はハイ/ロー側とも最大ピッチを使用します。



■7ポイントカーブ
ご使用の状況に合わせて
ポイントの削除・移動
が可能です。
(100ページ)

ピッチアップ時のリフトの状態は、ポイント2~6の調整により変えることができます。

[ピッチ角度の設定例]

- ノーマル : -2.5° ~4.5~10°
- アイドルアップ1 : -2.5° ~5.5~8(10)°
- アイドルアップ2 : -3° ~5.5° ~8(10)°
- スロットルホールド : -4° ~4.5° ~12°

7.ジャイロの感度切り替え

ジャイロ側に感度切り換えがある場合、ジャイロミキシング(103ページ)を使用して感度を切り替えます。

ジャイロ感度大 : ノーマル(ホバリング)

ジャイロ感度小 : アイドルアップ1/アイドルアップ2/スロットルホールド

但し、オートローテーション時にテール駆動されているヘリの場合は、ジャイロ感度大で効果がある場合もあります。

8.ピッチ→ラダーミキシングの設定

メインローターの反動トルクを抑えるミキシングで、各状態毎にミキシングのカーブが設定できます。(この機能は必要により設定してください。ただし、GYジャイロ等の高性能ジャイロをご使用の場合はこのミキシングは使用しません。)

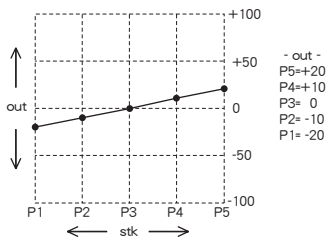
●ピッチ→ラダーミキシング(101ページ)

アドバンスメニューからピッチ→ラダーミキシングを呼び出します。

(ノーマル)

ホバリング系に使用し、離着陸、一定スピードの垂直上昇に合わせて設定します。

カーブは初期設定の値を調整します。

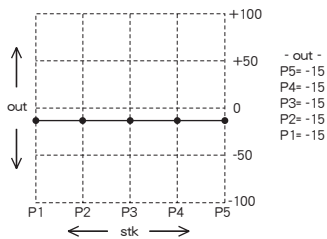


(アイドルアップ1)

540° ストールターン、ループ、ローリングストールターンに使用し、風に正対した状態で直進するように合わせます。

カーブは下図の値に設定します。

この数値に設定するとラダーがオフセットされます。



●スロットルホールド(107ページ)

直線オートローテーションで、直進するように設定します。テールローターのピッチ角は0° 近くになります。

設定値は-30%にします。

なお、アドバンスメニューのディレイ機能(DELAY)でディレイを設定します。設定値はおおよそ下記のとおり。

設定値は20~30%にします。

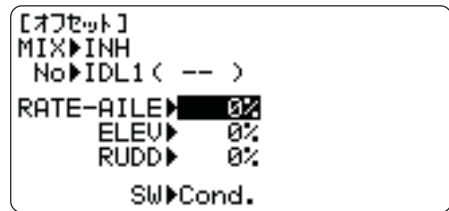
9.オフセット (トリムオフセット) の設定

アイドルアップ1及び2で設定を行います。

上空飛行時に、直進するようにエルロン、エレベーター、ラダーをオフセットします。風に正対した状態で調整します。

●オフセット(108ページ)

アドバンスメニューからオフセットを呼び出します。



エルロン、エレベーターで6~10%位のオフセット量になります。

ディレイの設定はアドバンスメニューのディレイで設定できます。

10.スロットルカットの設定

フライト終了時のエンジンカットをスロットルトリムではなく専用スイッチにてワンタッチで行なえます。

スイッチで行うため、トリムの位置を探す必要がありません。従っていつもアイドル位置が一定となります。

●スロットルカット(90ページ)

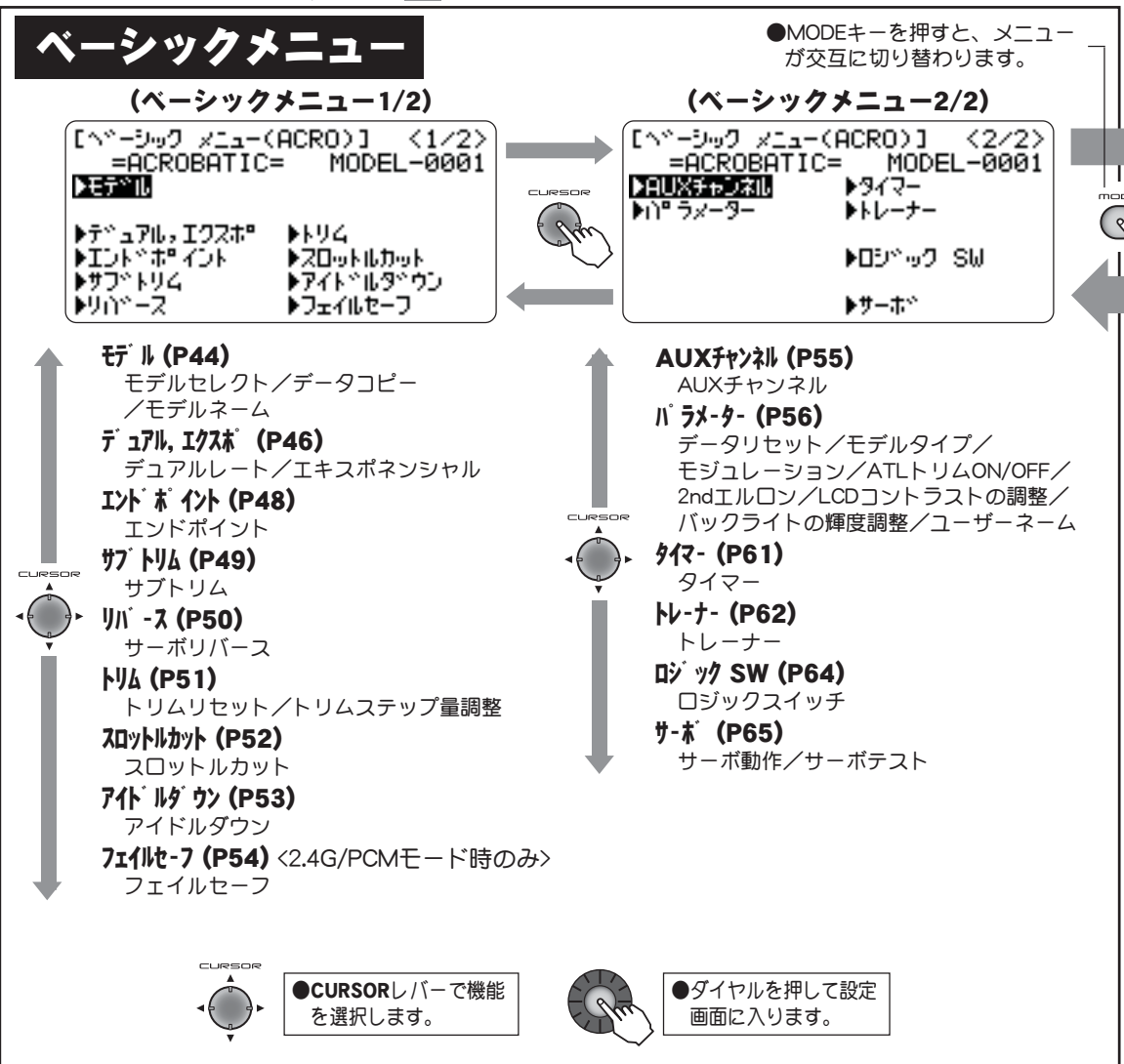
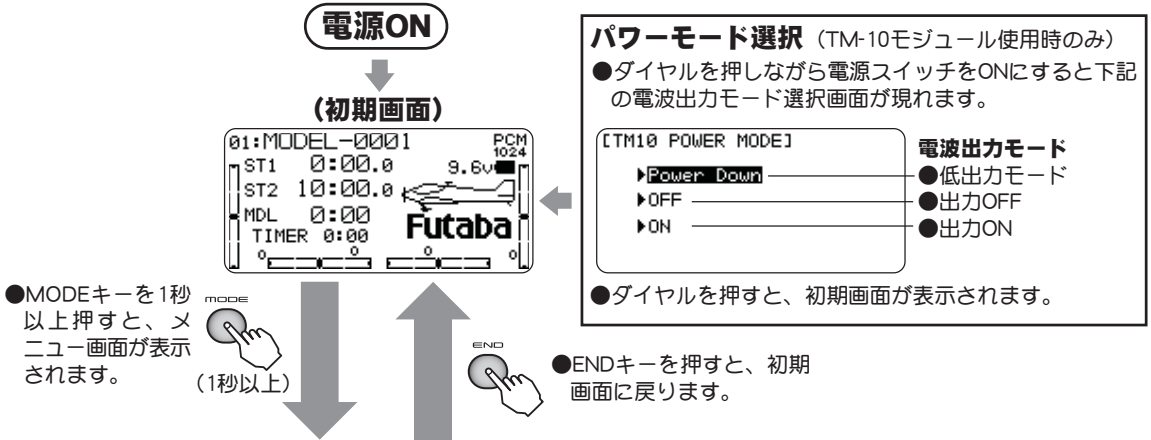
ベーシックメニューからスロットルカットを呼び出します。

機能を動作状態にします。

スロットルポジションはスロー側からスティックの目盛りで1目盛り上に合せます。これによりスローから1目盛りまでの間でのみエンジンカット機能が働き安全です。スロットルカットのオフセット量は"- "方向に大きくし、キャブレターが全閉になるように調整します。

飛行機用(ACRO)機能

各機能の設定画面は、ベーシックメニューおよびアドバンスメニューから呼び出します。
モデルタイプが飛行機用 (ACRO) に設定されている場合の機能を示します。



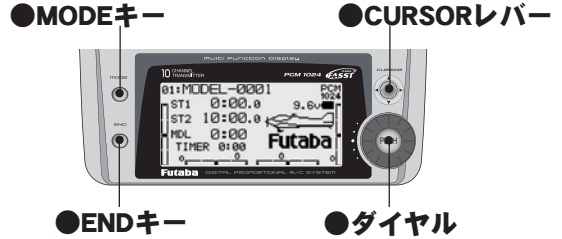
送信機設定画面

●MODEキーとENDキーを同時に押しながら電源スイッチをONにすると、下記の送信機設定画面が現れます。

[リウジンキ セッテイ]	
STK-MODE▶	●スティックモード
THR-REV▶NOR	●スロットルリバース
ヒョウシ▶ニホンゴ◀(JPN)	●言語
TM10-MODE▶GENERAL	●エリアセレクト
(機能説明：P23)	

●設定終了後、電源スイッチをOFFにします。

エディットキー /LCD画面



(アドバンスメニュー1/2)

[アドバンス メニュー<ACRO>] <1/2>	
=ACROBATIC= MODEL-0001	
▶PROG.MIX1-8	
▶フラップオン	▶エアブレーキ
▶フラップトリム	▶エレベーター→フラップ
▶ディファレンシャル	▶エルベーター
	▶スナップロール

アドバンスメニュー

(アドバンスメニュー2/2)

[アドバンス メニュー<ACRO>] <2/2>	
=ACROBATIC= MODEL-0001	
▶Vテール	▶スロットルカーブ
▶エレボン	▶スロットルディレイ
▶ジャイロミキシング	▶スロットル→ニードル

PROG.MIX1-8 (P66)

プログラマブルミキシング1~8

フラップオン (P69)

フラップオン

フラップトリム (P71)

フラップトリム

ディファレンシャル (P72)

エルロンディファレンシャル

エアブレーキ (P73)

エアブレーキ

エレベーター→フラップ (P75)

エレベーター→フラップミキシング

エルベーター (P79)

エルベーター

スナップロール (P80)

スナップロール

Vテール (P76)

Vテール

エレボン (P77)

エレボン

ジャイロミキシング (P83)

ジャイロミキシング

スロットルカーブ (P84)

スロットルカーブ

スロットルディレイ (P81)

スロットルディレイ

スロットル→ニードル (P82)

スロットル→ニードルミキシング



●CURSORレバーで機能を
を選択します。



●ダイヤルを押して設定
画面に入ります。

機能説明

このモデル機能で、送信機本体および着脱可能なデータパックDP-16K/128K（別売りのメモリーモジュール）に記憶されたモデルデータの呼び出しやコピーが行なえます。また、それぞれのモデルデータに名前を付けることができます。

モデルセレクト (SELECT)

本体に15機分、データパックが装着されている場合は容量に応じてモデルデータをメモリーすることができます。メモリーされたモデルデータを呼び出すときにこのモデルセレクト機能を使用します。

- 旧バージョンT9C/T9CSのデータパックのデータは直接呼出すことはできませんが、T10Cのデータに変換して、本体側の現在呼出されているモデルにコピーすることが可能です。新機能のデータについては自動的に初期値が入力されます。

データコピー (COPY)

モデルデータのコピー機能です。モデルデータをバックアップとして保存したり、同じような設定データのモデルをいくつも作りたい時などに便利な機能です。

バックアップとして保存したり、他の送信機にデータをコピーしたりする場合、別売りのデータパックを使用するとさらに便利です。

- 現在使用しているモデルメモリーのデータを他のモデルメモリーへコピーすることができます。
- 旧バージョンT9C/T9CSのデータパックへはコピーできません。

モデルネーム (NAME)

モデルデータに名前を付ける機能です。モデルネームはいつも初期画面の上段に表示されます。現在使用している機体名等を入力すると、モデルメモリーの間違い防止に役立ちます。

- 初期設定では"MODEL-0001"のようにモデルデータNo.がモデルネームになっています。
- 文字数は10文字まで。アルファベット、スペース、記号、数字等を使用できます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態、"MODE"キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ゼル"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

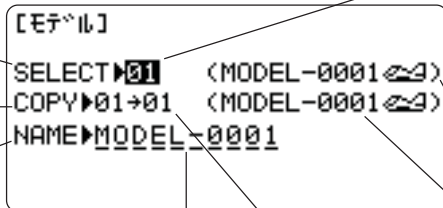
③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(モデル機能 設定画面)



モデルセレクト
モデルコピー
モデルネーム



(モデルNo.)
01~15 (本体側)
16(P)~ (データパック側)
(データパック)
16kの場合: 16(P)~19(P)
128kの場合: 16(P)~48(P)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。モデルネームは各桁もセレクトキーで選択します。

(モデルネーム: 10桁)

(コピー元) → (コピー先)

- 現在選択されているモデルのモデルネームとモデルタイプを表示
- コピー先のモデルのモデルネームとモデルタイプを表示

モデルセレクト

- ①モデルセレクトの項目が選択された状態でダイヤルを回してモデルNo.を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：

01～15 (本体)

16(P)～ (データパック)

- ②ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

- 画面上に確認メッセージ"Are you sure?"が点滅表示されます。

- ③ダイヤルを押してモデルの選択を実行します。



- 「ピピッ」という確認音がして、選択が完了したことを知らせます。

安全のため、ダブルセット方式を採用しています。確認メッセージ表示後、変更を取りやめるときは、**CURSOR**レバーで別の設定項目に移動すると変更されません。

●T9C/T9CSデータの変換

T9C/T9CSシリーズのモデルデータを保存したデータパックを装着し電源スイッチを入れると、データパックのイニシャライズ画面が現れますが、イニシャライズは実行しないでください。実行するとデータが消去されます。(詳細は18ページを参照)

モデル設定画面を開くとデータの変換の項目が現れます。データの変換の項目にカーソルを移動し、ダイヤルを回して変換したいモデルを選択し、ダイヤルを1秒以上押すと確認メッセージが表示されます。再度ダイヤルを押すと、T10Cのデータに変換され、現在使用中のモデルに上書きされます。

【モデル】

```
SELECT▶01 (MODEL-0001)
COPY▶01→01 (MODEL-0001)
NAME▶MODEL-0001
-- T9C/T9CS Pac --
CONV▶01←Pac01(MODEL-13)
```

データの変換

(データパック内のモデル名およびモデルタイプ)

*変換時、基本的なミキシング以外は"INH"になります。必ず変換データを確認後使用してください。

モデルコピー

- ①モデルコピーの項目が選択された状態でダイヤルを回してコピー先のモデルNo.を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：

01～15 (本体)

16(P)～ (データパック)

- ②ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

- 画面上に確認メッセージ"Are you sure?"が点滅表示されます。

- ③ダイヤルを押してコピーを実行します。



- コピーが開始され「ピピッ、ピピッ、ピピッ、・・・」の断続音の後「ピー」と連続音がしてコピーが完了したことを知らせます。画面上にはコピー中を示す矢印表示が現れます。

安全のため、ダブルセット方式を採用しています。確認メッセージ表示後、コピーを取りやめるときは、**CURSOR**レバーで別の設定項目に移動すると変更されません。

アラーム音が鳴っている間に電源スイッチをOFFにすると、正常にコピーされない場合があります。

モデルネーム

- ①モデルネームの変更したい桁を選択した状態でダイヤルを回して文字を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- ②その他の変更したい桁を選択し、①と同様に文字を選択します。

- 入力できる文字
アルファベット大文字/アルファベット小文字/カタカナ/数字/記号

機能説明

(このD/R、EXPの説明は飛行機、グライダーの場合を示します。)

デュアルレート (D/R)

演技によって、エルロン、エレベーター、ラダーの各チャンネルを初期舵角以外の舵角に切り替えて使いたい場合に使用します。

- 舵角調整はスイッチの各方向で、各チャンネルの左右（上下）方向が個別に設定できます。
- スティックに連動させることができます。

エキスポネンシャル (EXP)

エルロン、エレベーター、スロットル（飛行機の場合）、エアブレーキ（グライダーの場合）、ラダーのニュートラル付近のスティック動作に対するサーボの動きを鈍くしたり、または、敏感にして、操縦を楽に行えるような動作カーブに変更する機能です。

- "-"側はニュートラル付近が鈍くなり、"+"側は逆に敏感になります。スロットル、エアブレーキについては振り巾全体にエキスポネンシャルが掛かります。"-側を増やすと、スロー側が鈍くなり、ハイ側は敏感になります。スロットルカーブとの共用はできません。
- デュアルレート(D/R)のそれぞれのレートに対応して設定できます。スイッチの各方向および各チャンネルの左右（上下）方向が個別に設定できます。

スイッチ選択 (SW1)

デュアルレート（エキスポネンシャル）の切替スイッチをそれぞれ選択できます。

(選択できるスイッチ等)

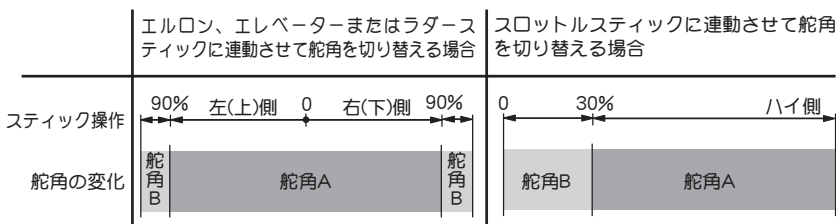
- スイッチA～H
- スティック1～4ch
- コンディション（GLIDの場合のみ）

(初期設定位置)

- エルロン：スイッチD
- エレベーター：スイッチA
- ラダー：スイッチB

(スティックを選択した場合)

スティックを選択した場合、舵角切替のポイントを設定できます。



スイッチ選択 (SW2) (ACROの場合のみ)

上記のスイッチ選択 (SW1) でスティックを選択した場合にのみ、"SW2"の項目で機能のON/OFFスイッチを選択できます。ON/OFF方向も選択可能。("NULL"は常時ON)

設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"デュアル、エキス"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

- ③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(D/R,EXP 設定画面)

デュアルレート
EXP
スイッチ選択1
スイッチ選択2

●設定項目の選択は**CURSOR**レバーで行ないます。

(チャンネルNo.表示)
(スイッチ方向表示)

●デュアルレート、エクスポネンシャルの設定値をカーブで表示します。

＜チャンネル表示＞

ACRO	GLID
1 AILE AILE	
2 ELEV ELEV	
3 THRO ARBK	
4 RUDD RUDD	

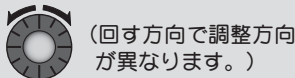
(スイッチNo.) (左側/下側) (右側/上側)のレート表示

デュアルレート

- ①デュアルレートの項目が選択されている状態で、**CURSOR**レバーで設定したいチャンネルを選択します。



- ②デュアルレートスイッチを設定したい方向に切替え、スティックを左(下)側または右(上)側に操作した状態でダイヤルを回してレートを調整します。



- ③デュアルレートスイッチ、スティックの各方向を②と同様に調整します。

調整範囲：0～140%
初期値：100%

- 設定値を初期値に戻したい場合、ダイヤルを1秒以上押しします。
-
- (1秒以上)



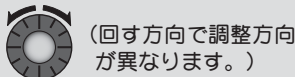
●**CURSOR**レバーで同一チャンネルの別の設定項目への移動が可能。

エクスポネンシャル

- ①エクスポネンシャルの項目が選択されている状態で、**CURSOR**レバーで設定したいチャンネルを選択します。



- ②デュアルレートスイッチを設定したい方向に切替え、スティックを左(下)側または右(上)側に操作した状態でダイヤルを回してレートを調整します。



- ③デュアルレートスイッチ、スティックの各方向を②と同様に調整します。

調整範囲：-100～+100%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合、ダイヤルを1秒以上押しします。
-
- (1秒以上)



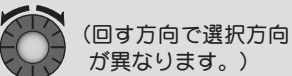
●**CURSOR**レバーで同一チャンネルの別の設定項目への移動が可能。

スイッチ選択1

- ①スイッチ選択1の項目が選択されている状態で、**CURSOR**レバーで設定したいチャンネルを選択します。



- ②ダイヤルを回してスイッチを選択します。

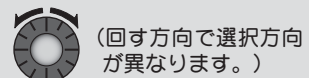


- (スティックを選択した場合)
③スティックを舵角切替のポイントに操作しダイヤルを1秒以上押しして切替ポイントを設定します。



スイッチ選択2

- ("SW2"も使用する場合)
①スイッチ選択2の項目が選択されている状態でダイヤルを回してスイッチおよび方向を選択します。



選択範囲：
NULL(常時ON), A, B, D, F, G, H
初期値：NULL(常時ON)

機能説明

機体の各舵の初期舵角を決める機能です。

- サーボの動作量を左右片側ずつ調整できます。

サーボの振り角について

100%設定時の各チャンネルのサーボの振り角は、1~4CHが約40度、5~8CHは約55度です。ただし、5~8CHは110%程度でサーボの最大舵角となります。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エンドポイント"を選択します。

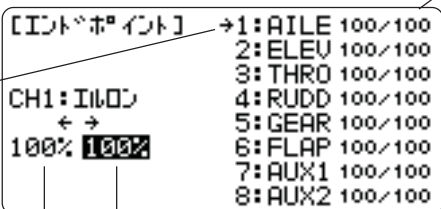


- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(舵角調整 設定画面)



- 設定チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。



(左側/下側)のレート表示 (右側/上側)のレート表示

- 各チャンネルの設定レートが表示されます。

<チャンネル表示>

	GLID				
ACRO	1A-1F	2A-1F	2A-2F	HELI	
1	AIL	AIL	AIL	AIL	AIL
2	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV
3	THRO	ARBK	ARBK	ARBK	THRO
4	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD
5	GEAR	AUX1	AUX1	FLP2	GYRO
6	FLAP	FLAP	FLAP	FLP1	PITC
7	AUX1	AUX2	AIL2	AIL2	AUX1
8	AUX2	AUX3	AUX2	AUX	AUX2

舵角調整

①CURSORレバーでチャンネルを選択します。



選択範囲：1~8ch

②選択したチャンネルのスティックやツマミ等を左(下)側または右(上)側いっぱい操作した状態でダイヤルを回して舵角を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

③反対方向も②と同様に調整します。

調整範囲：0~140%
初期値：100%

- 設定値を初期値に戻したい場合、ダイヤルを1秒以上押し。



(1秒以上)

機能説明

このサブトリム機能は、リンクージ時のサーボ個々のニュートラル調整に使用するトリム機能です。サブトリムを設定するときは、トリムをセンター位置にセットしてから行ってください。

設定上の注意

サブトリムを大きくとりすぎると最大舵角時にサーボの動作範囲を超え、サーボが動作しない不感帯が発生することがあります。サブトリム使用量を最小限に押さえられるように、まずリンクージを工夫しましょう。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"サブトリム"を選択します。



●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(サブトリム 設定画面)

```

【サブトリム】 →1:AILE 0
                  2:ELEV 0
                  3:THRO 0
                  4:RUDD 0
                  5:GEAR 0
                  6:FLAP 0
                  7:AUX1 0
                  8:AUX2 0
    
```

サブトリム設定量の表示

●各チャンネルの設定量が表示されます。

<チャンネル表示>

	GLID				
	1A-1F	2A-1F	2A-2F		HELI
ACRO					
1	AILE	AILE	AILE	AILE	AILE
2	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV
3	THRO	ARBK	ARBK	ARBK	THRO
4	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD
5	GEAR	AUX1	AUX1	FLP2	GYRO
6	FLAP	FLAP	FLAP	FLP1	PITC
7	AUX1	AUX2	AIL2	AIL2	AUX1
8	AUX2	AUX3	AUX2	AUX	AUX2

●設定チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。



サブトリム

①CURSORレバーでチャンネルを選択します。



選択範囲：1～8ch

②ダイヤルを回してサブトリム量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-120～+120%
初期値：0%

●設定値を初期値に戻したい場合、ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

機能説明

サーボの動作方向を変えたいときに使用する機能です。

設定上の注意

飛行機やグライダーの場合、特にエルロンの方向は間違いやすいので十分注意しましょう。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"リバース"を選択します。



●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



誤設定防止のため、上記でサーボリバース画面を呼び出した後、CURSORレバーを上側または下側に操作することにより、下記の設定画面に切り替わります。



(サーボリバース 設定画面)

[リバース]	→1:AILE	NOR
	2:ELEV	NOR
	3:THRO	NOR
	4:RUDD	NOR
	5:GEAR	NOR
	6:FLAP	NOR
	7:AUX1	NOR
	8:AUX2	NOR

●設定チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。



リバース側 ノーマル側

●反転表示側が現在の設定方向。
上図ではノーマル側。

●各チャンネルの設定方向が表示されます。

<チャンネル表示>
GLID

	ACRO	1A-1F	2A-1F	2A-2F	HELI
1	AILE	AILE	AILE	AILE	AILE
2	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV
3	THRO	ARBK	ARBK	ARBK	THRO
4	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD
5	GEAR	AUX1	AUX1	FLP2	GYRO
6	FLAP	FLAP	FLAP	FLP1	PITC
7	AUX1	AUX2	AIL2	AIL2	AUX1
8	AUX2	AUX3	AUX2	AUX	AUX2

飛行機用機能

サーボリバース

①CURSORレバーで、チャンネルを選択します。



選択範囲：1~8ch

②ダイヤルを回して動作方向を切替えます。



ノーマル側：時計方向。
リバース側：反時計方向。

●画面上に確認メッセージ"Are you sure?"が点滅表示されます。

②ダイヤルを1秒以上押し、動作方向の反転を実行します。



(1秒以上)

NOR：ノーマル側
REV：リバース側

設定範囲：NOR, REV
初期値：NOR

機能説明

トリムリセット

使用中のモデルメモリーのトリムをセンター（初期状態）に戻す機能です。
ただし、このときサブトリムおよびトリムステップ量はリセットされません。

トリムステップ

機体の性能やトリムの用途により、ステップあたりのトリム変化量を1~40の間で変更できます。用途に合わせて設定してください。通常の機体では2~10位の設定でよいでしょう。（初期値：4）

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"トリム"を選択します。



●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



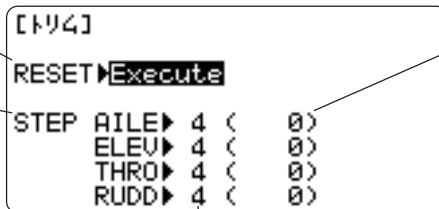
(トリム機能 設定画面)



トリムリセット

トリムステップ

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



●()内の数値は現在のトリム位置を示します。
(トリムの動作範囲は選択チャンネルにより、←120~→120または↑120~↓120)

(各チャンネルのステップ量)

●例えば、ステップ量が初期値(4)の場合、トリムはセンターから端までを30ステップで移動します。ステップ量を40とすると、3ステップで移動します。

<チャンネル表示>

	ACRO	GLID	HELI
1	AILE	AILE	AILE
2	ELEV	ELEV	ELEV
3	THRO	ARBK	THRO
4	RUDD	RUDD	RUDD

トリムリセット

①トリムリセットの項目が選択された状態でダイヤルを1秒以上押します。



●「ピピッ」という確認音がしてトリムリセットが完了したことを知らせます。このとき、トリム位置の数値が"0"に戻ります。

トリムステップ

①CURSORレバーでトリムステップの項目のチャンネルを選択します。



選択範囲：1~4ch

②ダイヤルを回してステップ量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：1~40
初期値：4

●設定値を初期値に戻したい場合、ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

機能説明

(このスロットルカットの説明は飛行機の場合を示します。)

スロットルスティックが最スローの時、スイッチ操作によりエンジンカット（ストップ）できる機能です。スロットルカットが働くと、スロットルサーボはそのときのスティック操作位置に対して、設定された量だけスロー側にオフセットします。ただし、オフセット量は最スロー側で最大で、ハイ側では変化しません。

- 機能操作はスイッチA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。（ロジックスイッチの設定方法は??ページをご参照ください。）
- 安全のためにもスロットルカット機能を設定しておきましょう。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットルカット"を選択します。

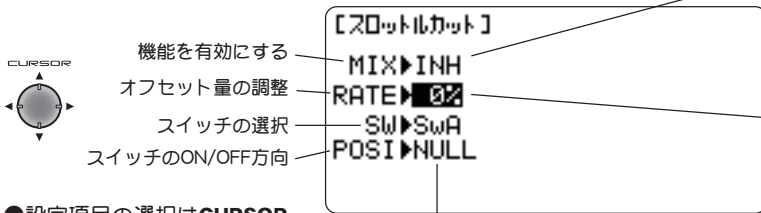


- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(スロットルカット 設定画面)



- "INH"の場合は機能が使用できない状態。"ON"または"OFF"の場合は機能が有効な状態。ON、OFFはスイッチに連動して変化します。

- オフセット量はスロットルスティックの最スロー側で最大となり、ハイ側では変化しません。

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

- NULL (常時OFF)、UP (上でON)、Up&Down (上または下でON)、Up&Cntr (上またはセンターでON)、CENTER (センターでON)、Cntr&Dn (センターまたは下でON)、DOWN (下でON)
- ロジックスイッチの場合、NULL (常時OFF)、REV (ON方向が反転)、NORM (ロジックスイッチの設定どおり)

スロットルカット

①"MIX"の項目を選択した状態でダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"RATE"の項目を選択した状態でダイヤルを回してオフセット量を調整します。



- (回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0~40%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)

③"SW"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチを選択します。



- (回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, Ls1~Ls3
初期値：A

④"POSI"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



- (回す方向で選択方向が異なります。)

調整範囲：
2ポジションSWの場合、NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr, CENTER, Cntr&Dn, DOWN
ロジックスイッチの場合 NULL, REV, NORM
初期値：NULL

機能説明

エアブレーキスイッチやギアスイッチと連動させてエンジンのアイドルを下げる機能です。上空飛行中のエンストを防ぐため、エンジンのアイドルを高め設定し、着陸時にエンジンのアイドルを下げたい時に使用します。

- アイドル降下量が設定できます。
- アイドルダウン動作時、スロットルトリムレバーはアイドルダウン降下量を調整するレバーとなります。
- 機能操作はスイッチA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。(ロジックスイッチの設定方法は??ページをご参照ください。)

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"アイドルダウン"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(アイドルダウン 設定画面)



- 機能を有効にする
- アイドルダウン降下量の調整
- スイッチの選択
- スイッチのON/OFF方向

【アイドルダウン】

MIX▶INH

RATE▶0%

SW▶SwC

POSI▶Cntr&Dn

- "INH"の場合は機能が使用できない状態。"ON"または"OFF"の場合は機能が有効な状態。ON、OFFはスイッチに連動して変化します。

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

- NULL (常時OFF)、UP (上でON)、Up&Down (上または下でON)、Up&Cntr (上またはセンターでON)、CENTER (センターでON)、Cntr&Dn (センターまたは下でON)、DOWN (下でON)
- ロジックスイッチの場合、NULL (常時OFF)、REV (ON方向が反転)、NORM (ロジックスイッチの設定どおり)

アイドルダウン

①"MIX"の項目を選択した状態でダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"RATE"の項目を選択した状態でダイヤルを回してアイドルダウン降下量を調整します。



- (回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0~40%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し。(1秒以上)

③"SW"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチを選択します。



- (回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, Ls1~Ls3
初期値：A

④"POSI"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



- (回す方向で選択方向が異なります。)

調整範囲：
2ポジションSWの場合、NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr, CENTER, Cntr&Dn, DOWN
ロジックスイッチの場合 NULL, REV, NORM
初期値：Cntr&Dn

- アイドル降下量は通常10%~20%ぐらいが適当です。機体を固定し、エンジンを回しながらスロットルスティックを最スローの状態ですwitchをON,OFFしながらアイドル降下量を調整します。

(2.4G-7CHモード使用時のフェイルセーフ機能は3CHのみ)

機能説明

ノイズや混信等で正常な電波が受信できなくなった場合、各チャンネルのサーボを受信できなくなる直前の位置に保持する"NOR" (ノーマル) 機能またはあらかじめ設定した位置に動作させる"F/S" (フェイルセーフ) 機能を選択できます。

- フェイルセーフデータは2分毎に自動転送されます。ただし、電源ON後→10秒→1分→2分 (以降2分毎) にデータ転送されます。
- サーボリバース機能で、スロットルチャンネルを反転した場合、F/Sのデータも連動して反転します。(スロットルチャンネルのみ)

(バッテリーフェイルセーフ機能について)

2.4GまたはPCM受信機を使用する場合、受信機・サーボ側のニッカド電池の電圧が約3.8V迄下がるとバッテリーフェイルセーフ機能が動き、スロットルチャンネルのみフェイルセーフ機能であらかじめ設定した位置にサーボが動作します。この機能が働いた場合は、バッテリーフェイルセーフ機能を下記の方法でいったん解除し、直ちに着陸して下さい。

- 解除方法：バッテリーフェイルセーフ機能は、スロットルスティックを最スロー側に操作することにより一時的に解除できます。ただし、30秒後に再びバッテリーフェイルセーフ状態にもどります。

警告

- 安全上、必ずフェイルセーフ機能の設定を行なってください。特にスロットルチャンネルについては、飛行機の場合最スロー、ヘリの場合はホバリング位置よりスロー側になるように設定します。混信等で正しく電波を受信できなくなった場合に、フルハイで墜落すると大変危険です。
- フェイルセーフ機能は2.4G/PCMモード時のみ使用が可能です。2.4G/PCMモードでF/Sを設定した後、PPMモードに切替えて使用すると、F/S機能は動きません。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"フェイルセーフ"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(F/S機能 設定画面)



- 設定チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。

F/S: フェイルセーフ側
NOR: ノーマル側

【フェイルセーフ】		→1: AILE	NOR
		2: ELEV	NOR
		3: THROTTLE	20%
CH1: ILON		4: RUDD	NOR
F/S: NOR		5: GEAR	NOR
		6: FLAP	NOR
		7: AUX1	NOR
		8: AUX2	NOR

- F/S側に設定されている場合はサーボポジションも表示されます。

F/S機能

①CURSORレバーで、チャンネルを選択します。



選択範囲: 1~8ch

②ダイヤルを回して"F/S"または"NOR"を選択します。



"NOR"側: 時計方向へ回す。
"F/S"側: 反時計方向へ回す。

選択範囲: NOR,F/S
初期値: 3chのみF/S

("F/S"側を選択した場合)

③そのチャンネルのスティック等を、F/S時のサーボポジションに設定したい位置に固定し、ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

- 「ピピッ」という確認音がして、サーボポジションが設定されたことを知らせます。

(確認) フェイルセーフを設定したら、必ず、設定どおりにサーボが動作することを確認してください。

- フェイルセーフデータの自動転送の関係から、送、受信機の電源ON後10秒以上待ってから、送信機の電源スイッチを切って、サーボの動作位置を確認してください。

機能説明

このAUXチャンネル機能により、CH5～CH10に設定されているスイッチやツマミをお好みにより変更することができます。ただし、2.4G-7CHモード時はCH5～CH7のみ、PPMモード時はCH5～CH8のみ設定可能です。

- CH5～CH8の場合、ツマミVrA～VrC、スライドレバーVrD～VrE、スイッチA～H、ロジックスイッチLs1～Ls3の中から選択が可能。また、ツマミ等を設定しないことも可能です。
- CH9～CH10の場合、スイッチA～H、ロジックスイッチLs1～Ls3の中から選択が可能。また、サーボの回転方向を設定可能です。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、“MODE”キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは“MODE”キーを押して交互に切り替えることができます。

②“CURSOR”レバーでメニュー内の“AUXチャンネル”を選択します。



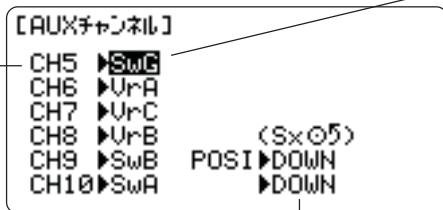
- “CURSOR”レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(AUX-CH 設定画面)

- 設定チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。



- CH5～CH8の場合、スイッチA～H、ロジックスイッチ1～3、ツマミ(レバー)A～E、NULL(なし)の何れかを選択できます。CH9～CH10の場合、スイッチA～H、ロジックスイッチ1～3の何れかを選択できます。また、動作方向を設定できます。

- UP(上でON)、Up&Down(上または下でON)、Up&Cntr(上またはセンターでON)、CENTER(センターでON)、Cntr&Dn(センターまたは下でON)、DOWN(下でON) ---ON側でサーボが左回転します。
- ロジックスイッチの場合、REV(ON方向が反転)、NORM(ロジックスイッチの設定どおり) ---ON側でサーボが左回転します。

*2.4G-7CHモードの場合は、CH8～CH10の設定項目は表示されません。

*PPMモードの場合は、CH9～CH10の設定項目は表示されません。

<AUXチャンネル初期設定>

	ACRO	GLID 1F+1F	GLID 2F+1F	GLID 2F+2F	HELI (H-4.H4X除く)	HELI (H-4.H4X)
CH5	SwG	VrD	VrD	---	SwF	SwF
CH6	VrA	VrA	VrA	VrA	---	---
CH7	VrC	VrC	---	---	SwC	SwC
CH8	VrB	VrB	VrB	VrB	VrB	---
CH9	SwB/Down	SwB/Down	SwB/Down	SwB/Down	SwB/Down	SwB/Down
CH10	SwA/Down	SwA/Down	SwA/Down	SwA/Down	SwA/Down	SwA/Down

AUXチャンネルの設定

①CURSORレバーで、チャンネルを選択します。



選択範囲：5～10ch

②ダイヤルを回して、スイッチやツマミ等を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：(上記)

(CH9/CH10の場合)
●CURSORレバーで、“POSI”の項目を選択し、ダイヤルを回してON方向を選択します。

選択範囲：(上記)

*CH5～CH8の動作方向を反転する場合はリバース機能(??ページ)で行ってください。

機能説明

このパラメーター機能では、データリセット機能、モデルタイプの選択、変調方式の変更、ATL機能のON/OFF、画面コントラストの調整、バックライトの調整、初期画面の選択（HELIタイプのみ）、およびユーザーネームの設定が可能です。

データリセット

現在使用しているモデルのデータを初期値にリセットすることができます。ただし、モジュレーション (MODUL) およびモデルタイプ (TYPE) の設定はリセットされません。

モデルタイプ

ご使用の機体に合わせて次のモデルタイプの中から選択してください。

飛行機用："ACROBATIC"を選択します。

- ご使用の機体のウイングタイプ/テールタイプに合わせて、アドバンスメニューのフラップロン機能、エルロンディファレンシャル機能、エレボン機能、Vテール機能を設定してください。

グライダー用：ご使用の機体のウイングタイプに合わせて"GLID(1A+1F)"、"GLID(2A+1F)"または"GLID(2A+2F)"を選択します。

- ご使用の機体のテールタイプに合わせて、アドバンスメニューのエレボン機能（1A+1Fタイプのみ）、Vテール機能を設定してください。

ヘリコプター用："HELICOPTER"を選択します。

- このモデルタイプを選択すると、下記のスワッシュタイプ選択の項目が現れます。

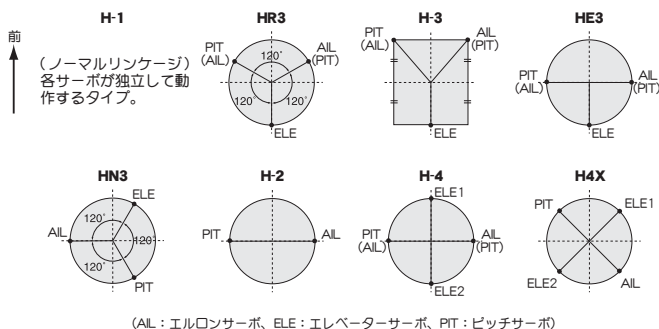
2nd エルロン

2nd（2番目の）エルロンを5チャンネル目にも出力できる機能です。この機能は、ACROBATIC、GLID(1A+1F)、GLID(2A+1F)モード時に設定可能です。

- 2ndエルロンが通常どおり6または7チャンネル目に出力されるモードと5チャンネル目にも出力されるモードを選択可能。
- 5チャンネル受信機を使用して、フラップロン機能またはエルロンディファレンシャル機能を使うときに使用します。

スワッシュタイプ

ご使用の機体に合わせて、スワッシュタイプを選択してください。（H-1/HR3/H-3/HE3/HN3/H-2/H-4/H4X）



ただし、機体のリンケージの方向等の違いにより、上記の各スワッシュタイプで指定された位置にサーボを接続しただけでは、スワッシュプレート正しい動きにならない場合があります。スワッシュプレートがキットの取扱説明書に指定する動作となるように、各サーボの動作方向はリバース機能（50ページ）を使用して合わせ、また、エルロン、エレベーター、ピッチ動作方向の反転はスワッシュAFR機能（92ページ）のレートの極性を変更して合わせてください。

モジュレーション

使用する受信機のタイプに合わせて、モジュレーションのモードを変更してください。
ただし、送信機本体に装着している高周波モジュールにより選択できるモードが異なります。

- TM-10 2.4Gモジュール装着時は10CHモードまたは7CHモードが選択できます。
- 従来周波数のTP-FSMまたはTP-FMモジュール装着時はPCM1024モードまたはPPM (FM) モードが選択できます。

ATLトリム

スロットルスティックのロー側のみでトリムを動作させ、ハイ側でトリム動作させなくする機能です。トリム操作によるハイ側のリンクエッジの突っ張りを防止します。

- ATLトリムのON/OFFを選択できます。

LCDコントラストの調整

LCD画面のコントラスト調整が可能です。

- 設定によっては、薄くなり過ぎて画面が見えなくなったり、濃すぎて見づらくなる場合がありますので、適正な濃さに調整してください。

バックライトの輝度調整

LCD画面のバックライトの輝度を調整できます。

なお、バックライトは何れかのエディットキー操作により最大発光時の明るさとなり、操作後約15秒経過後に減光時の明るさとなります。

- 最大発光時（設定範囲：OFF, 1~20）と減光時（設定範囲：OFF, 1~最大発光時設定）の調整が可能。

初期画面表示モードの選択（ヘリの場合のみ）

初期画面にスロットルスティック位置およびピッチ位置を表示できます。

- 初期はヘリのイラスト表示。

ユーザーネームの設定

初期画面に表示されるユーザーネームが設定できます。（ユーザーネームを設定していない場合はFutabaロゴが表示されます）

- 最大10文字迄設定できます。

設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



(1秒以上)

- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"パラメター"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

- ③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(パラメター機能 設定画面) スワッシュタイプ

データリセット	[パラメター] <1/2> RESET▶Execute	
モデルタイプ	TYPE▶ACROBATIC	
2nd エルロン	AILE-2▶CH6or7	
モジュレーション	MODUL▶PCM1024	
ATLトリム	ATL▶ON	

	[パラメター] <1/2>	
	RESET▶Execute	
	TYPE▶HELICOPTER	Pure
	SWASH▶H-1	(1/2/6)
	MODUL▶PCM1024	
	ATL▶ON	

(モデルタイプ"HELICOPTER"の場合)

初期画面表示モード

LCDコントラスト	[パラメター] <2/2> CONTRAST▶0	
バックライト	BACK MAX▶10 -LIGHT MIN▶1	
ユーザーネーム	USER NAME▶_____	

	[パラメター] <2/2>	
	CONTRAST▶0	
	BACK MAX▶3 -LIGHT MIN▶3	
	HOME-DISP▶ILLUST.	
	USER NAME▶_____	

(モデルタイプ"HELICOPTER"の場合)



- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

データリセット

- ①データリセットの項目が選択された状態で、ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

- 画面上に確認メッセージ"Are you sure? Lost data!"が点滅表示されます。

- ②ダイヤルを押しリセットを実行します。



- リセットが開始され、「ピピッ、ピピッ、ピピッ、・・・」の断続音の後、「ピー」と連続音がして、リセットが完了したことを知らせます。画面上には、リセット中を示す矢印表示が現れます。

安全のため、ダブルセット方式を採用しています。確認メッセージ表示後、リセットを取りやめるときは、CURSORレバーで別の設定項目に移動するとリセットされません。

アラーム音が鳴っている間に電源スイッチをOFFにすると、正常にリセットされない場合があります。

モデルタイプ

- ①モデルタイプの項目が選択された状態で、ダイヤルを回してモデルタイプを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：ACROBATIC, GLID(1A+1F), GLID(2A+1F),
GLID(2A+2F), HELICOPTER

安全のため、ダブルセット方式を採用しています。確認メッセージ表示後、変更を取りやめるときは、**CURSOR**レバーで別の設定項目に移動すると変更されません。

アラーム音が鳴っている間に電源スイッチをOFFにすると、正常に変更されない場合があります。

- ②ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

- 画面上に確認メッセージ"**Are you sure? Lost data!**"が点滅表示されます。

- ③ダイヤルを押してモデルタイプの変更を実行します。



- 変更が開始され、「ピピッ、ピピッ、ピピッ、・・・」の断続音の後、「ピー」と連続音がして、変更が完了したことを知らせます。画面上には、変更中を示す矢印表示が現れます。

2nd エルロン

- ①2nd エルロンの項目が選択された状態で、ダイヤルを回して出力チャンネルを選択します。



選択範囲：

ACROBATIC：CH6 or 7 (初期)、CH6 & 5

GLID(1A+1F)：CH6 (初期)、CH6 & 5

GLID(2A+1F)：CH7 (初期)、CH7 & 5

スワッシュタイプ

- ①スワッシュタイプの項目が選択された状態で、ダイヤルを回してスワッシュタイプを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：H-1/HR3/H-3/HE3/HN3/H-2/H4/H4X

安全のため、ダブルセット方式を採用しています。確認メッセージ表示後、変更を取りやめるときは、**CURSOR**レバーで別の設定項目に移動すると変更されません。

- ②ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

- 画面上に確認メッセージ"**Are you sure?**"が点滅表示されます。

- ③ダイヤルを押してスワッシュタイプの変更を実行します。



- 「ピッ」と確認音がして、変更が完了したことを知らせます。

モジュレーション

- ①モジュレーションの項目が選択された状態で、ダイヤルを回してモードを選択します。



10CH, PCM；時計方向へ回す。
7CH, PPM；反時計方向へ回す。

- 画面上にメッセージ"**cycle power**"が点滅表示されます。

選択範囲：

TM-10 2.4Gモジュールの場合：10CH, 7CH

40MHz帯、72MHz帯モジュールの場合：PCM1024, PPM

- ②送信機の電源スイッチを一旦切って、再度電源を入れ直します。

[重要] 変更後、いったん送信機の電源をOFFにしてから、再度 ONすることによってはじめてモードが切り替わります。

ATLトリム

- ①ATLトリムの項目が選択された状態で、ダイヤルを回してON/OFFを選択します。



ON；時計方向へ回す。
OFF；反時計方向へ回す。

選択範囲：ON, OFF
初期値：ON

LCDコントラスト調整

- ①LCDコントラスト調整の項目が選択された状態で、ダイヤルを回して画面のコントラストを調整します。



時計方向；濃くなる。
反時計方向；薄くなる。

選択範囲：-10~0~+10
初期値：0

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



バックライトの輝度調整

- ①バックライトの輝度調整の"MAX"側の項目が選択された状態で、ダイヤルを回して、最大輝度時の明るさを調整します。



時計方向；明るくなる。
反時計方向；暗くなる。

- ②バックライトの輝度調整の"MIN"側の項目が選択された状態で、ダイヤルを回して、減光時の明るさを調整します。



時計方向；明るくなる。
反時計方向；暗くなる。

(MAX側)
選択範囲：
OFF(0),1~20
初期値：10

(MIN側)
選択範囲：
OFF(0),1~MAX側設定値
初期値：10

初期画面表示モード (ヘリの場合のみ)

- ①初期画面表示モードの項目が選択された状態で、ダイヤルを回して初期画面の表示モードを選択します。



時計方向；ILLUST
反時計方向；THR/PIT

選択範囲：
ILLUST、THR/PIT
初期値：ILLUST

ILLUST：ヘリのイラスト表示
THR/PIT：スロットルスティック／ピッチ位置表示

ユーザーネーム

- ①ユーザーネームの変更したい桁を選択した状態でダイヤルを回して文字を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- ②その他の変更したい桁を選択し、①と同様に文字を選択します。

- 入力できる文字
アルファベット大文字／
アルファベット小文字／
カタカナ／数字／記号

機能説明


タイマーは競技会の規定時間や燃料満タンでの飛行可能時間等に合わせて使用すると便利です。

- タイマーは3系統設定できます。(タイマー<1>、タイマー<2>、タイマー<3>)
- モデル毎にタイマーを設定できます。モデルに合ったタイマー設定ができるため、モデルを変える度にタイマーを設定し直さなくても済みます。
- タイマーの種類は、タイマー<1>およびタイマー<2>がアップ/ダウン/ダウンストップタイマーから選択できます。タイマー<3>はさらにモデルタイマーも選択できます。ダウンタイマーは、設定した時間からカウントダウンされ、画面上に残り時間が表示されます。設定時間経過後は,""表示となります。ダウンストップタイマーはダウンタイマーの0でカウントが停止します。アップタイマーは、0からカウントアップされ、画面上に経過時間が表示されます。各タイマー共に最高99分59秒までの時間設定ができます。モデルタイマーはモデル毎の使用時間を積算表示します。最高99時間59分まで表示します。
- アップ/ダウン/ダウンストップタイマーのスタート/ストップのスイッチとして、スイッチA~H、スロットルスティック、ロジックスイッチおよび電源スイッチの中から選択することができます。また、ON,OFF方向の設定が可能です。ただし、電源スイッチを選択したときは、電源スイッチを入れた時点でタイマーがスタートします。
- 各タイマーのリセットは初期画面の状態、カーソルレバーでリセットしたいタイマーを選択し、ダイヤルを1秒以上押しとリセットされます。また、リセットスイッチとして、スイッチA~Hおよびロジックスイッチの中から選択することができます。また、ON,OFF方向の設定が可能です。
 - アップ/ダウンタイマーのアラーム音は、1分毎に警告音「ピッ」、設定時間20秒前より2秒間隔の警告音「ピッ、ピッ、ピッ、・・・」、設定時間10秒前より1秒間隔の警告音「ピッピッ、ピッピッ、ピッピッ、・・・、ブー」で時間を知らせます。

設定方法


設定画面の呼び出し

①初期画面の状態、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。




●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"タイ-"を選択します。



●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(タイマー機能 設定画面)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



タイマー時間の設定
モードの選択
ONスイッチの選択
及びON方向の設定
リセットスイッチの選択
及びON方向の設定


[タイマー]	<1>	<2>	<3>ON
TIME	10:00	10:00	---
MODE	UP	DOWN	MODEL
ON	SwA	SwA	---
	NULL	NULL	---
RSET	SwA	SwA	---
	NULL	NULL	---

(スイッチON方向設定)

- NULL(常時OFF)、UP(上でON)、Up&Dn(上または下でON)、Up&Ct(上またはセンターでON)、CENTR(センターでON)、Ct&Dn(センターまたは下でON)、DOWN(下でON)
- ロジックスイッチの場合、NULL(常時OFF)、REV(ON方向が反転)、NORM(ロジックスイッチの設定どおり)。ロジックスイッチの設定は??ページを参照。


タイマー機能 <1>,<2>,<3>

①モードの選択で、ダイヤルを回してタイマーのモードを選択します。




選択範囲：
UP, DOWN,
DN(S),MODEL

②時間の設定で、ダイヤルを回して時間を設定します。




調整範囲：
99分59秒迄

③スイッチの選択で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



④スイッチのON方向の選択で、ダイヤルを回してON方向を選択します。



- ③のスイッチ選択で、スロットルスティックを選択した場合は、④の項目で、スロットルスティックをON/OFFポイントに保持し、ダイヤルを1秒以上押し、ON/OFFポジションを設定してください。そのポジションより上でONとなります。ポジションが設定された状態でダイヤルを1秒以上押しと、NULLの状態に戻ります。

機能説明

(T10C送信機を先生側で使用する場合にこの機能を使用します)

このトレーナー機能は指導に使うチャンネルと動作モードを選択できるため、生徒のレベルに合わせてトレーニングの難易度を設定することができます。

先生側の送信機と生徒側の送信機を専用のトレーナーコード（別売り）で接続して使用します。先生側のスイッチ操作により、生徒側の操作が可能となります。生徒の操縦が危険な状態に陥った時はすぐに先生側の操縦に切り替えることができます。

- チャンネル毎に4つの動作モードが選択できます。
- トレーナースイッチはスイッチHに設定されています。

*トレーナー機能を使用すると自動的にスナップロール機能は使えなくなります。

なお、このトレーナー機能は以下の条件のもとで使用してください。

【注意事項】（重要）

- T10C送信機を先生側で使用する場合、生徒の送信機のモジュレーションをPPMにしてください。
- 飛行の前には必ず、先生、生徒側ともに全てのチャンネルが設定どおりに正常に動作することを確認してください。
- トレーナーコードのコネクターは必ず奥まで確実に差し込み、使用中にも抜けないようにしてください。
- 生徒側送信機の高周波モジュールは必ず抜いておく。（モジュールタイプの場合）
- 生徒側送信機の電源スイッチは絶対にONにしない。
- 実際に電波を送信する先生側のアンテナを全段伸ばして使用する。（40/72MHz帯の場合）

トレーナー機能の動作モード

- "FUNC"モード：先生側の送信機で設定されているミキシングを利用して生徒側が操作可能。（生徒側の設定は初期値に戻しておきます。）
- "MIX"モード：先生側と生徒側の信号がミックスされてコントロールされます。先生側から補正舵が打てます。このモードを選択すると、サーボの振り切れを防止するため、生徒側のレートを減らしてあります。また、生徒側のレートを設定することが可能です。（生徒側の設定は初期値に戻しておきます。）
- "NORM"モード：生徒側の送信機からの信号でコントロールされます。（先生側と生徒側の設定を同一にする必要があります。）
- "OFF"：生徒側では操作できません。先生側だけの操作となります。
*ただし、生徒側の送信機にないチャンネルは、上記の設定にかかわらず、先生側の操作となります。
*他のモデルを選択したとき、トレーナー機能はINHとなりますが、チャンネルの設定はそのまま残ります。

使用例

- スティックチャンネルに"FUNC"モードを設定すると、4VF送信機（飛行機用4チャンネル）でもヘリコプターのスティック操作の練習ができます。
- 生徒のレベルに合わせて練習したいチャンネルのみを"NORM"モードに設定し、他のチャンネルは"OFF"モードに設定して先生側が操作することが可能。

トレーナーコード（別売り）

- 別売りのトレーナーコードを使用して、先生側、生徒側の送信機を接続してください。生徒側送信機の機種により対応するトレーナーコードが異なります。

FF9用トレーナーコード（FF9⇔FF9）：4EX, 6EX, 7C, 9C, 10C, 12FG, 12Z, 14MZの各シリーズ

FF9用トレーナーコード（FF9⇔DIN）：4V, 6X, 7U, 8U, 9Zの各シリーズ

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"トレーナ"を選択します。



●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能です。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(トレーナー機能 設定画面)

機能を有効/無効にする → INH

チャンネルの選択 → CH1: ILMON
→ FUNC

```

【トレーナー】
1:AILE FUNC
2:ELEV FUNC
3:THRO FUNC
4:RUDD FUNC
5:GEAR OFF
6:FLAP OFF
7:AUX1 OFF
8:AUX2 OFF
    
```

●各チャンネルの設定モードが表示されます。

選択範囲: FUNC, NORM, OFF, MIX
初期値: 1~4ch: FUNC, 5~8ch: OFF

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

●選択チャンネルの設定モードが表示されます。
MIXモードを選択すると右側に生徒側のレートが表示されます。

<チャンネル表示> GLID

ACRO	1A-1F	2A-1F	2A-2F	HELI
1 AILE	AILE	AILE	AILE	AILE
2 ELEV	ELEV	ELEV	ELEV	ELEV
3 THRO	ARBK	ARBK	ARBK	THRO
4 RUDD	RUDD	RUDD	RUDD	RUDD
5 GEAR	AUX1	AUX1	FLP2	GYRO
6 FLAP	FLAP	FLAP	FLP1	PITC
7 AUX1	AUX2	AIL2	AIL2	AUX1
8 AUX2	AUX3	AUX2	AUX	AUX2

トレーナー機能

①機能を有効/無効にする項目で、ダイヤルを回して、"INH"を"OFF"に変更します。



"INH"側: 時計方向へ回す。
"OFF"側: 反時計方向へ回す。

●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②設定したいチャンネルをCURSORレバーで、選択します。



(上下方向に操作)

選択範囲: 1~8ch

●他のチャンネルも②~③を繰り返して、動作モードを設定してください。

③ダイヤルを回して、動作モードを設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲:
FUNC, NORM, OFF, MIX

●③の項目でMIXモードを選択した場合は、生徒側のレートを調整することができます。

④CURSORレバーで、レート項目を選択します。



(右に操作)

⑤ダイヤルを回して、生徒側のレートを設定します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲: 0~100%
初期値: 30%

機能説明

下記機能のON/OFFスイッチとして、スイッチA~Hの他、ロジックスイッチ (LSW1~3) が選択できます。この場合、予めこのロジックスイッチ設定画面で、ロジックスイッチに使用するスイッチを選択しておきます。

- スロットルカット、アイドルダウン、AUXチャンネル、タイマー、プログラムミキシング、エアブレーキ、エレベーターフラップミキシング、エルロン→フラップミキシングでロジックスイッチを選択可能。
- 2つのスイッチの組み合わせで、ANDまたはORのロジックで機能をON/OFFできます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ロジック SW"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(ロジック SW 設定画面)



スイッチの選択
スイッチのON/OFF方向
ロジックの選択
スイッチの選択
スイッチのON/OFF方向

[ロジック SW]		
LSW1(OFF)	2(OFF)	3(OFF)
SW	▶A	▶A
POSI	▶NULL	▶NULL
MODE	▶x/and	▶x/and
SW	▶A	▶A
POSI	▶NULL	▶NULL

LSW1の設定 LSW2の設定 LSW3の設定

<ロジック表>

SW(1)	SW(2)	and	or
OFF	OFF	OFF	OFF
OFF	ON	OFF	ON
ON	OFF	OFF	ON
ON	ON	ON	ON

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

ロジック SWの設定

①"SW"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, ST-THR
初期値：A

- ST-THRは上側のスイッチのみ選択可能。

②"POSI"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- 調整範囲：
2ポジションSWの場合、NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、NULL, UP, Up&Dn, Up&Ct, CENTER, Ct&Dn, DOWN
初期値：NULL
- ①のスイッチ選択で、スロットルスティックを選択した場合は、スロットルスティックをON/OFFポイントに保持し、ダイヤルを1秒以上押し、ON/OFFポジションを設定してください。そのポジションより上でONとなります。ポジションが設定された状態でダイヤルを1秒以上押し、NULLの状態に戻ります。

③"MODE"の項目を選択した状態でダイヤルを回してモードを選択します。



選択範囲：x/and, +/or
初期値：x/and

- "x/and" (論理積) を選択した場合、SW(1)とSW(2)がともにONの場合にのみロジックスイッチがONとなります。
- "+/or" (論理和) を選択した場合、SW(1)とSW(2)の何れかまたは両方がONの場合にロジックスイッチがONとなります。

機能説明

このサーボ表示機能は、1～10ch迄のサーボ出力をバーグラフで表示します。ミキシング機能等の確認に便利です。

また、サーボテスト機能をONにすると、1～8ch迄のサーボが一定周期で動作します。サーボのチェック等に使用可能です。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"サ-ボ"を選択します。

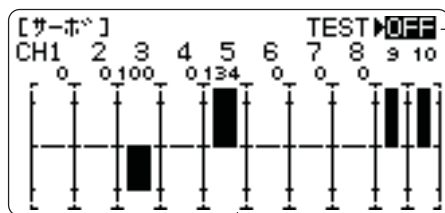


●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



(サーボ機能設定画面)



(サーボテストのON/OFF表示)

(サーボ出力のバーグラフ表示)

サーボテスト

①ダイヤルを回して、サーボテストをON/OFFします。



"OFF"側；時計方向へ回す。
"ON"側；反時計方向へ回す。

●ONにすると1～8ch迄のサーボが一定周期で動作します。

- サーボテストを使用しない場合は"OFF"側に設定してください。
- メニュー画面に戻ると、自動的にOFFとなります。

機能説明

独立した8系統（ヘリの場合6系統）のカスタマイズ可能なミキシングが使用できます。プログラマブルミキシングは機体のクセ取りや、操縦を楽にする目的で使用します。任意のチャンネル間のミキシングが行えるほか、リンク（別のミキシングと連結する）、トリム付加、オフセット、スイッチ設定機能が含まれています。

PROG. MIX 1~4（ノーマルタイプ）

プログラマブルミキシング1~4は、下記の機能が設定できます。

[ミキシングチャンネル]

- マスターチャンネルおよびスレーブチャンネルの初期設定は、仮の組み合わせが設定されていますので、チャンネルを変更して使用してください。
- マスターチャンネルの設定で、"OFST"を選択した場合、ミキシング量設定はスレーブ側のみとなります。ミキシング量を設定するとスレーブ側サーボがその量だけオフセットされて動作します。（オフセットミキシング）
- マスターチャンネルとしては、チャンネル以外に、ツマミVrA~VrEも使用することができます。

[リンク機能]

- リンク機能はプログラマブルミキシング同志をリンクさせて動作させる機能です。

[トリム選択]

- マスターチャンネルのトリム動作をミキシングに含めるかどうかを選択できます。

[ミキシング基準点の変更]

- マスターチャンネルのスレーブチャンネルに対するミキシングの基準点を移動できます。

[スイッチ選択]

- プログラマブルミキシングのON/OFFスイッチが選択できます。選択できるスイッチは、スイッチA~H、3CH目スティック、およびロジックスイッチLs1~3の中から選ぶことができます。
- スイッチの動作方向が設定できます。3ポジションスイッチを選択した場合は、アップ側/アップ側とダウン側/アップ側とセンター/センターとダウン側/ダウン側を選択できます。また、ロジックスイッチを選択した場合はON方向を反転することができます。

PROG. MIX 5~8（カーブタイプ）（ヘリ用の場合はPROG. MIX 5~6）

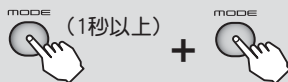
プログラマブルミキシング5~8は、5ポイントカーブでミキシング量が設定できます。

上記ノーマルタイプのマスターチャンネルの設定で"OFST"およびツマミの使用と、トリム選択はできませんが、その他のリンク機能およびスイッチ選択は同様に設定可能です。

設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"PROG.MIX 1-8"を選択します。

CURSOR



CURSOR



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

- ③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



PROG.MIXの選択

① **CURSOR**レバーで、PROG.MIX No.を選択します。

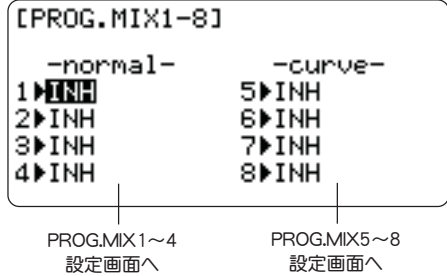


- PROG.MIX1~4 (ノーマルタイプ)
- PROG.MIX5~8 (カーブタイプ)

② ダイヤルを押して、設定画面を呼出します。



(PROG.MIX選択画面)



● 設定項目の選択は**CURSOR**レバーで行ないます。

(PROG.MIX1~4 設定画面)

[PROG.MIX1] (AILE→RUDD)

MIXINGレートの調整	RATE ← 0%	MIX ▶ INH	機能を有効/無効にする
基準点のオフセット	OFFSET → 0%	TRIM ▶ OFF	トリムのON/OFF
マスターチャンネルの選択	(- 1%)	LINK ▶ OFF	リンクのON/OFF
スレーブチャンネルの選択	MASTER ▶ CH1	SW ▶ SwB	スイッチの選択
	SLAVE ▶ CH4	POSI ▶ NULL	スイッチのON方向

(マスターchの現在位置)

PROG.MIX1~4

① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



● 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

② "MASTER"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してマスターチャンネルを選択します。



- マスターチャンネルとしては、チャンネル以外に、ツマミVrA~VrEも指定することができます。
- マスターチャンネルの設定で、"OFST"を選択した場合、スレーブ側サーボのオフセット動作となります。

③ "SLAVE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスレーブチャンネルを選択します。



④ "RATE"の項目を選択した状態で、マスターチャンネルに設定したスティック等の各方向について、ダイヤルを回してミキシング量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。) 調整範囲：-100~+100% 初期値：0%

(基準点を変更する場合)

⑤ "OFFSET"の項目を選択し、マスターchのスティック等を設定したい位置に保持した状態で、ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

⑥ "SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：
SwA~H, STK-THR,
Ls1~3

⑦ "POSI"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- スイッチON方向
NULL(常時OFF), UP(上でON), Up&Dn(上または下でON), Up&Ct(上またはセンターでON), CENTR(センターでON), Ct&Dn(センターまたは下でON), DOWN(下でON)
- ロジックスイッチの場合
NULL(常時OFF), REV(ON方向が反転), NORM(ロジックスイッチの設定どおり)

● 3ch目スティックを選択した場合は、スティックをON/OFFポイントに保持し、ダイヤルを1秒以上押し、ON/OFFポジションを設定してください。そのポジションより上でONとなります。(ポジションが設定された状態でダイヤルを1秒以上押しすと、NULLの状態に戻ります。)

以下の"LINK"、"TRIM"、"OFFSET"の項目は必要に応じて設定してください。

⑧"LINK"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、リンク機能をON/OFFします。



"OFF"側；時計方向へ回す。
"ON"側；反時計方向へ回す。

●リンク機能を使用しない場合は"OFF"側に設定してください。

⑨"TRIM"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、トリムをON/OFFします。



"OFF"側；時計方向へ回す。
"ON"側；反時計方向へ回す。

●ミキシングにトリムを含めない場合は"OFF"側に設定してください。

⑩"OFFSET"の項目を選択した状態で、マスターチャンネルに設定したスティック等を、オフセットしたいポジションに固定し、ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

●「ビピッ」という確認音がして、オフセットポイントが設定されたことを知らせます。

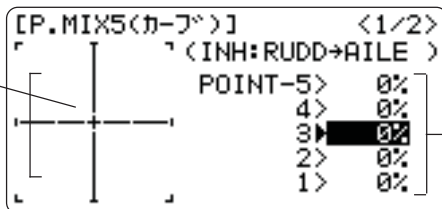
【注意事項】

*機能がONでもミキシング量が0%の場合は動作しません。

*設定が終わったら、ミキシング機能が正常に動作することを確認してください。

(PMX-5~8 CRV設定画面)

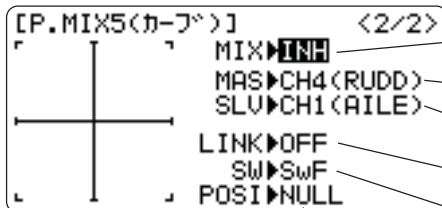
●設定したカーブがグラフに表示されます。



●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



5ポイントカーブの設定



機能を有効/無効にする

マスターチャンネルの選択

スレーブチャンネルの選択

リンクのON/OFF

スイッチの選択

スイッチのON方向

PROG.MIX5~8

PROG.MIX1~4の設定方法①②③⑥⑦⑧については同様に設定してください。

(5ポイントカーブの設定)

CURSORレバーで各ポイントを選択し、ダイヤルを回してミキシング量を調整します。

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100~+100%
初期値：0%



(1秒以上)

【注意事項】

*機能がONでもミキシング量が0%の場合は動作しません。

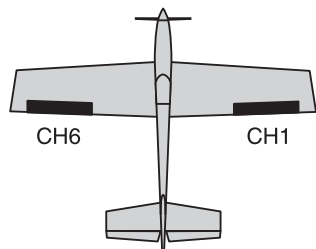
*設定が終わったら、ミキシング機能が正常に動作することを確認してください。

機能説明

エルロンに2個のサーボを使用し、エルロンにフラップ機能も持たせるミキシング機能です。エルロン動作と共に左右のエルロン舵面を同時に上げ下げできます。この機能にエアブレーキ機能を併用すると、着陸時に機速を落とすことができ、狭い場所に有効です。

右側エルロンサーボは1CH(AIL)、左側エルロンサーボは6CH (FLP)に接続して下さい。

- 左右のエルロン舵面の上下の舵角を個別に調整可能。
- フラップ動作量についても左右別々に調整可能。



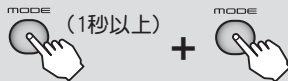
	1CHサーボ	6CHサーボ
エルロン動作時	右エルロン	左エルロン
フラップ動作時	フラップ2	フラップ1

注意：フラッペロン、エルロンディファレンシャル、エレボンはいずれかの機能のみ使用可能で、同時にONすることはできません。すでに他の機能が有効な場合、画面上に「Other WING mix "ON"」が表示されます。すでに有効になっている機能を"INH"に設定してから、フラッペロン機能を"ACT"にしてください。

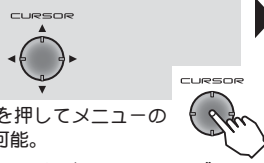
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"フラップ"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(フラッペロン 設定画面)

機能を有効にする

エルロン1 (CH1) の調整

エルロン2 (CH6) の調整

フラップ2 (CH1) の調整

フラップ1 (CH6) の調整

●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

(L):エルロンスティック左側レート
(R):エルロンスティック右側レート

(フラップレート)

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

バタフライ動作時の差動量の微調整

(矢印は現在のフライトコンディションスイッチの位置を示す)

●コンディションスイッチで設定したいコンディションを選択してから調整します。

(L):エルロンスティック左側レート
(R):エルロンスティック右側レート

●レート調整時、レートの極性を変えようとした場合、確認表示"Change rate dir?"が表示されます。この場合、ダイヤルを1秒間以上押し続けると表示が解除され設定が可能となります。(GLIDの場合)

飛行機能

フラップロン

(モデルタイプ"ACRO"の場合)

- ① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ② "RATE-AIL1"の項目を選択した状態で、エルロンスティックを左右に操作し、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

("AIL2"の項目も②と同様に調整します。)

調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



(フラップトリムを使用する場合は以下の設定を行ってください。)

- あらかじめフラップトリム機能で振り巾を設定する必要があります。

- ③ "FLP2"の項目を選択した状態で、フラップ2の動作量を、ダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

("FLP1"の項目も③と同様に調整します。ただし、"FLP1"側の初期値は-100%。)

調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



(モデルタイプ"GLID(1A+1F)"の場合)

- ① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ② "RATE-AIL1"の項目を選択し、設定したいフライトコンディションにスイッチを切替えた状態で、エルロンスティックを左右に操作し、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

("AIL2"の項目も②と同様に調整します。)

- ③ "FLP2"の項目を選択し、設定したいフライトコンディションにスイッチを切替えた状態で、フラップ2の動作量を、ダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

("FLP1"の項目も③と同様に調整します。ただし、"FLP1"側の初期値は-100%。)

調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



- ④ "B.FLY-ADJ"の項目を選択し、設定したいフライトコンディションにスイッチを切替えた状態で、バタフライ動作時の差動量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：25%

機能説明

6チャンネルのボリュームツマミをトリム動作にする機能です。

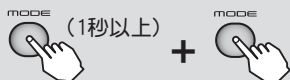
- トリムの振り巾を調整可能

*フラップロン機能を有効("ACT")にすると、自動的にこのフラップトリム機能もONとなります。単独でON/OFFすることもできます。

設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"フラップトリム"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

- ③ダイヤルを押して設定画面に入ります。

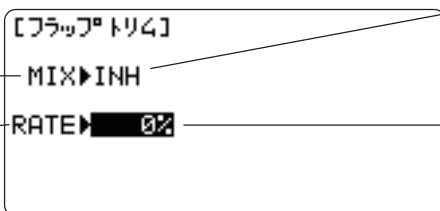


(フラップトリム 設定画面)



機能を有効にする

振り巾の調整



- "INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

(フラップトリムの振り巾)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

フラップトリム

- ①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ②"RATE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、フラップトリムの振り巾を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100～+100%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



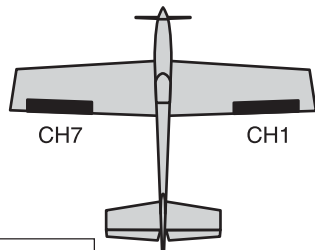
機能説明

(このエルロンディファレンシャルの説明は飛行機の場合を示します。)

エルロンに2個のサーボを使用し、左右のエルロン動作に差動をつけることができます。

右側エルロンは1CH(AIL)、左側エルロンは7CHに接続してください。

- 左右のエルロン舵面の上下の舵角を個別に調整可能。
- 1フラップ(6CH)/2フラップ(6CH & 5CH)サーボモードが選択可能。

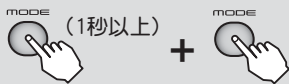


注意：フラップオン、エルロンディファレンシャル、エレポンはいずれかの機能のみ使用可能で、同時にONすることはできません。すでに他の機能が有効な場合、画面上に「Other WING mix "ON"」が表示されます。すでに有効になっている機能を"INH"に設定してから、エルロンディファレンシャル機能を"ACT"にしてください。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ディファレンシャル"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



●設定項目の選択はCURSOR (エルロンディファレンシャル設定画面) レバーで行ないます。

機能を有効にする

エルロン1 (CH1) の調整

エルロン2 (CH7) の調整

フラップモードの選択

[エルロン ディファレンシャル]

MIX▶INH

RATE-AIL1▶+100% **+100%**

AIL2▶+100% +100%

FLAP▶CH6

●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

(L) : エルロンスティック左側レート

(R) : エルロンスティック右側レート

CH6 : 6CHに出力 (初期値)

CH6 & 5 : 6CHと5CHに出力

エルロンディファレンシャル

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"RATE-AIL1"の項目を選択した状態で、エルロンスティックを左右に操作し、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%

("AIL2"の項目も②と同様に調整します。)

(フラップサーボモードを変更したい場合)

③"FLAP"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してモードを選択します。



選択範囲：CH6, CH6 & 5
初期値：CH6

機能説明

着陸または飛行中のダイブ等でエアブレーキが必要な場合に使用し、スイッチC（初期設定）またはスロットルスティックで操作できます。スロットルスティックを選択した場合はスロットルポジションを設定し、そのポジションよりロー側でリニアに操作できます。エレベーター動作にはディレイ("DLY")が設定でき、エアブレーキ操作時の急激な姿勢変化を抑えることができます。

- 通常エルロンをブレーキにするときは上方向（UP側）に上げます。
- ON/OFFスイッチの変更はスイッチセレクト画面（SW SELECT）で行います。
- リニアモードで使用時のトリム調整は、スロットルスティックが最スロー側（ブレーキ量最大）の状態で行ってください。
- エアブレーキ動作中はエレベータートリムレバーはエアブレーキ調整用となります。初期画面のトリム表示も連動します。

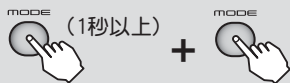
●WING MIX別調整項目

画面表示	MIXなし	FLAPERON	AIL-DIFF
AIL1(1CH)	---	AIL1	AIL1
ELEV(2CH)	ELE	ELE	ELE
FLAP(6CH)	FLP	AIL2	FLP
AIL2(7CH)	----	----	AIL2

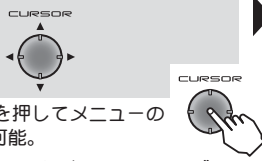
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押し続けてアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エアブレーキ"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(エアブレーキ 設定画面)

各サーボの動作量の調整

デレイ量の調整

[エアブレーキ]

-rate-

AIL1▶+ 50%

ELEV▶- 10%

FLAP▶+ 50%

AIL2▶---

-delay-

ELEV▶ 0%

MIX▶INH

SW▶SwC

▶DOWN

MODE▶Offset

機能を有効にする

スイッチの選択

スイッチON方向の選択

動作モードの選択

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

"Offset"の場合、スイッチ操作でエアブレーキが動作。
 "Linear"の場合、スイッチON側で、かつスロットルスティックの設定ポジションよりロー側でリニアに動作。

エアブレーキ

① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

② "rate"の各項目を選択した状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100～+100%
初期値：+50%
(ELEVのみ -10%)

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押しします。(1秒以上)



③ "delay-ELEV"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してディレー量を調整します。



調整範囲：0～100%
初期値：0%

●100%でディレー量最大

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押しします。(1秒以上)



④ "SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：SwA～H, Ls1～3
初期値：SwC

⑤ スイッチON方向の選択の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：(右記)
初期値：DOWN

●スイッチON方向
NULL(常時OFF), UP(上でON), Up&Dn(上または下でON), Up&Ct(上またはセンターでON), CENTR(センターでON), Ct&Dn(センターまたは下でON), DOWN(下でON)

●ロジックスイッチの場合
NULL(常時OFF), REV(ON方向が反転), NORM(ロジックスイッチの設定どおり)

⑥ "MODE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して動作モードを選択します。



選択範囲：Offset, Linear
初期値：Offset

(前項で"Linear"を選択した場合)

⑦ 新たに表示される開始点の設定項目を選択した状態で、スロットルスティックをエアブレーキ開始点に保持し、ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

●エアブレーキ開始点が設定され、それよりロー側でエアブレーキがリニアに動作します。

機能説明

(このエレベーター→フラップミキシングの説明は飛行機の場合を示します。)

エレベーターからフラップにミキシングをかけたい場合に使用します。通常エレベーターがアップ（上に上がる）でフラップが下がるようにミキシングします。ファンフライ等の機体に使用すると小さな宙返りが可能となります。

- アップ側、ダウン側のレートが調整可能

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態ですべて、"MODE"キーを1秒以上押し続けてメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エレベーター→フラップ"を選択します。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。

- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- 基本メニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

(エレベーター→フラップミキシング 設定画面)

機能の有効にする: MIX INH

ミキシング量の調整: RATE ↑ +50%, RATE ↓ +50%

スイッチの選択: SW SwC

スイッチON方向の選択: POSI UP

- "INH"の場合は機能が使用できない状態。"ON"または"OFF"の場合は機能が有効な状態。"ON"、"OFF"はスイッチに連動して変化します。
(エレベーターダウン側レート)
(エレベーターアップ側レート)

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

エレベーター→フラップミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。

- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"RATE"の項目を選択した状態で、エレベータースティックをアップ側、ダウン側に操作し、それぞれのミキシング量を、ダイヤルを回して調整します。

調整範囲: -100~+100%
初期値: +50%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。

④"SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。

(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲: SwA~H, Ls1~3
初期値: SwC

⑤スイッチON方向の選択の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。

(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲: (右記)
初期値: UP

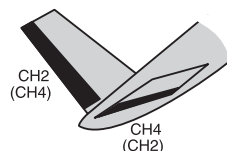
- スイッチON方向
NULL(常時OFF), UP(上でON), Up&Dn(上または下でON), Up&Ct(上またはセンターでON), CENTR(センターでON), Ct&Dn(センターまたは下でON), DOWN(下でON)
- ロジックスイッチの場合
NULL(常時OFF), REV(ON方向が反転), NORM(ロジックスイッチの設定どおり)

機能説明

エレベーターとラダー機能を組み合わせたV尾翼機に使用するミキシングです。

- エレベーター、ラダーの動作量を個別に調整できます。

注意：Vテール、エレボン、エレベーターはいずれかの機能のみ使用可能で、同時にONすることはできません。すでに他の機能が有効な場合、画面上に「Other WING mix "ON"」が表示されます。すでに有効になっている機能を"INH"に設定してから、Vテール機能をONにしてください。

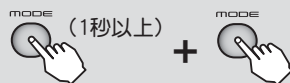


	CH2	CH4
エレベーター動作	ELE1	ELE2
ラダー動作	RUD2	RUD1

設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"Vテール"を選択します。



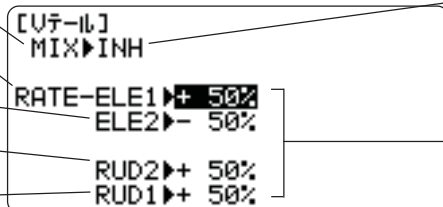
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- 基本メニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

- ③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(Vテール 設定画面)

- 機能を有効にする
- CURSOR
- ELE1の動作量の調整
- ELE2の動作量の調整
- RUD2の動作量の調整
- RUD1の動作量の調整



- "INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

(サーボ動作量)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

Vテール

- ①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ②"RATE-"の各項目を選択した状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100~+100%
初期値：+50%
(ELE2のみ -50%)

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

注意：スティックを動かしながら動作量を確認しながら設定することをお勧めします。動作量を大きく設定すると、エレベーター、ラダーの動作が複合し、サーボの動作範囲を越え、動作しない不感帯が発生する場合があります。

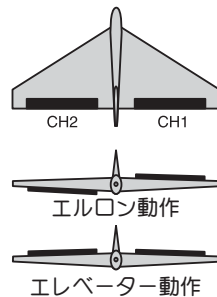
機能説明

エルロンとエレベーターの機能を組み合わせたデルタ翼機、無尾翼機、円盤機等に使用するミキシングです。

サーボは右側エルロンにCH1サーボ、左側エルロンにCH2サーボを接続してください。

- エルロン、エレベーターの動作量を個別に調整できます。

注意：エレボン、Vテール、エレベーターはいずれかの機能のみ使用可能、また、エレボン、フラップロン、エルロンディファレンシャルもいずれかの機能のみ使用可能で、それぞれ同時にONすることはできません。すでに他の機能が有効な場合、画面上に「Other WING mix "ON"」が表示されます。すでに有効になっている機能を"INH"に設定してから、Vテール機能をONにしてください。

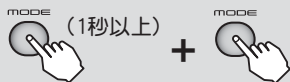


	CH1	CH2
エルロン動作	AIL1	AIL2
エレベーター動作	ELE2	ELE1

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エルボン"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(エレボン 設定画面)

機能を有効にする

AIL1の動作量の調整

AIL2の動作量の調整

ELE2の動作量の調整

ELE1の動作量の調整

(モデルタイプ"ACRO"の場合)

```

【エルボン】
MIX▶INH
          (L)  (R)
RATE-AIL1▶+100% +100%
          AIL2▶+100% +100%
          ELE2▶+100%
          ELE1▶-100%
    
```

- "INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

- エルロンはスティックの左右両方向について設定が可能。

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

```

【エルボン】
MIX▶INH
          (L)  (R)
          AIL1▶+100% +100%
          AIL2▶+100% +100%
          ELE2▶+100%
          ELE1▶-100%
    
```

(モデルタイプ"GLID(1A+1F)"の場合)

(矢印は現在のフライトコンディションスイッチの位置を示す)

- コンディションスイッチで設定したいコンディションを選択してから調整します。

- エルロンはスティックの左右両方向について設定が可能。

- レート調整時、レートの極性を変えようとした場合、確認表示"Change rate dir?"が表示されます。この場合、ダイヤルを1秒以上押し続けると表示が解除され設定が可能となります。(GLIDの場合)

エレボン

(モデルタイプ"ACRO"の場合)

① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

② "RATE-"の各項目を選択した状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%
(ELE1のみ -100%)

●AIL1およびAIL2の設定はエルロンスティックの左右両方向について調整できます。



(1秒以上)

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。

注意：スティックを動かしながら動作量を確認しながら設定することをお勧めします。動作量を大きく設定すると、エルロン、エレベーターの動作が複合し、サーボの動作範囲を越え、動作しない不感帯が発生する場合があります。

(モデルタイプ"GLID(1A+1F)"の場合)

① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

② "RATE-"の各項目を選択し、設定したいフライトコンディションにスイッチを切替えた状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%
(ELE1のみ -100%)

●AIL1およびAIL2の設定はエルロンスティックの左右両方向について調整できます。



(1秒以上)

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。

注意：スティックを動かしながら動作量を確認しながら設定することをお勧めします。動作量を大きく設定すると、エルロン、エレベーターの動作が複合し、サーボの動作範囲を越え、動作しない不感帯が発生する場合があります。

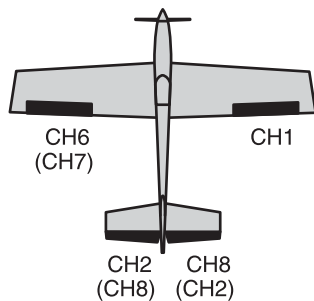
機能説明

エレベーターに2個のサーボを使用し、エレベーターがエルロン動作可能になるミキシングです。ジェット戦闘機等でエレベーターをエルロンとして使用するとより実機感が得ます。又エルロン動作を止めエレベーター2個サーボ仕様としても使用できます。

サーボは受信機の2CH,と8CH出力に接続します。

- エレベーター、エルロンの動作量を個別に調整ができます。

注意：エレベーター、Vテール、エレポンはいずれかの機能のみ使用可能で、同時にONすることはできません。すでに他の機能が有効な場合、画面上に「Other WING mix "ON"」が表示されます。すでに有効になっている機能を「INH」に設定してから、エレベーター機能をONにしてください。また、スロットル→ニードルミキシングとも同時にONすることができません。

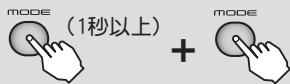


	CH2	CH8
エルロン動作	AIL3	AIL4
エレベーター動作	ELE1	ELE2

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ILバ - タ -"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

(エレベーター 設定画面)

機能を有効にする

AIL3の動作量の調整

AIL4の動作量の調整

ELE2の動作量の調整

ELE1の動作量の調整

[ILバ - タ -]

MIX▶INH

RATE-AIL3▶-50%

AIL4▶-50%

ELE2▶-100%

ELE1▶+100%

●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

(サーボ動作量)

エレベーター

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"RATE-"の各項目を選択した状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100～+100%
初期値：
AIL3, AIL4; -50%
ELE2; -100%, ELE1; +100%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



注意：スティックを動かし動作量を確認しながら設定することをお勧めします。動作量を大きく設定すると、エレベーター、ラダーの動作が複合し、サーボの動作範囲を越え、動作しない不感帯が発生する場合があります。

エルロン動作はさせず、エレベーター2個サーボ仕様として使用する場合はAIL3、AIL4の動作量を0%に設定してください。

機能説明

スナップロールをスイッチにより操作できます。

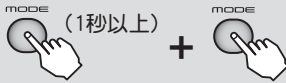
- ロール方向は2つのスイッチにより4方向が選べます。(2つのスイッチはスイッチA~Hから選択)
- また、安全対策として、引っ込み脚が出ているときに間違ってもスイッチを入れても動作しないように、セーフティスイッチが設定できます。

注意：トレーナー機能とは同時にONすることはできません。トレーナー機能が有効な場合、画面上に「TRAINER "ON"」が表示されます。トレーナー機能を"INH"に設定してから、この機能をONにしてください。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スナップ ロール"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(スナップロール 設定画面)



各サーボの動作量の調整

```

[スナップロール]
-rate-
MIX▶INH
SAFE-MODE▶FREE
DIR-SW1▶NULL
DIR-SW2▶NULL
    
```

(スナップロールの方向表示)

	SW1	SW2
1: R/U		
2: L/U		
3: R/D		
4: L/D		

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

●下記③の動作量の項目は、②で設定したスナップロール方向切り替えスイッチを設定したい方向に切り替えてから設定してください。R/U、L/U、R/D、L/Dの各方向を設定します。

スナップロール

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"OFF"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"DIR-SW"の各項目を選択した状態で、方向切替スイッチSW1、SW2をそれぞれ、ダイヤルを回して選択します。



選択範囲：NULL,A~H
初期値：NULL

③"rate"の各項目を選択した状態で、それぞれのサーボ動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-120~+120%
初期値：+100%

④"SAFE-MOD"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してセーフモードを設定します。



選択範囲：FREE,ON,OFF
初期値：FREE

●DIR-SW1の設定で3ポジションスイッチを選択した場合、1つのスイッチで1: R/U、2: L/U、3: R/Dの切替が可能となります。このとき、SW2は" "表示となり選択できません。

セーフモードの設定は、そのときの引っ込み脚スイッチの倒れている方向に対してON/OFFが設定されます。

●"ON"を選択した場合：そのときの引っ込み脚スイッチの倒れている方向で安全装置が動き、スナップスイッチを操作しても動作しません。引っ込み脚スイッチを反対側に倒すと"OFF"表示に変わり動作可能となります。

●"OFF"を選択した場合は："ON"に設定したときと逆方向で安全装置が動きます。

●"FREE"を選択した場合は：スイッチ方向に関係なく安全装置は動きません。

機能説明

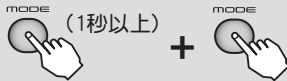
この機能を使用すると、スロットルサーボの動作速度を遅くすることができます。
(ターボジェットエンジンのスロットルコントロールに最適)

- ディレイ量が調整可能。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットルダイヤル"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

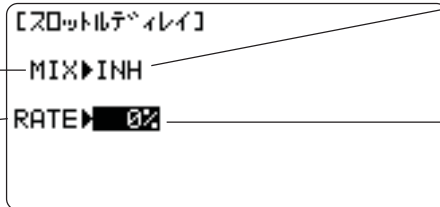
③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(スロットルディレイ 設定画面)



機能を有効にする
ディレイ量の調整



- "INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ACT"に切替えます。

- (スロットルのディレイ量)
- 100%でディレイ量最大となります。

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

スロットルディレイ

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"RATE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、ディレイ量を調整します。



(廻す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。



機能説明

この機能は、エンジンにミクスチャーコントロールシステム（ニードルコントロール等の混合気調整）が付いている場合に使用します。

CH8ボリュームツマミはハイ側混合気調整機能になります。スロットルニードルサーボは受信機の8CHへ接続します。

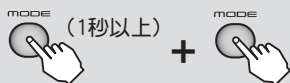
- スロットルスティック動作に対し5ポイントのカーブでミクスチャー（混合気）を設定可能。
- スロットルを開いたときに最良の混合気でエンジンが立ち上がるようにするためのアクセレーション機能を設定可能。

注意：この機能はエルベーター機能とは同時にONすることはできません。すでにエルベーター機能が有効な場合、画面上に「AILVATOR mix "ON"」が表示されます。エルベーター機能を"INH"に設定してから、この機能をONにしてください。

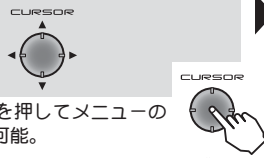
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットル→ニードル"を選択します。



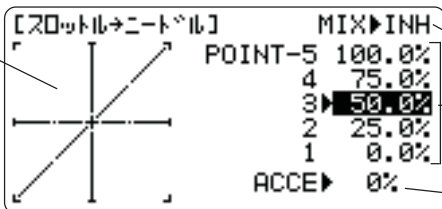
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。

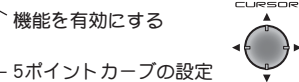


(スロットルニードルミキシング 設定画面)

●設定したカーブがグラフに表示されます。



●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



機能を有効にする
5ポイントカーブの設定

アクセレーションの調整

スロットルニードルミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"POINT"の項目の各ポイントを選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(廻す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：POS1=0%
POS2=25%
POS3=50%
POS4=75%
POS5=100%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



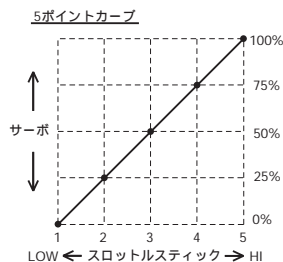
③"ACCE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してアクセレーション量を調整します。



(廻す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：0%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



機能説明

(飛行機用ジャイロ専用ミキシング)

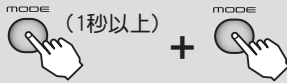
Futaba製飛行機用ジャイロGYA350/351/352のジャイロ感度およびジャイロモード (AVCS/NORM) を切り替えるための専用ミキシングです。GY352用として2軸目の設定が可能です。

- 感度切替スイッチが選択できスイッチの各方向の調整が可能です。(スイッチA~H)
飛行機の特性上、失速状態に陥るとジャイロでは姿勢の制御ができなくなります。安全上、3ポジションスイッチを使用して、OFF(0%)のポジションも設定しておくことをおすすめします。
- 感度設定チャンネルを選択できます。(CH5, 7, 8)

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"**MODE**"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"**MODE**"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"**CURSOR**"レバーでメニュー内の"**ジャイロミキシング**"を選択します。



- "**CURSOR**"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"**MODE**"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ジャイロミキシング 設定画面)

機能を有効にする	[ジャイロミキシング]	
	MIX-1▶INH	2▶INH
感度/モードの調整	UP ▶ 0%	▶ 0%
感度設定チャンネルの選択	CNTR	
	DOWN> 0%	> 0%
感度切替スイッチの選択	CH▶CH5	▶CH8
	SW▶G	▶G

● 設定項目の選択は**CURSOR**レバーで行ないます。

1軸目のジャイロ設定 2軸目のジャイロ設定

ジャイロミキシング

①"**MIX**"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"**ON**"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"**INH**"側に設定してください。

(スイッチを変更する場合のみ)
②"**SW**"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



- 選択範囲: A~H
初期値: G

(CHを変更する場合のみ)
③"**CH**"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してチャンネルを選択します。



- 選択範囲: CH5, 7, 8
初期値: CH5 (1軸目)
CH8 (2軸目)

④"**RATE-UP**"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して感度を調整します。



- 調整範囲: NOR100~0~AVC100%
初期値: 0%

(**"RATE-DOWN"**の項目も同様に調整します。)

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



- 3ポジションスイッチを選択した場合、感度調整はUP/CNTR/DOWNの3項目が表示されます。

機能説明

スロットルカーブはスロットルスティックの動きに対しエンジン回転が最良の飛行状態になるように7ポイントのカーブが設定できます。

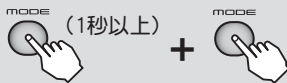
- スイッチのポジション毎にカーブを設定できます。
- カーブポイントの移動、削除が可能。

ただし、スロットルEXP機能が設定されている場合はこの機能は使用できません。また、この機能が設定されている場合はスロットルEXP機能は使用できません。

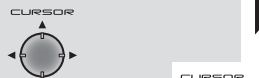
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットカーブ"を選択します。

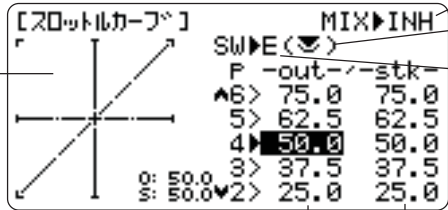


- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(スロットルカーブ設定画面)



●設定したカーブがグラフに表示されます。



●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

スロットルカーブを有効にする

(カッコ内は現在のスイッチポジションを表示)

スイッチの選択

7ポイントカーブの設定

各ポイントのレート変更

各ポイントのポジション変更

スロットルカーブ

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②スイッチの選択の項目で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H
初期値：A

(次ページに続く)

③各ポイントのレートの項目 ("-out-側) を選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：POINT-7 = 100.0%
POINT-6 = 75.0%
POINT-5 = 62.5%
POINT-4 = 50.0%
POINT-3 = 37.5%
POINT-2 = 25.0%
POINT-1 = 0.0%



(1秒以上)

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。

(設定ポイントのポジションを左または右に移動する場合)

④各ポイントのポジションの項目 ("-stk-"側) を選択した状態で、ダイヤルを回して、ポジションを左または右に移動します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：前後のポイントの2%手前まで。
初期値：POINT-7=(100%) (固定)
POINT-6 = 75.0%
POINT-5 = 62.5%
POINT-4 = 50.0%
POINT-3 = 37.5%
POINT-2 = 25.0%
POINT-1 = (0.0%) (固定)

(設定ポイントの削除または復帰)

⑤削除したいポイントのポジションの項目 ("-stk-"側) を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押し、そのポイントを削除します。



(1秒以上)

⑥復帰したいポイントのポジションの項目 ("-stk-"側) を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押し、そのポイントを復帰します。

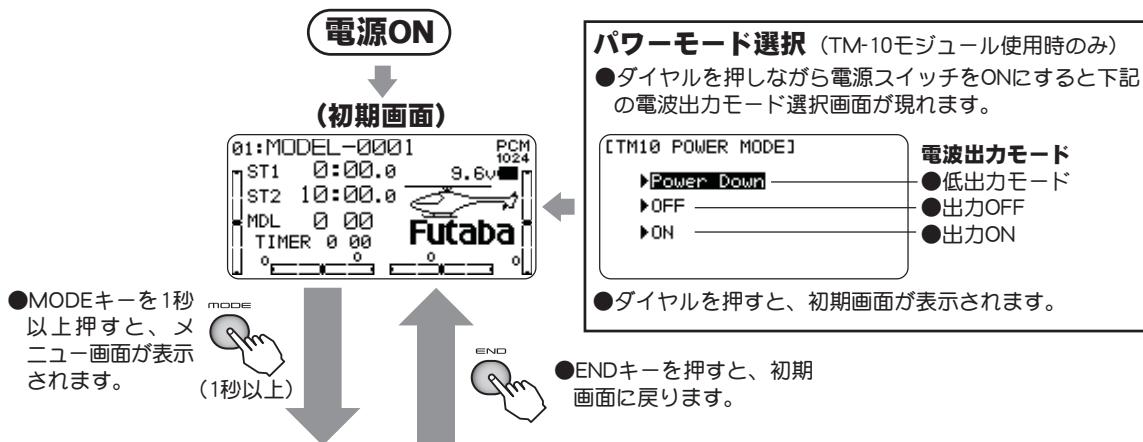


(1秒以上)

●復帰時、その前後のポイントの中間点となります。

ヘリ用(HELI)機能

各機能の設定画面は、ベーシックメニューおよびアドバンスメニューから呼び出します。
モデルタイプがヘリ用(HELI)に設定されている場合の機能を示します。



送信機設定画面

●MODEキーとENDキーを同時に押しながら電源スイッチをONにすると、下記の送信機設定画面が現れます。

[ソウジンキ セッテイ]	
STK-MODE▶	●スティックモード
THR-REV▶NOR	●スロットルリバース
ヒョウシ▶ニホンゴ(JPN)	●言語
TM10-MODE▶GENERAL	●エリアセレクト

(機能説明：P23)

●設定終了後、電源スイッチをOFFにします。

エディットキー /LCD画面

●MODEキー ●CURSORレバー



●ENDキー ●ダイヤル

アドバンスメニュー

(アドバンスメニュー1/2)

[アドバンス メニュー<HELI>] <1/2>	=SWASH HR3= MODEL-0001
▶スロットルカーブ	▶ホバリングスロットル
▶ピッチカーブ	▶ホバリングピッチ
▶ジャイロミキシング	▶ハイ/ローピッチトリム
▶ピッチ→ラダー	▶オフセット
▶スロットルホールド	▶ディレイ

(アドバンスメニュー2/2)

[アドバンス メニュー<HELI>] <2/2>	=SWASH HR3= MODEL-0001
▶ガバナミキシング	▶PROG.MIX1-6
▶スロットルミキシング	
▶スロットル→ニードル	▶コンディション

●スワッシュタイプ名を表示

- *スロットルカーブ (97)
スロットルカーブ
- *ピッチカーブ (99)
ピッチカーブ
- *ピッチ→ラダー (101)
ピッチ→ラダーミキシング
- *ジャイロミキシング (103)
ジャイロミキシング
- *ホバリングスロットル (104)
ホバリングスロットル
- *ホバリングピッチ (105)
ホバリングピッチ
- *ハイ/ローピッチトリム (106)
ハイ/ローピッチトリム
- *スロットルホールド (107)
スロットルホールド
- *オフセット(108)
トリムオフセット
- *ディレイ (109)
ディレイ

- *ガバナミキシング (110)
ガバナミキシング
- *スロットル→ニードル (112)
スロットル→ニードルミキシング
- *スロットルミキシング (113) <H+1以外>
スワッシュ→スロットルミキシング
- *PROG.MIX1-6 (66)
プログラマブルミキシング1-6
- *コンディション (114)
コンディションスイッチセレクト



●CURSORレバーで機能を選択します。



●ダイヤルを押して設定画面に入ります。

機能説明

(このD/R、EXPの説明はヘリ用の場合を示します)

デュアルレート (D/R)

演技によって、エルロン、エレベーター、ラダーの各チャンネルを初期舵角以外の舵角に切り替えて使いたい場合に使用します。

- 舵角調整はスイッチの各方向が個別に設定できます。
- コンディションに連動させることができます。

エキスポネンシャル (EXP)

エルロン、エレベーター、ラダーのニュートラル付近のスティック動作に対するサーボの動きを鈍くしたり、または、敏感にして、操縦を楽に行えるような動作カーブに変更する機能です。

- "-側はニュートラル付近が鈍くなり、"+"側は逆に敏感になります。
- デュアルレート(D/R)のそれぞれのレートに対応して設定できます。スイッチの各方向が個別に設定できます。

スイッチ選択 (SW)

デュアルレート (エキスポネンシャル) の切替スイッチをそれぞれ選択できます。

(選択できるスイッチ等)

- スイッチA~H
- コンディションcond.

(初期設定位置)

- エルロン：Dスイッチ
- エレベーター：Aスイッチ
- ラダー：Bスイッチ

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"デュアル、エキス"を選択します。

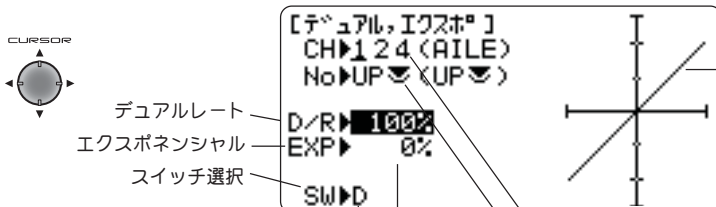


- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(デュアル、エキスポ 設定画面)



- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

(スイッチNo.)

(レート表示)

(チャンネル表示)

(スイッチ方向表示)

- デュアルレート、エキスポネンシャルの設定値をカーブで表示します。

<チャンネル表示>

- HELI
- 1 AILE
- 2 ELEV
- 3 -----
- 4 RUDD

デュアルレート

①デュアルレートの項目が選択されている状態で、**CURSOR**レバーの左右操作でチャンネルを選択し、**CURSOR**レバーを押してスイッチ方向を選択します。

CURSOR



●左右操作でチャンネル選択

CURSOR



●押してスイッチ方向を選択

②チャンネルおよびスイッチの各方向で、ダイヤルを回してレートを調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～140%

初期値：100%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上



(1秒以上)を押します。

●**CURSOR**レバーを上下方向に操作して、同一チャンネルおよびスイッチ位置の状態での別の設定項目への移動が可能。



エクスポネンシャル

①エクスポネンシャルの項目が選択されている状態で、**CURSOR**レバーの左右操作でチャンネルを選択し、**CURSOR**レバーを押してスイッチ方向を選択します。

CURSOR



●左右操作でチャンネル選択

CURSOR



●押してスイッチ方向を選択

②チャンネルおよびスイッチの各方向で、ダイヤルを回してレートを調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100～+100%

初期値：0%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上



(1秒以上)を押します。

●**CURSOR**レバーを上下方向に操作して、同一チャンネルおよびスイッチ位置の状態での別の設定項目への移動が可能。



スイッチ選択

①スイッチ選択の項目が選択されている状態で、**CURSOR**レバーの左右操作でチャンネルを選択します。

CURSOR



●左右操作でチャンネル選択

②ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：

スイッチA～H、Cond.

初期値：

エルロン：Dスイッチ

エレベーター：Aスイッチ

ラダー：Bスイッチ

●"Cond."を選択した場合、ノーマル、アイドルアップ1/2/3、ホールドの各コンディション毎の設定が可能となります。

機能説明

ヘリの場合：

フライト終了後にエンジンを停止させるために使用する機能で、スロットルトリムのトリム位置を変えずに、スイッチにより、ワンタッチでエンジンカット（ストップ）が可能になります。これにより毎回トリムを移動し、アイドルングの位置を探す必要がなくなります。

スロットルスティックが機能ON,OFFのスロットルポジション（通常最スロー付近に設定）より下側の場合、スイッチ操作により機能が作動し、スロットルサーボはトリムのセンター位置を基準に設定された量だけオフセットします。

安全のためにも是非スロットルカット機能を設定しましょう。

- スイッチ及びスイッチ方向が選択できます。ロジックスイッチも使用可能。（64ページ）

（設定例及び注意）

オフセット量はスロットルカットスイッチをONし、"- "値方向にオフセット量を大きくし、キャブレターが全閉になるように調整します。（設定範囲±30%）

誤操作防止のため、スロットルスティックがスロットルポジションより上にある場合は、スロットルカットスイッチを操作しても機能は働かないようになっています。また、安全のため、スロットルカット機能がON後、スロットルスティックがスロットルポジションより上にある場合は、エンジンカットスイッチをOFFしても、エンジン回転が急に上がり危険な状態になることを避けるため、スティックをスロットルポジションより一旦下げないとスロットルカット機能を解除することはできません。

スロットルリンケージの際、デジタルトリムを最スローにし、キャブレターが全閉になるように調整しておきます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットルカット"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



（スロットルカット 設定画面）



- 機能を有効にする
- オフセット量の調整
- スロットルポジションの設定
- スイッチの選択
- スイッチのON/OFF方向

[スロットルカット]

MIX▶INH

RATE▶0%

THRO▶5% (50%)

SW▶SwH

POSI▶DOWN

(ON方向) (スイッチ名)

- "INH"の場合は機能が使用できない状態。"ON"または"OFF"の場合は機能が有効な状態。ON、OFFはスイッチに連動して変化します。

- オフセット量はトリムのセンター位置を基準に設定された量だけオフセットされます。"- "値方向に設定します。

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

スロットルカット

- ① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ② "RATE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してオフセット量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：
-30~+30%
(初期値：0%)

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押しします。



(1秒以上)

- ③ "THR"の項目を選択した状態で、スイッチングしたいポジションにスロットルスティックを固定し、ダイヤルを1秒以上押しします。

調整範囲：0~100%
(初期値：5%)



(1秒以上)

注意：通常最スロー付近に設定する。

スロットルポジションのロー側でスロットルカット機能が働きます。

- ④ "SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, Ls1~3
初期値：H

- ⑤ "POS"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

●スイッチを変更するとスイッチの方向は"NULL"となります。方向を再設定してください。

調整範囲：
2ポジションSWの場合：
NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合：
NULL, UP, Up&Cntr,
CENTER, Cntr&Dn, DOWN
初期値：DOWN

機能説明

この機能は、スワッシュタイプがHR3、H-3、HE3、HN3、H-2、H-4またはH4Xが選択されている場合の舵角調整機能（AFR機能）です。エルロン、エレベーター、ピッチの舵角および方向が調整できます。

ただし、スワッシュタイプがH-1の場合は、この設定画面は表示されません。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態、"MODE"キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。


②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スワッシュAFR"を選択します。



●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押し設定画面に入ります。





●設定チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。

(スワッシュ AFR 設定画面)

[スワッシュAFR]

RATE-AILE▶+ 50%

ELEV▶+ 50%

PITC▶+ 50%

(舵角調整)

スワッシュ AFR

①"RATE-"の各チャンネルを選択した状態で、それぞれの舵角を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100～+100%
初期値：+50%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

機能説明

スロットカーブ (ノーマル) :


ノーマル時のスロットカーブが設定できます。ベーシックメニューでは基本になるこのノーマルカーブのみが表示されます。スロットカーブはスロットルスティックの動きに対しエンジン回転が最良の飛行状態になるように7ポイントのカーブが設定できます。ノーマル時のスロットカーブは、ホバリングを中心とした基本的なスロットカーブを作ります。ノーマル時のピッチカーブと合わせて、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

- 7ポイントカーブが設定できます。
- スロットカーブにはノーマル(NORM),アイドルアップ1(IDL1),アイドルアップ2(IDL2),アイドルアップ3(IDL3)があります。また、このノーマルカーブはベーシックおよびアドバンスメニューのどちらでも設定が可能で、設定した内容は自動的にアドバンス、ベーシックの両メニューに反映されます。


設定方法

設定画面の呼び出し


①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押し、ベーシックメニューを呼び出します。

 (1秒以上)

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットカーブ"を選択します。



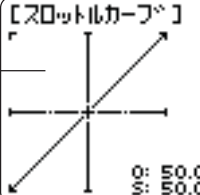
③ダイヤルを押し設定画面に入ります。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

(スロットカーブ 設定画面)

●設定したカーブがグラフに表示されます。



〔スロットカーブ〕 <NORM>

POINT-7>100.0

6> 75.0

5> 62.5


4> 50.0

3> 37.5

2> 25.0

1> 0.0

(ノーマルカーブを示す)




7ポイントカーブの設定

●設定ポイントの選択はCURSORレバーで行ないます。

スロットカーブ (ノーマル)

①"POINT"の項目の各ポイントを選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0~100%

初期値：POINT-7=100.0%

POINT-6= 75.0%

POINT-5= 62.5%


POINT-4= 50.0%

POINT-3= 37.5%

POINT-2= 25.0%

POINT-1= 0.0%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押しします。

 (1秒以上)

機能説明

ピッチカーブ (ノーマル) :

ノーマル時のピッチカーブが設定できます。ベーシックメニューでは基本になるこのノーマルカーブのみが表示されます。ピッチカーブはスロットルスティックの動きに対しピッチが最良の飛行状態になるように7ポイントのカーブが設定できます。

ノーマル時のピッチカーブは、ホバリングを中心とした基本的なピッチカーブを作ります。ノーマル時のスロットルカーブと合わせて、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

- 7ポイントカーブが設定できます。
- ピッチカーブにはノーマル(NORM)、アイドルアップ1(IDL1)、アイドルアップ2(IDL2)、アイドルアップ3(IDL3)、ホールド(HOLD)があります。また、ノーマルカーブはベーシックおよびアドバンスメニューのどちらでも設定が可能で、設定した内容は自動的にアドバンス、ベーシックの両メニューに反映されます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ピッチカーブ"を選択します。

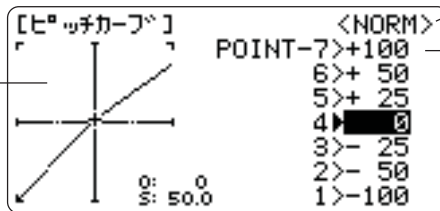


- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ピッチカーブ 設定画面)



- 設定したカーブがグラフに表示されます。

(ノーマルカーブを示す)

7ポイントカーブの設定



- 設定ポイントの選択はCURSORレバーで行ないます。

ピッチカーブ (ノーマル)

①"POINT"の項目の各ポイントを選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲 : 0~100%
初期値 : POINT-7=>+100%
POINT-6= +50%
POINT-5= +25%
POINT-4= 0%
POINT-3= -25%
POINT-2= -50%
POINT-1= -100%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上



(1秒以上)

機能説明

ピッチ→ラダーミキシング (ノーマル) :

ノーマル時のピッチ→ラダーミキシングが設定できます。ベシクメニューでは基本になるノーマルのみが表示されます。ピッチ→ラダーミキシングはメインローターのピッチ、及び回転数に応じて発生する反動トルク（メインローターの回転方向と反対の方向に胴体を回そうとする力）を抑えるためのテールローターのピッチを制御するミキシングで、メインローターのピッチが変化し反動トルクが出た時に、テールローターのピッチも変化させ、ラダー方向の機首振りが出ないように調整をとりまします。ただし、GYシリーズ等の高性能ジャイロを使用する場合、このピッチ→ラダーミキシングが不要もしくは使用しても小さなミキシング量となります。

- ミキシング量が5ポイントのカーブで設定できます。
- 動作方向は右回転のローターの場合ピッチがプラスになった時ラダーが右方向にミキシングするよう設定し、左回転の場合は、反対の設定となります。動作方向の設定はカーブ内の±を反転させて変えます。

右回転の場合：スロットルロー側から-20,-10,0,+10,+20%

左回転の場合：スロットルロー側から+20,+10,0,-10,-20%

*上記の数値は初期値です。実際の設定数値に置き換えてください。

ピッチ→ラダーミキシングにはノーマル(NORM)、アイドルアップ1/2(IDL1/2)、アイドルアップ3(IDL3)があります。また、ノーマルのカーブはベシクおよびアドバンスメニューのどちらでも設定が可能で、設定した内容は自動的にアドバンス、ベシクの両メニューに反映されます。

(調整手順)

最初にホバリング飛行でトリムをとり、ニュートラルを出しておく。

1.スロットルロー側 (スロー、ホバリング間) の調整

離陸からホバリング、ホバリングから着陸を自分のリズムに合った一定レートで繰り返し、スロットルの上げ下げで機首を振らないようにピッチ→ラダーミキシングで調整します。

ホバリングから着陸する時機首が左に向く場合、または離陸時機首が左に向き、ホバリングでは安定し、スティックがニュートラルになる場合は、ロー側のミキシング量が多く、反対に向く場合はミキシング量が少ないことが考えられます。離陸の場合、地上の状態により機首方向が安定しない場合があります、またローターの回転が上まらない場合も機首方向が不安定となります。

2.スロットルハイ側 (ホバリングから上昇、降下しホバリングまで) の調整

ホバリングから上昇、降下しホバリングまでを自分のリズムに合った一定レートで繰り返し、スロットルの上げ下げで機首を振らないようにピッチ→ラダーミキシングで調整します。ホバリングから上昇する時機首が右に向く場合、ハイ側のミキシング量が多く、左に向くときはミキシング量が少なすぎます。上昇、降下を繰り返しバランスをとりながら調整します。

設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し、ベシクメニューを呼び出します。



- ベシクメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ピッチ→ラダー"を選択します。



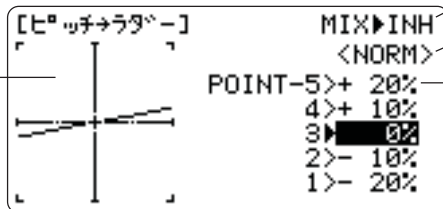
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

- ③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ピッチ→ラダーミキシング 設定画面)

●設定したカーブがグラフに表示されます。



機能を有効にする

(ノーマルカーブを示す)

5ポイントカーブの設定



●設定項目の選択は**CURSOR**レバーで行ないます。

ピッチ→ラダーミキシング (ノーマル)

① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

② "POINT"の項目の各ポイントを選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100～+100%
初期値：POINT1=-20%
POINT2=-10%
POINT3=0%
POINT4=+10%
POINT5=+20%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上



(1秒以上)

機能説明

スロットルカーブはスロットルスティックの動きに対しエンジン回転が最良の飛行状態になるように7ポイントのカーブで設定でき、各ポイントとも0~100%の範囲で調整できます。
 スロットルカーブにはノーマル(NORM)、アイドルアップ1(IDL1)、アイドルアップ2(IDL2)、アイドルアップ3(IDL3)があります。ベーシックメニューでは基本になるノーマルのみが表示されますが、このアドバンスメニューでは全カーブについて設定できます。ベーシック又はアドバンスメニューで設定したノーマルカーブは自動的にアドバンス、ベーシックの両メニューに反映されます。
 ノーマル(NORM)、アイドルアップ1(IDL1)、アイドルアップ2(IDL2)、アイドルアップ3(IDL3)の切替操作はアイドルアップスイッチ(スイッチE,F)で行います。

(ノーマルカーブの調整方法)

スロットルカーブのノーマル(NORM)では、ホバリングを中心とした基本的なスロットルカーブを作ります。ノーマルピッチカーブと合わせて、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。ノーマルスロットルカーブ機能は常時ON設定されております。

(アイドルアップ1,2,3カーブの調整方法)

上空飛行でピッチを減らす操作をした時でも、エンジンが常に一定回転を保てるよう、アイドルアップカーブを設定します。ループ、ロール、3Dなど、目的に合わせカーブを作り、演技によりアイドルアップカーブ1,2,3を使い分けます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットカーブ"を選択します。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。

- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

(スロットルカーブ設定画面)

●設定したカーブがグラフに表示されます。

アイドルアップを有効にする
 (カッコ内は現在のコンディションを表示)
 コンディションの選択
 7ポイントカーブの設定

[スロットルカーブ]		MIX▶INH
COND▶IDL1(NORM)		
P	-out-	-stk-
▲6>	75.0	75.0
5>	62.5	62.5
4▶	50.0	50.0
3>	37.5	37.5
0: 50.0	2>	25.0
S: 50.0		

各ポイントのレート変更 各ポイントのポジション変更

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

(IDLスイッチ)
 NORM : SWE (奥側)
 IDL1 : SWE (センター)
 IDL2 : SWE (手前側)
 IDL3 : SWF (手前側)

(カーブのコピー方法)

コンディションの選択の項目でダイヤルを押すと、そのコンディションから他のコンディションへのカーブのコピーが可能です。ダイヤルを廻してコピー先のコンディションを選択し、1秒以上ダイヤルを押すとコピーされます。

スロットルカーブ (NORM/IDL1/IDL2/IDL3)

- ①コンディションの選択の項目で、ダイヤルを回して"NORM","IDL1","IDL2"または"IDL3"を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- CURSORレバーを押してコンディションを選択することも可能です。

- ②"IDL1","IDL2"または"IDL3"を選択した場合、"MIX"の項目で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"を選択します。



- このとき、ピッチカーブ (アイドルアップ) も同時に動作可能状態になります。

- ③各ポイントのレートの項目 ("-out-"側) を選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：POINT-7=100.0%
POINT-6=75.0%
POINT-5=62.5%
POINT-4=50.0%
POINT-3=37.5%
POINT-2=25.0%
POINT-1=0.0%



(1秒以上)

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。

(設定ポイントのポジションを左または右に移動する場合)

- ④各ポイントのポジションの項目 ("-stk-"側) を選択した状態で、ダイヤルを回して、ポジションを左または右に移動します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：前後のポイントの2%手前まで。
初期値：POINT-7=(100%) (固定)
POINT-6=75.0%
POINT-5=62.5%
POINT-4=50.0%
POINT-3=37.5%
POINT-2=25.0%
POINT-1=(0.0%) (固定)

(設定ポイントの削除または復帰)

- ⑤削除したいポイントのポジションの項目 ("-stk-"側) を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押して、そのポイントを削除します。



(1秒以上)

- ポイント1と7は削除できません。

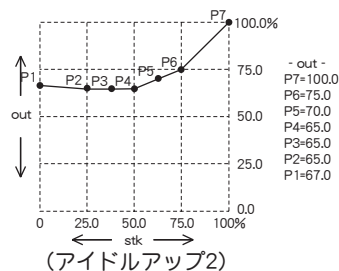
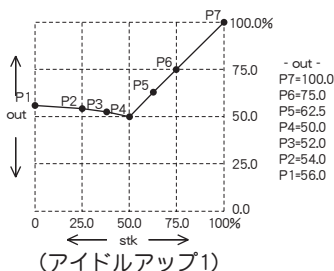
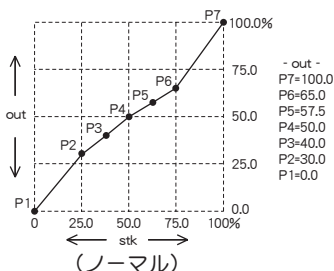
- ⑥復帰したいポイントのポジションの項目 ("-stk-"側) を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押してそのポイントを復帰します。



(1秒以上)

- 復帰後のポイントはその前後のポイントの間となります。

●スロットルカーブ設定例



⚠ 注意

[操作時の注意事項]

- ❗ エンジンを始動する場合、アイドルアップスイッチ1/2/3は必ずOFFとし、アイドリングでエンジンを始動してください。

機能説明

ピッチカーブはスロットルスティックの動きに対し、ピッチが最良の飛行状態になるように7ポイントのカーブで設定でき、各ポイントとも、0%~100%の範囲で調整できます。

ピッチカーブにはノーマル(NORM),アイドルアップ1(IDL1),アイドルアップ2(IDL2),アイドルアップ3(IDL3),ホールド(HOLD)があります。ベーシックメニューでは基本になるノーマルのみが表示されますが、アドバンスメニューでは全ピッチカーブについて設定できます。ベーシック又はアドバンスメニューで設定したノーマルカーブは自動的にアドバンス、ベーシックの両メニューに反映されます。ノーマル(NORM),アイドルアップ1(IDL1),アイドルアップ2(IDL2),アイドルアップ3(IDL3)の切替操作はアイドルアップスイッチ(E,Fスイッチ)で行います。ホールド(HOLD)機能への切替操作は(Gスイッチ)で行います。

注意: アイドルアップスイッチがどの位置であっても、ホールドスイッチをONした場合、ホールド機能が優先されます。

(ノーマルカーブの調整方法)

ピッチカーブのノーマル(NORM)では、ホバリングを中心とした基本的なピッチカーブを作ります。スロットルカーブ(ノーマル)と合わせて、エンジン回転が一定で、上下のコントロールが一番やりやすくなるように調整します。

(アイドルアップ1,2,3カーブの調整方法)

ハイ側ピッチカーブはエンジンに負担のかからない最大のピッチを設定します。ロー側ピッチカーブはループ、ロール、3D等の目的に合ったカーブを作り、演技によりアイドルアップ1,2,3カーブを使い分けます。

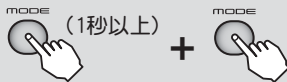
(スロットルホールドカーブの調整方法)

スロットルホールドカーブは、オートローテーション降下を行うときに使用します。中間のピッチ設定はピッチアップ時のスティックワークに合わせて設定してください。

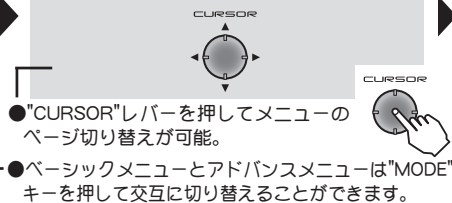
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ピッチカーブ"を選択します。



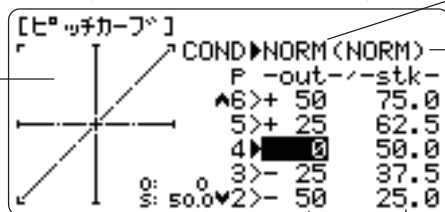
③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ピッチカーブ設定画面)

●設定したカーブがグラフに表示されます。

(IDLスイッチ)
 NORM : SWE (奥側)
 IDL1 : SWE (センター)
 IDL2 : SWE (手前側)
 IDL3 : SWF (手前側)
 HOLD : SWG (手前側)



コンディションの選択

(カッコ内は現在のコンディションを表示)

7ポイントカーブの設定

各ポイントのレート変更

各ポイントのポジション変更

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

ピッチカーブ (NORM/IDL1/IDL2/IDL3/HOLD)

- ①コンディションの選択の項目で、ダイヤルを回して"NORM","IDL1","IDL2","IDL3"または"HOLD"を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- CURSORレバーを押してコンディションを選択することも可能です。

- ②各ポイントのレートの項目 ("-out"側) を選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：POINT-7 = 100%
POINT-6 = 50%
POINT-5 = 25%
POINT-4 = 0%
POINT-3 = -25%
POINT-2 = -50%
POINT-1 = -100%



(1秒以上)

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押しします。

(設定ポイントのポジションを左または右に移動する場合)

- ③各ポイントのポジションの項目 ("-stk"側) を選択した状態で、ダイヤルを回して、ポジションを左または右に移動します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：前後のポイントの2%手前まで。
初期値：POINT-7=(100%) (固定)
POINT-6 = 75.0%
POINT-5 = 62.5%
POINT-4 = 50.0%
POINT-3 = 37.5%
POINT-2 = 25.0%
POINT-1 = (0%) (固定)

(設定ポイントの削除または復帰)

- ④削除したいポイントのポジションの項目 ("-stk"側) を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押しして、そのポイントを削除します。



(1秒以上)

- ポイント1と7は削除できません。

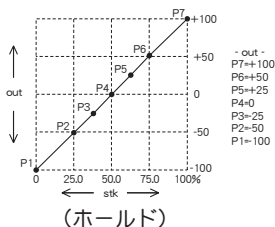
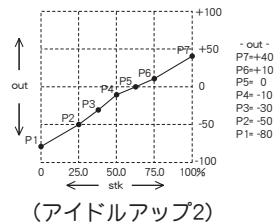
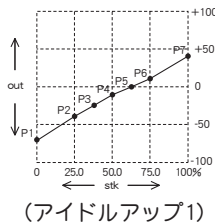
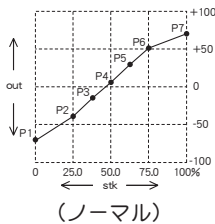
- ⑤復帰したいポイントのポジションの項目 ("-stk"側) を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押ししてそのポイントを復帰します。



(1秒以上)

- 復帰後のポイントはその後ポイントの間となります。

●ピッチカーブ設定例



機能説明

リボリユーションミキシングにはノーマル(NORM),アイドルアップ1/2(IDL1/2),アイドルアップ3(IDL3)があります。

このミキシングはメインローターのピッチ、及び回転数に応じて発生する反動トルクを抑えるための"ピッチ→ラダー"ミキシングで、ミキシング量が5ポイントのカーブで設定できます。ベーシックメニューでは基本になるノーマルのみが表示されますが、アドバンスメニューでは全リボリユーションカーブについて設定できます。またベーシック又はアドバンスメニューで設定したノーマルカーブは自動的にアドバンス、ベーシックの両メニューに反映されます。

(アイドルアップ1/2,3リボリユーションミキシング)

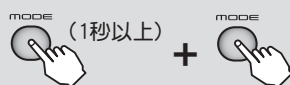
高速飛行時ラダー方向が直進できるようにミキシング量を設定します。ミキシングはカーブ、またはオフセット的な設定どちらもできます、使用状況に合わせて設定してください。

3Dフライト等を行う場合背面側のラダーミキシングも設定可能です。

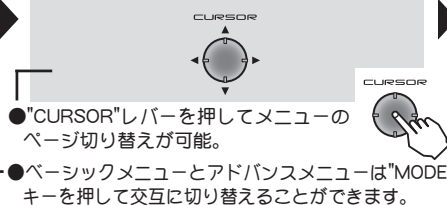
設定方法

設定画面の呼び出し

- ①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



- ②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ピッチ→ラダー"を選択します。



- ③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ピッチ→ラダーミキシング 設定画面)

●設定したカーブがグラフに表示されます。

(IDLスイッチ)
NORML : SWE (奥側)
IDL1/2 : SWE (センター、手前)
IDLE3 : SWF (手前側)

MIX▶INH
▶NORML (NORML)
POINT-5>+ 20%
4>+ 10%
3▶ 0%
2>- 10%
1>- 20%

●ミキシングを有効にする
(カッコ内は現在のコンディションを表示)
コンディションの選択
5ポイントカーブの設定

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

(カーブのコピー方法)

コンディションの選択の項目でダイヤルを押すと、そのコンディションから他のコンディションへのカーブのコピーが可能です。ダイヤルを廻してコピー先のコンディションを選択し、1秒以上ダイヤルを押すとコピーされます。

リボリューションミキシング (NOML,IDL1/2,IDL3)

① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を 사용하지 ない場合は "INH"側に設定してください。

② コンディションの選択の項目で、ダイヤルを回して "NORML", "ID1/2"または "IDLE3"を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

●CURSORレバーを押してコンディションを選択することも可能です。

② "POINT"の項目の各ポイントを選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

(NORMLコンディション)

調整範囲：-100~+100%

初期値：POINT-5=+20%

POINT-4=+10%

POINT-3=0%

POINT-2=-10%

POINT-1=-20%

(IDL1/2,3コンディション)

調整範囲：-100~+100%

初期値：POINT-5=0%

POINT-4=0%

POINT-3=0%

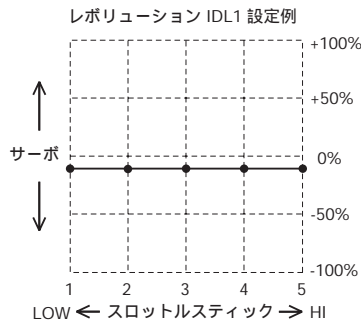
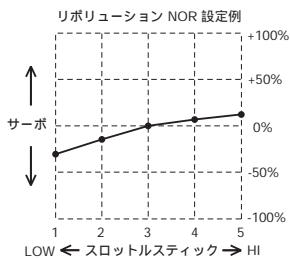
POINT-2=0%

POINT-1=0%



(1秒以上)

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



*リボリューションミキシング (ID1/2,IDL3) はスロットルカーブ (IDL1,IDL2,IDL3) がそれぞれONのときに動作可能となります。

機能説明

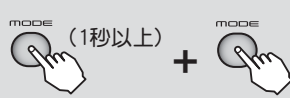
送信機側からジャイロ感度を調整するミキシングです。AVCSジャイロ (GYモード) とノーマルジャイロ (STDモード) の設定モードが選択ができます。このミキシングはジャイロの感度調整入力コネクターを受信機の5CH目出力に接続して使用します。

- 感度切替えスイッチが選択でき、各方向の調整ができます。コンディションに連動させることもできます。
- GYモード選択時、感度設定値に"AVC"または"NOR"が表示されます。


設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。




②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ジャイロミキシング"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ジャイロミキシング 設定画面)

機能を有効にする

ジャイロ感度調整

CURSOR

【ジャイロミキシング】

MIX▶INH MODE▶STD SW▶F

RATE-UP ▶50.0%◀

DOWN▶ 50.0%

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。


●"GY"モードの場合は、感度設定値の前に、動作モード表示"AVC"または"NOR"が表示されます。

●AVCSジャイロの場合は"GY"を選択し、ノーマルジャイロの場合は"STD"を選択し、てください。

●スイッチA~H、コンディションCond.から選択できます。スイッチを選択した場合は、スイッチの各方向について感度調整ができます。Cond.を選択した場合は、"NORM"、"IDL1"、"IDL2"、"IDL3"、"HOLD"の各コンディション毎に感度調整ができます。


ジャイロミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。




●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"MODE"の項目を選択した状態で、ジャイロのタイプに合わせて、"GY"または"STD"に切替えます。



●AVCSジャイロの場合"GY"側に設定し、ノーマルジャイロの場合は"STD"側に設定してください。

③"RATE-"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してジャイロ感度を調整します。




(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：

"STD"の場合：0~100% (初期値：50%)

"GY"の場合：NOR100~0~AVC100% (初期値：0%)

④"SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H,Cond.
初期値：F

機能説明

ホバリングスロットルは、ホバリングポイント付近のスロットルのトリム機能で、そのトリムがメモリーできます。モデルメモリーを変更する前にメモリーを行うと、再呼び出し時、ツマミをセンターにするだけで元のトリム状態になります。

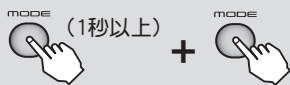
ホバリングスロットルツマミを右に回すと、エンジン回転が上がり、左に回すと回転が下がります。温度、湿度等飛行条件の変化に伴うローター回転数の変化に対し微調整ができます。ローター回転が一番安定するように調整して下さい。又ホバリングピッチ機能と併用することにより、より細かく微調整が可能になります。

●動作コンディションをノーマルのみまたはノーマル/アイドルアップ1を選択できます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ホバリングスロットル"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

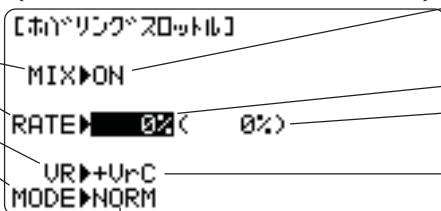
③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ホバリングスロットル 設定画面)



- 機能を有効にする
- トリムメモリーの補正量
- ツマミの選択
- 動作コンディションの選択



●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ON"に切替えます。

(トリムメモリー時の補正量)

(ホバリングスロットルツマミを含めた実際の補正量)

●NULL (常時OFF)、+VrA、-VrA ~ +VrE、-VrEから選びます。極性により、ツマミの動作方向が異なります。

NORM : ノーマルコンディションのみで動作
NORM/IDL1 : ノーマルおよびアイドルアップ1で動作

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

ホバリングスロットル

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

(動作モードを選択する場合)
②"MODE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して動作モードを選択します。



選択範囲:
NORM,NORM/IDL1
初期値: NORM

③"VR"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してツマミを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲: NULL,
+VrA,-VrA~+VrE,-VrE
初期値: +VrC

④"RATE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押すことにより、そのときのツマミ位置をメモリーします。



(1秒以上)

調整範囲: -100~+100%
初期値: 0%

●初期値に戻す場合は、ツマミで実際の補正量を0%とし、トリムメモリーを行います。ツマミをセンターに戻して終了。



(1秒以上)

●メモリー後ホバリングスロットルツマミをセンターに戻すと、トリムはメモリーを行う前の位置となります。

[注意事項] 同じ位置でメモリーを繰り返すと値が積算されます。

機能説明

ホバリングピッチは、ホバリングポイント付近のピッチのトリム機能で、そのトリムがメモリーできます。モデルメモリーを変更する前にメモリーを行うと、再呼び出し時、ツマミをセンターにするだけで元のトリム状態になります。

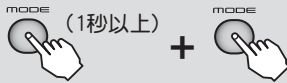
ホバリングピッチツマミを右に回すと、ピッチが強くなり、左に回すとピッチが弱くなります。温度、湿度等飛行条件等の変化に伴うローター回転数の変化に対し微調整ができます。ローター回転が一番安定するように調整してください。また、ホバリングスロットル機能と併用することにより、より細かく微調整が可能になります。

●動作コンディションをノーマルのみまたはノーマル/アイドルアップ1を選択できます。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ホバリングピッチ"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

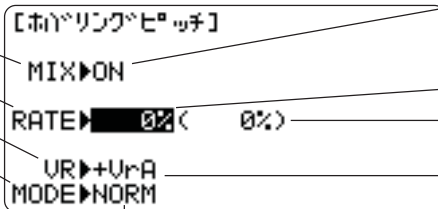
③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ホバリングピッチ 設定画面)



- 機能を有効にする
- トリムメモリーの補正量
- ツマミの選択
- 動作コンディションの選択



●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ON"に切替えます。

(トリムメモリー時の補正量)

(ホバリングピッチツマミを含めた実際の補正量)

●NULL (常時OFF)、+VrA、-VrA ~ +VrE、-VrEから選びます。極性により、ツマミの動作方向が異なります。

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

NORM: ノーマルコンディションのみで動作
NORM/IDL1: ノーマルおよびアイドルアップ1で動作

ホバリングピッチ

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

(動作モードを選択する場合)
②"MODE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して動作モードを選択します。



選択範囲:
NORM,NORM/IDL1
初期値: NORM

③"VR"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してツマミを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)
選択範囲: NULL,
+VrA,-VrA~+VrE,-VrE
初期値: +VrA

④"RATE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押し続けることにより、そのときのツマミ位置をメモリーします。



(1秒以上)

調整範囲: -100~+100%
初期値: 0%

●初期値に戻す場合は、ツマミで実際の補正量を0%とし、トリムメモリーを行います。ツマミをセンターに戻して終了。



(1秒以上)

●メモリー後ホバリングピッチツマミをセンターに戻すと、トリムはメモリーを行う前の位置となります。

[注意事項] 同じ位置でメモリーを繰り返すと値が積算されます。

機能説明

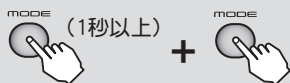
このハイ側/ロー側ピッチトリムは、フライトコンディション毎（ノーマル、アイドルアップ1/2/3、ホールド）にピッチサーボのハイ側、ロー側を個別に最適ピッチに調整できます。

- ハイピッチ、ローピッチのトリムレバーおよび操作方向をそれぞれ選択できます。トリムレバーは各コンディション共通で動作し、コンディション毎にトリムレバーの使用/不使用を選択できます。
- モデルメモリーを変更する前に、それぞれのトリム位置をメモリーすると、再呼出し時、ツマミをセンターにすることにより元のトリム位置を呼出すことができます。

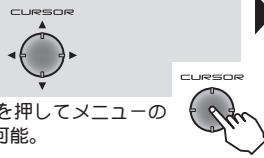
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ハイ/ローピッチトリム"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

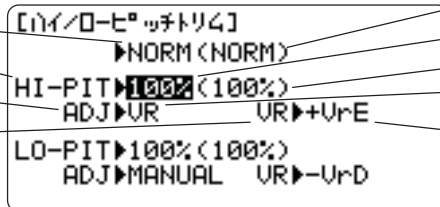
③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(ハイ/ローピッチトリム 設定画面)



コンディションの選択
ハイ側ピッチの調整
ハイ側調整モードの選択
ハイ側トリムの選択
(ロー側も同様)



(現在のフライトコンディション)
(トリムメモリー時の調整量)
(ハイピッチトリムを含めた実際の調整量)
●VR: トリム動作、MAN: トリムOFF
●+VrA、-VrA~+VrE、-VrEから選
びます。極性により、ツマミの動
作方向が異なります。

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

ハイ/ローピッチトリム

①コンディション選択の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、設定しているコンディションを選択します。



選択範囲：
NORM, IDL1, IDL2,
IDL3, HOLD

(調整モードを変更する場合)
②ハイ側またはロー側の"ADJ"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して調整モードを選択します。



選択範囲：
VR, MAN

(ツマミを変更する場合)
③ハイ側またはロー側のトリムの選択の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してツマミおよび動作方向を選択します。



選択範囲：
+VrA、-VrA~+VrE、-VrE

- CURSORレバーを押してコンディションを選択することも可能です。

④ハイ側またはロー側の"PIT"の項目を選択した状態で、ダイヤルを1秒以上押すことにより、そのときのツマミ位置をメモリーします。



(1秒以上)

また、ダイヤルを回してピッチ調整が可能です。



調整範囲：
60~100%
初期値：100%

- メモリー後トリムをセンターに戻すと、メモリーを行う前の位置となります。

[注意事項] 同じ位置でメモリーを繰り返すと値が積算されます。

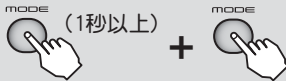
機能説明

スロットルホールド機能は、オートローション降下を行う時、ホールドスイッチ(Gスイッチ)を操作することによりエンジンのスロットル位置をアイドル位置に固定、又はストップさせる機能です。スロットリム位置付近を基準に-50~+50%の範囲で動作が設定できます。

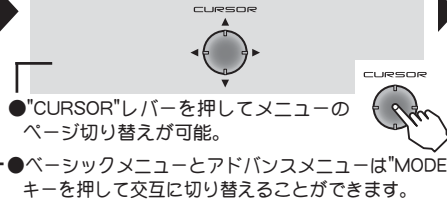
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットルホールド"を選択します。



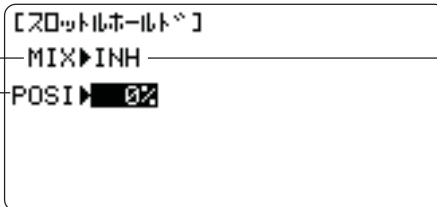
③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(スロットルホールド 設定画面)



機能を有効にする
ホールドポジションの設定



●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ON"または"OFF"に切替えます。

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

スロットルホールド

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

●このとき、ピッチカーブ（ホールド）も同時に動作可能状態になります。

②"POS"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してホールドポジションを設定します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-50~+50%
初期値：0%

【ホールドポジションの調整方法】

- エンジンアイドルを下げたいとき、または停止させたいときは、"- "方向にセットし、キャブレターが全閉になるように調整します。
- アイドルリングを維持する場合はスロットルステックを再スローの位置にし、ホールドスイッチをON/OFFしてサーボが動かない数値に設定します。

注意：スロットルリンケージを行う時、デジタルトリムを最スローまで下げ、キャブレターが全閉になるように調整します。

注意

【操作時の注意事項】

- スロットルホールド機能はアイドルアップ機能より優先します。エンジン始動時は、アイドルアップスイッチ、スロットルホールドスイッチがOFFになっていることを必ず確認する。

機能説明

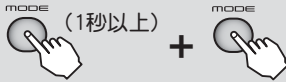
このトリムオフセット機能を使用すれば、ホバリングと上空で別々にトリム調整が可能となります。設定したスイッチまたはコンディションに連動して、エルロン、エレベーター、ラダーのニュートラルがオフセット（トリムをずらすことが）できる機能です。高速での上空飛行時、ヘリコプターの特性上傾こうとする癖がでます。この癖を補正することができる機能です。

- 右回転ローターの場合、上空飛行で右に傾こうとするので、スワッシュプレートをオフセット機能で左に傾けるように設定します。エレベーター方向は機体の調整により違いが出ますのでフライトをしてから設定方向を決めてください。ラダー方向の調整は基本的にリリボリューションミキシングで設定し、オフセットで微調整（全体に平行移動）すると良いでしょう。
- スイッチを選択した場合、2ポジションスイッチの場合オフセット1系統、3ポジションスイッチの場合オフセット2系統が設定可能です。また、コンディション（IDL1~3, HOLD）に連動させることも可能です。
- オフセット機能がON時、デジタルトリムでもデータ調整が可能です。上空でトリム調整した量が入力されます。（オフセット機能ON時、初期画面のトリム表示が連動）

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態です。"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"おセット"を選択します。



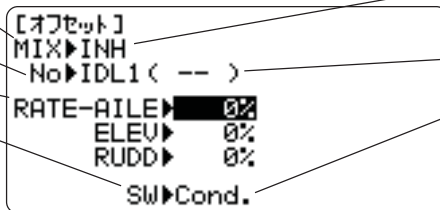
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(オフセット 設定画面)

- 機能を有効にする
- オフセットNo.の選択
- オフセット量の調整
- スイッチの選択



- "INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ON"または"OFF"に切替えます。（カッコ内は動作中のオフセットNo.）
- スイッチA~H、コンディションCond.から選択できます。Cond.を選択した場合は、"IDL1"、"IDL2"、"IDL3"、"HOLD"の各コンディション毎にオフセット量を調整できます。

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

トリムオフセット

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



（回す方向で選択方向が異なります。）

選択範囲：A~H, Cond.
初期値：Cond.

③"No"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してオフセットNo.を選択します。



（回す方向で選択方向が異なります。）

選択範囲：
1~2またはIDL1~3, HOLD
初期値：IDL1

④"RATE"の項目を選択した状態で、各チャンネルのオフセット量をダイヤルを回して調整します。



（回す方向で調整方向が異なります。）

調整範囲：
-120~+120%
（初期値：0%）

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。



- CURSORレバーを押してコンディションを選択することも可能です。

機能説明

オフセット、リボリューションミキシングまたはスロットルホールド機能に連動してディレーが働きます。

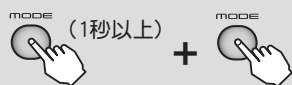
オフセット、リボリューションミキシング、スロットルホールド機能を使用している場合で、機能ON、OFF時の急激なオフセット変化を防止するための機能です。

- エルロン、エレベーター、ラダー、スロットル、ピッチに設定可能。
- ディレー設定値は、オフセット、レボリューションミキシング、スロットルホールド共に共通の値となります。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ディレイ"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- 基本メニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ディレイ 設定画面)

ディレー量の調整



- 各チャンネルの選択はCURSORレバーで行ないます。

【ディレイ】		
RATE-AILE▶	0%	(OFF)
ELEV▶	0%	(OFF)
RUDD▶	0%	(OFF)
THRO▶	0%	(OFF)
PITC▶	0%	(OFF)

- 100%でディレー量最大となります。

- オフセット、リボリューションミキシング、スロットルホールド機能に連動して"ON"になります。

ディレイ

①"RATE"の項目の各チャンネルを選択した状態で、ダイヤルを回して、ディレー量を調整します。

調整範囲：0～100%
初期値：0%



(回す方向で調整方向が異なります。)

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。



(1秒以上)

機能説明

Futaba製GV-1 (ガバナー) を使用している場合、送信機側からGV-1の回転数設定 (rS1~rS3) を調整することができます。回転数設定の制御はCH7が使用されます。

また、独立したON/OFFスイッチ (カットスイッチ) を使用する場合、CH8~10の何れかのCHを使用します。

●1つのスイッチで回転数とON/OFFを切り替える設定例 ("cut-CH"としてCH7を選択した場合)

ガバナー側回転数 (設定例)	3ポジション スイッチ	レート	送信機からの調整
rS1: OFF	UP	0%	0%のまま使用 (ガバナーの回転数表示は"off")
rS2: 1400	CNTR	50%	"50%"のレートを上下して回転数を調整
rS3: 1700	DOWN	100%	"100%"のレートを下げて回転数を調整

*例えば、rS3は使用する回転数の最大値を設定し、送信機側で下げて調整する。

*とりあえず、レート設定は初期値をそのまま使用してください。

*送信機からの回転数調整はレート設定のため、実際の回転数はガバナー側の表示を確認し、その関係を覚えておくと便利。

●コンディション毎に回転数を切り替える設定例 ("cut-CH"としてCH7を選択した場合)

切替スイッチで"Cond."を選択し、コンディション毎の回転数を設定する場合、スロットルカーブの最スロー位置で、ガバナーがOFFとなるように設定してください。

●ガバナーON/OFFを独立したスイッチで操作する場合 ("cut-CH"としてCH8,9または10を選択)

ガバナーON/OFFに独立したスイッチを使用し、回転数制御の3ポジションスイッチの各ポジションやコンディション毎の回転数を切り替えることができます。

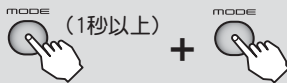
注意:

- ガバナーの回転数設定rS1~rS3とスイッチポジションの関係は上表のとおり。ミキシングをONしたら最初に方向を確認してください。
- スロットルホールド時、ガバナーがOFFすることを必ず確認してください。逆に回転数の数値が上がる場合は、"cut-CH"の極性を反転してください。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"ガバナーミキシング"を選択します。



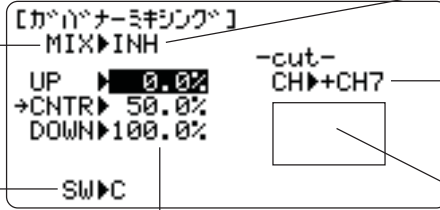
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(ガバナーミキシング 設定画面)

ガバナーミキシングを有効にする



回転数切替スイッチの選択



(スイッチ各ポジションの回転数レート)

●"INH"の場合は機能が使用できない状態。"ACT"に切替えます。

ON/OFFチャンネルおよび方向の選択

●スロットルホールド時に回転数が増える場合は、チャンネルの前の極性を反転してください。

●ON/OFFチャンネルにCH8～CH10を選択した場合、スイッチ選択およびON方向の選択項目が現れます。

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

ガバナーミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ACT"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

選択範囲：
A～H, Cond.
初期値：C

③"cut-CH"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してON/OFFチャンネルを選択します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

選択範囲：
+CH7,-CH7,+CH8,-CH8,
+CH9,-CH9,+CH10,-CH10
初期値：+CH7

●スロットルホールド時に回転数が増える場合は、極性を切替えてガバナーがOFFするように設定してください。(例えば、"+CH7"→"-CH7")

●ON/OFFを独立したスイッチで操作する場合はCH8～CH10を選択してください。新たに画面に表示される"SW"の項目でON/OFFスイッチを選択し、"DIR"の項目でスイッチのON方向を選択します。

④"RATE"の項目の各スイッチポジションについて、ダイヤルを回して回転数のレートを調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：UP：0%、CNTR：
50%、DOWN：100%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

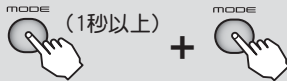
機能説明

この機能は、エンジンにミクスチャーコントロールシステム（ニードルコントロール等の混合気調整）がついている場合に、スロットルスティック動作に対し5ポイントのカーブでミクスチャー（混合気）を設定できるミキシングで、ノーマルコンディション(NORM)、アイドルアップ1/2用(IDLE1/2)、アイドルアップ3用(IDLE3)の独立した3つの設定ができます。ニードルサーボは受信機の8CHへ接続します。

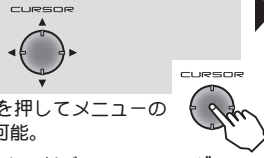
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットル→ニードル"を選択します。



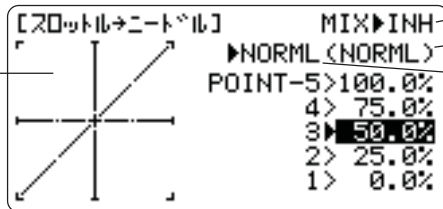
- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(スロットル→ニードルミキシング 設定画面)

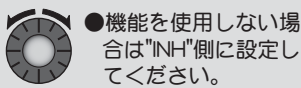
●設定したカーブがグラフに表示されます。



- ミキシングを有効にする (カッコ内は現在のコンディションを表示)
- コンディションの選択
- 5ポイントカーブの設定
- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

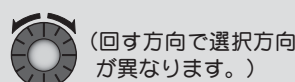
スロットル→ニードルミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②コンディションの選択の項目で、ダイヤルを回して"NORML","ID 1/2"または"IDLE3"を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

③"POINT-"の項目の各ポイントを選択した状態で、ダイヤルを回して、動作量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

- 調整範囲：0～100%
- 初期値：POINT-5=100.0%
- POINT-4= 75.0%
- POINT-3= 50.0%
- POINT-2= 25.0%
- POINT-1= 0.0%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。



(1秒以上)

●他のコンディションについても、上記の②～③を繰り返して、カーブを設定します。

(カーブのコピー方法)

コンディションの選択の項目でダイヤルを押すと、そのコンディションから他のコンディションへのカーブのコピーが可能です。ダイヤルを回してコピー先のコンディションを選択し、1秒以上ダイヤルを押すとコピーされます。

機能説明

この機能はエルロン、エレベーターおよびラダー操作時の機体の沈み込みを補正するミキシングです。

- コンディション毎の補正量が設定できます。
- 補正量はスロットルカーブのポイント7（もしくは一番高いポイント）が動作リミットとなります。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。

②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スロットルミキシング"を選択します。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。

●"CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

●ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

(スロットルミキシング設定画面)

[スロットルミキシング]			
MIX▶INH			
	AIL▶TH	ELE▶TH	RUD▶TH
→NORM▶	0.0%	0.0%	0%
アイドルアップ1の補正	IDL1▶	0.0%	0.0%
アイドルアップ2の補正	IDL2▶	0.0%	0%
アイドルアップ3の補正	IDL3▶	0.0%	0%

●"INH"の場合は機能が使用できない状態。機能を使用する場合は"ON"に切替えます。

(補正ミキシング)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

スワッシュ/ラダー→スロットル

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。

●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②設定したいコンディションの補正ミキシングの項目を選択した状態で、ダイヤルを回して補正量を調整します。

調整範囲：0～100%
-100～+100% (RUD→THのみ)
初期値：0%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。(1秒以上)

●他のコンディションの各補正ミキシングについても、上記の②を繰り返して補正量を調整します。

機能説明

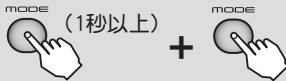
ここで、コンディション切替スイッチ（アイドルアップ1/2/3およびスロットルホールドスイッチ）の設定を行います。

- アイドルアップ1：スイッチE（センター）、アイドルアップ2：スイッチE（手前）、アイドルアップ3：スイッチF（手前）、スロットルホールド：スイッチG（手前）に初期設定されています。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"コンディションセレクト"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。



③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。



(コンディションセレクトの選択 設定画面)

アイドルアップコンディションの設定
ホールドコンディションの設定

【コンディションセレクト】		
	-SW-	-Pos-
IDLE-UP1	▶INH	▶E ▶CENTER
2	▶INH	▶E ▶DOWN
3	▶INH	▶F ▶DOWN
THR-HOLD	▶INH	▶G ▶DOWN

機能を有効にする

ON方向の設定

スイッチの選択

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

コンディションセレクト

①設定したいコンディションの"INH"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

(スイッチを変更する場合)
②変更したいスイッチの項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



- (回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H
初期値：
E (IDLE-UP1/2)
F (IDLE-UP3)
G (THR-HOLD)

(ON方向を変更する場合)
③変更したいスイッチの"-Pos-"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してON方向を選択します。

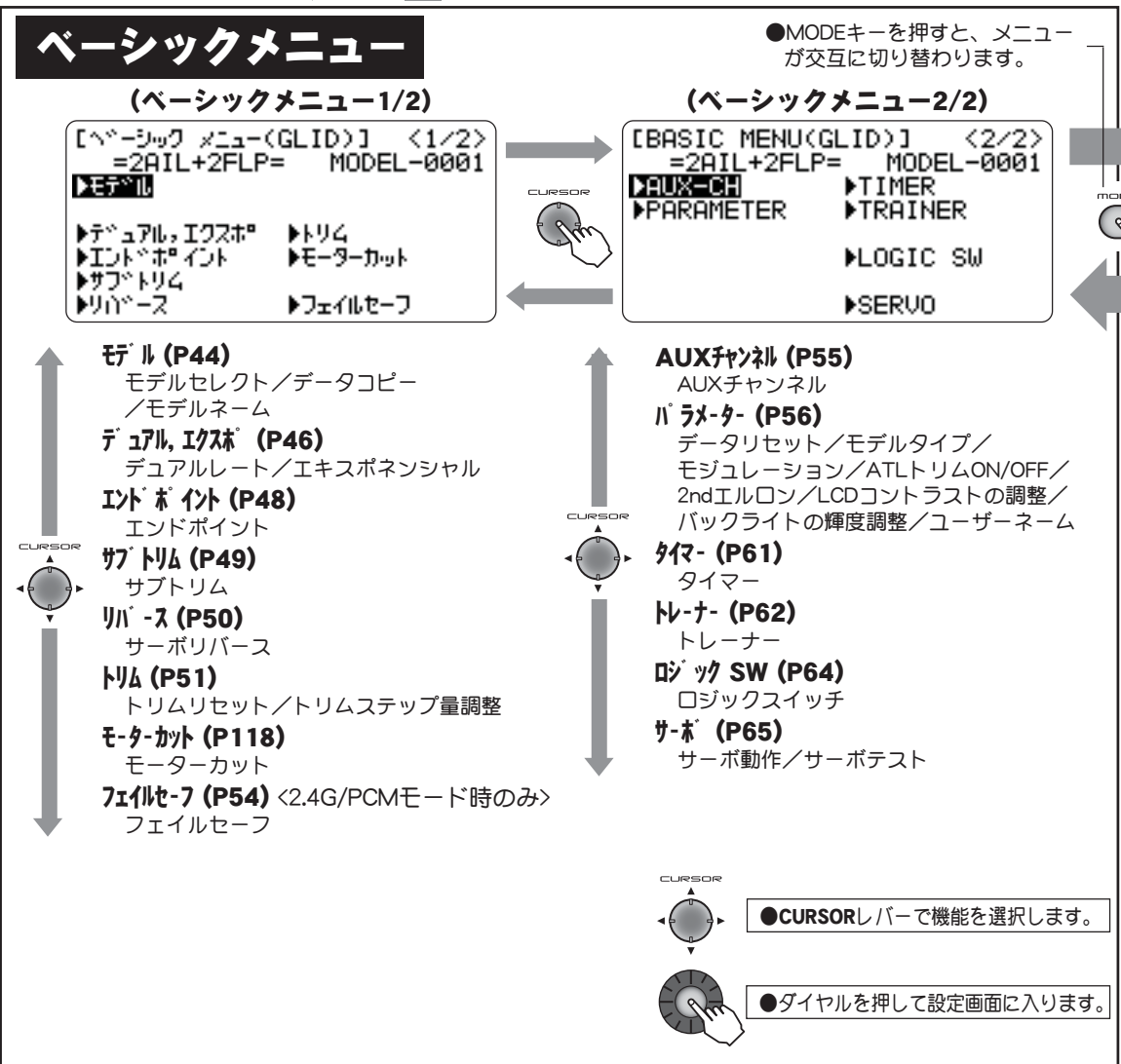
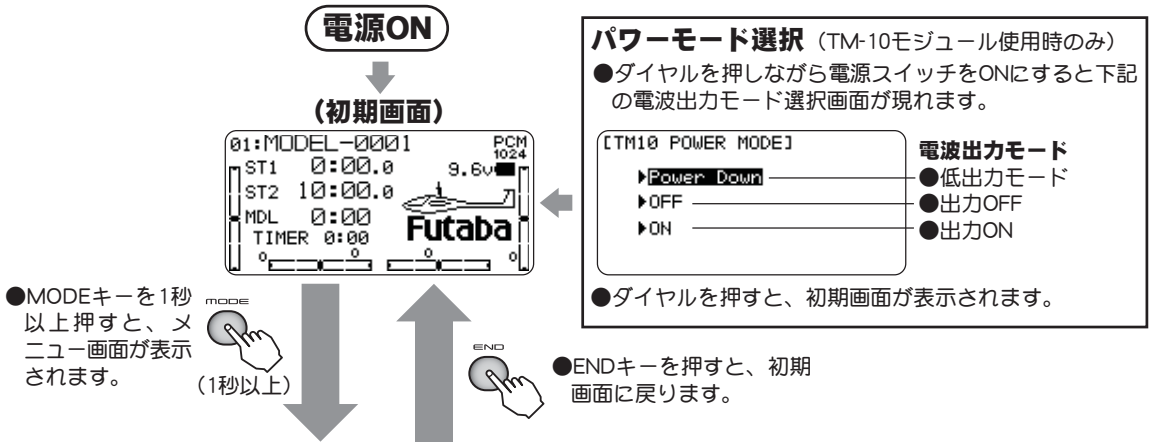


- (回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：
2ポジションSWの場合；
NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合；
NULL, UP, Up&Cntr, CENTER,
Cntr&Dn, DOWN

グライダー用(GLID)機能

各機能の設定画面は、ベーシックメニューおよびアドバンスメニューから呼び出します。
モデルタイプがグライダー用 (GLID) に設定されている場合の機能を示します。



送信機設定画面

●MODEキーとENDキーを同時に押しながら電源スイッチをONにすると、下記の送信機設定画面が現れます。

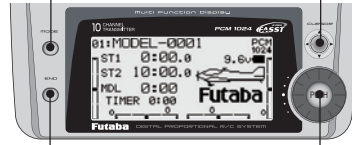
STK-MODEM	●スティックモード
THR-REV/NOR	●スロットリバース
ヒョウシノコノコ(JPN)	●言語

(機能説明：P23)

●設定終了後、電源スイッチをOFFにします。

エディットキー /LCD画面

●MODEキー ●CURSORレバー



●ENDキー ●ダイヤル

アドバンスメニュー

(アドバンスメニュー-1/2)

[アドバンスメニュー<GLID>] <1/2>	
=2AIL+2FLP= MODEL-0001	
▶PROG.MIX1-8	▶キャンバーフラップ
▶ディファレンシャル	▶キャンバーミキシング
▶Vテール	▶バタフライ
▶オフセット	▶バタフライ→エレベ

(アドバンスメニュー-2/2)

[アドバンスメニュー<GLID>] <2/2>	
=2AIL+2FLP= MODEL-0001	
▶イルロン/ラダー	▶フラップトリム
▶エレベーターフラップ	
▶イルロンフラップ	
▶スポイラーミキシング	▶コンディション

PROG.MIX1-8 (P66)

プログラムブルミキシング1~8

フラップ ロン (P69) <1A+1Fのみ>

フラッペロン

ディファレンシャル (P119) <1A+1Fを除く>

エルロンディファレンシャル

Vテール (P76)

Vテール

オフセット (P129)

オフセット

スタートディレイ (P127) <1A+1Fのみ>

スタートディレイ

キャンバーフラップ (P128)

キャンバーフラップ

キャンバーミキシング (P131)

キャンバーミキシング

バタフライ (P121)

バタフライ

バタフライ→エレベ (P123)

バタフライ→エレベータ

イルロン/ラダー - (P132)

エルロン/ラダー

エレベーターフラップ (P124)

エレベーター→フラップミキシング

イルロン→フラップ (P126) <2A+2Fのみ>

エルロン→フラップミキシング

スポイラーミキシング (P133)

スポイラーミキシング

フラップトリム (P71)

フラップトリム

エレボン (P77) <1A+1Fのみ>

エレボン

コンディション (P130)

コンディション

グライダー用機能

●CURSORレバーで機能を選択します。

●ダイヤルを押して設定画面に入ります。

機能説明

モーターカット（ストップ）スイッチの設定。エアブレーキスティックの操作位置に関係なく、スイッチによりモーターをストップさせることが可能です。スイッチON時、3ch目出力はスティックの最下点を基準に予め設定した位置にオフセットされます。

- 機能操作はスイッチA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。（ロジックスイッチの設定方法は64ページをご参照ください。）

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、「MODE」キーを1秒以上押して、ベーシックメニューを呼び出します。



- ベーシックメニューとアドバンスメニューは「MODE」キーを押して交互に切り替えることができます。

②「CURSOR」レバーでメニュー内の「モーターカット」を選択します。

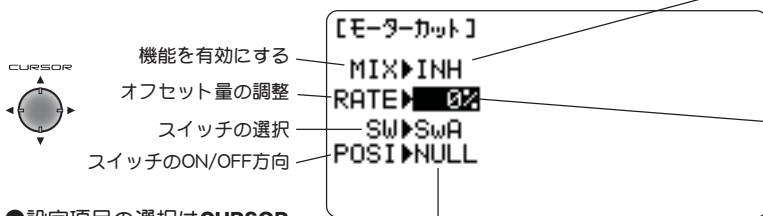


- 「CURSOR」レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(モーターカット 設定画面)



- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

- 「INH」の場合は機能が使用できない状態。「ON」または「OFF」の場合は機能が有効な状態。ON、OFFはスイッチに連動して変化します。
- エアブレーキスティック最スロー位置からのオフセット量。

- NULL (常時OFF)、UP (上でON)、Up&Down (上または下でON)、Up&Cntr (上またはセンターでON)、CENTER (センターでON)、Cntr&Dn (センターまたは下でON)、DOWN (下でON)
- ロジックスイッチの場合、NULL (常時OFF)、REV (ON方向が反転)、NORM (ロジックスイッチの設定どおり)

モーターカット

①「MIX」の項目を選択した状態でダイヤルを回して「ON」または「OFF」に設定します。



- 機能を使用しない場合は「INH」側に設定してください。

②「SW」の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)
選択範囲：A~H, Ls1~Ls3
初期値：A

③「POSI」の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

調整範囲：
2ポジションSWの場合、NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr, CENTER, Cntr&Dn, DOWN
ロジックスイッチの場合 NULL, REV, NORM
初期値：NULL

④「RATE」の項目を選択した状態でダイヤルを回してオフセット量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-30~+30%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)

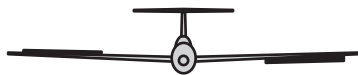
機能説明

(このエルロンディファレンシャルの説明はグライダーの場合を示します。)

左右のエルロンサーボの動作に差動をつけることができます。

右側エルロンは1CH、左側エルロンは7CHに接続してください。

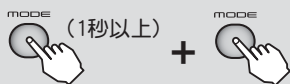
- 左右のエルロン舵面の上下の舵角を個別に調整可能。
- 各コンディション毎に調整が可能です。
- バタフライ動作時の差動量の微調整が可能。



設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エルロンディファレンシャル"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(エルロンディファレンシャル設定画面)

【エルロンディファレンシャル】

AIL1▶+100% (L) (R) +100%

AIL2▶+100% +100%

B.FLY-ADJ▶ 25%

NORML ←

START

SPEED

DISTA

LANDI

(矢印は現在のフライトコンディションスイッチの位置を示す)

●コンディションスイッチで設定したいコンディションを選択してから調整します。

(L): エルロンスティック左側レート
(R): エルロンスティック右側レート

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

バタフライ動作時の差動量の微調整

- レート調整時、レートの極性を変えようとした場合、確認表示"Change rate dir?"が表示されます。この場合、ダイヤルを1秒間以上押し続けると表示が解除され設定が可能となります。

このエルロンディファレンシャル機能を設定する前にコンディションスイッチ選択画面(コンディション)で、フライトコンディションをスイッチで切替え可能な状態にしてください。

エルロンディファレンシャル

- ① "AIL1"の項目を選択し、設定したいフライトコンディションにスイッチを切替えた状態で、エルロンスティックを左右に操作し、それぞれの動作量をダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向
が異なります。)

調整範囲：-120～+120%
初期値：+100%

("AIL2"の項目も①と同様に調整します。)

- ② "B.FLY-ADJ"の項目を選択し、設定したいフライトコンディションにスイッチを切替えた状態で、バタフライ動作時の差動量を調整します。



(回す方向で調整方向
が異なります。)

調整範囲：0～100%
初期値：25%

機能説明

この機能は、着陸進入、急降下時においてエアブレーキが必要な時に使用するミキシングで、エアブレーキスティックにより操作し、エルロン舵面を上方、フラップ舵面を下方動作させます。その動作量はスティック操作に対しリニアに動作し、最下端でバタフライが全開になります。またこのミキシングは"CROW"ミキシングとも呼ばれています。



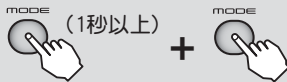
このミキシング動作時には頭上げモーメントが発生するため、バタフライ→エレベーターミキシングでエレベーターダウン方向に調整します。

- このバタフライミキシングは2回路設定可能です。動作が重なった場合は2回路目の設定が優先して動作します。
- ON/OFFスイッチはスイッチA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。(ロジックスイッチの設定方法は64ページをご参照ください。)
- スティックポジション (バタフライミキシングの開始点) の変更が可能。
- 調整時はエアブレーキスティックを全開 (一番下の位置) にした状態で調整してください。

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"バタフライ"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



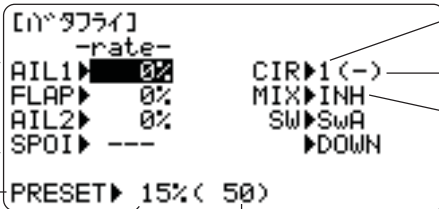
- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



各サーボの動作量の調整

スティックポジションの設定

(バタフライミキシング 設定画面)

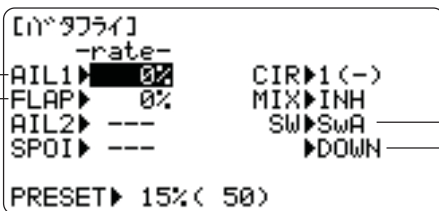


(現在のスティック位置)
0% : 上側、100% : 下側

- 設定したいバタフライミキシングの回路を選択します。(現在動作中のバタフライミキシングを表示)
- "INH"の場合は機能が使用できない状態。"ON"または"OFF"の場合は機能が有効な状態。"ON"、"OFF"はスイッチに連動して変化します。

- スイッチがONのとき、エアブレーキスティックの設定ポジションより下側でバタフライミキシングがリニアに動作します。

サーボの動作量の調整 (1CH)
サーボの動作量の調整 (1CH)



(モデルタイプ"GLID(1A+1F)"の場合)

ON/OFFスイッチの選択
ON方向の設定

バタフライミキシング

- ① "CIR"の項目を選択した状態でダイヤルを回して、設定したい回路 ("1"または"2")を選択します。



●CURSORレバーを押して回路を選択することも可能です。

- ④ "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ② "SW"の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, Ls1~Ls3
初期値：A

- ③ ON/OFFポジション設定の項目を選択した状態でダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

調整範囲：

2ポジションSWの場合、
NULL, UP, DOWN

3ポジションSWの場合、
NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr,
CENTER, Cntr&Dn, DOWN

□ジックスイッチの場合
NULL, REV, NORM

初期値：NULL

- ⑤ "rate-"の各項目を選択した状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100~
+100%
初期値：0%

●レート設定中に設定値を初期値に戻したい場合はダイヤルを1秒以上押します。

(スティックポジションの変更方法)

"PRESET"の項目を選択した状態で、エアブレーキスティックをバタフライミキシングの開始点に設定したい位置に保持し、ダイヤルを1秒以上押します。



(1秒以上)

●エアブレーキ開始点が設定され、それよりロー側でエアブレーキがリニアに動作します。

機能説明

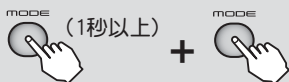
パタフライミキシング動作時のエレベーター補正が可能です。また、ディレーも設定できます。

- このパタフライ→エレベーターミキシングは2回路設定可能です。パタフライミキシングの回路に連動しています。
- パタフライミキシングで設定されたPRESETポイントを開始点として、ポイント" MID"、" END"の3ポイントカーブで補正がかけられます。ポイント" MID"、" END"はそれぞれポジションとレートを設定可能。

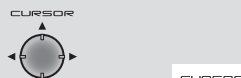
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"パタフライ→エレ"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(パタフライ→エレベーターミキシング 設定画面)

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



中間点の調整
最下点の調整

ディレー量の設定

[パタフライ→エレベーター]

MIX▶1(-)

-rate- -Posi-

MID▶ 0% ▶ 55% (50)

END▶ 0% ▶ 95% (50)

DELAY▶ 0%

●設定したいパタフライミキシングの回路を選択します。

(現在動作中のパタフライミキシングを表示)

(現在のスティック位置)
0%：上側、100%：下側

(各ポイントのレートおよびポジション)

パタフライ→エレベーターミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態でダイヤルを回して、設定したいパタフライミキシングの回路("1"または"2")を選択します。



●CURSORレバーを押して回路を選択することも可能です。

②設定したいポイントの"-rate-"の項目を選択した状態で、それぞれの動作量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100～+100%
初期値：0%

●レート設定中に設定値を初期値に戻したい場合はダイヤルを1秒以上押します。

(カーブのポイント位置を変える場合)

③"Posi"の項目を選択した状態で、エアブレーキスティックを変更したい位置に移動し、ダイヤルを1秒以上押して設定します。



(1秒以上)

●カーブの中間点" MID"、最下点" END"は、エアブレーキ開始点(パタフライミキシングの" PRESET"項目で設定したポイント)より下のポイントに設定する必要があります。

④"DELAY"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、ディレー量を調整します。



調整範囲：0～100%
初期値：0%

●100%でディレー量最大

機能説明

(このエレベーター→フラップミキシングの説明はグライダーの場合を示します。)

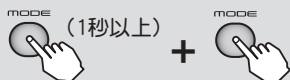
エレベーターからフラップにミキシングをかけたい場合に使用します。通常エレベーターがアップ(上へ上がる)でフラップが下がるようにミキシングします。小さな宙返りが可能となります。

- アップ側、ダウン側のレートが調整可能
- コンディション毎のレート設定が可能。
- エレベーターニュートラル付近でミキシングがOFFの範囲("RANGE"の項目)を設定できます。
- スイッチはA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。(ロジックスイッチの設定方法は64ページをご参照ください。)

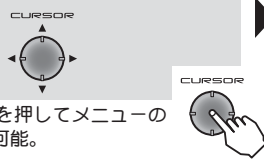
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押してベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エレベーター→フラップ"を選択。



③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

(エレベーター→フラップミキシング 設定画面)

機能を有効にする



ミキシング量の調整

ミキシングOFFの範囲の設定
スイッチの選択

[エレベーター→フラップ]	MIX▶INH
FLP1/2 ↑▶+ 10%	NORML◀
↓▶+ 10%	START
AIL1/2 ↑▶+ 10%	SPEED
↓▶+ 10%	DISTA
RANGE▶ 0% (0%)	LANDI
SW▶SwC POSI▶UP	

(現在動作中のコンディション)

(現在のエレベータースティックの位置)

スイッチON方向の選択

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

- NULL (常時OFF)、UP (上でON)、Up&Down (上または下でON)、Up&Cntr (上またはセンターでON)、CENTER (センターでON)、Cntr&Dn (センターまたは下でON)、DOWN (下でON)
- ロジックスイッチの場合、NULL (常時OFF)、REV (ON方向が反転)、NORM (ロジックスイッチの設定どおり)

- "GLID(1A+1F)"の場合はフラップのみの設定となります。

[エレベーター→フラップ]	MIX▶INH
RATE ↑▶+ 10%	NORML◀
↓▶+ 10%	START
	SPEED
	DISTA
RANGE▶ 0% (0%)	LANDI
SW▶SwC POSI▶UP	

(モデルタイプ"GLID(1A+1F)"の場合)

エレベーター→フラップミキシング

- ① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して "ON"または"OFF"に設定します。



●機能を 사용하지 ない場合は "INH"側に設定してください。

- ② "SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A～H, Lsw1～3
初期値：C

- ③ "POS"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

調整範囲：
2ポジションSWの場合、
NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、
NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr,
CENTER, Cntr&Dn, DOWN
□ジックスイッチの場合
NULL, REV, NORM
初期値：NULL

- ②設定したいコンディションに切替えて、レートの項目を選択した状態で、エレベータースティックをアップ側、ダウン側に操作し、それぞれのミキシング量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100～+100%
初期値：+10%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上



(1秒以上)

("RANGE"の項目を設定する場合)

- ⑤ "RANGE"の項目を選択した状態で、エレベータースティックをミキシングOFFの範囲の上限または下限の位置に移動し、ダイヤルを1秒以上押して設定します。



(1秒以上)

●設定時は上限または下限のポジションに設定してください。ミキシングOFFの範囲はニュートラル位置をセンターにして、上下対称のポジションの範囲となります。

機能説明

このミキシングは、フラップもエルロンとして動作させ、ロールレートの向上とロール時の翼の抵抗を減少させるために使用するミキシングです。

- コンディション毎のレート設定が可能。
- スイッチはA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。(ロジックスイッチの設定方法は64ページをご参照ください。)

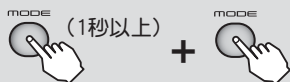


エルロン→フラップ
ミキシング

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エルロン→フラップ"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(エルロン→フラップミキシング 設定画面)



機能を有効にする

FLP1側ミキシング量の調整

FLP2側ミキシング量の調整

スイッチの選択

スイッチON方向の設定

[エルロン→フラップ]			
MIX	▶INH		NORML ← (現在動作中のコンディション)
	(L)	(R)	START
FLP1	▶ 0%	0%	SPEED
FLP2	▶ 0%	0%	DISTA
	SW	▶SwG	LANDI
	POSI	▶NULL	

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

エルロン→フラップミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②設定したいコンディションを選択し、"FLP1"または"FLP2"の項目を選択した状態で、エルロンの左右について、それぞれダイヤルを回してミキシング量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100~+100%
初期値：0%

③"SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, Lsw1~3
初期値：G

④"POSI"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：
2ポジションSWの場合、NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr, CENTER, Cntr&Dn, DOWN
ロジックスイッチの場合、NULL, REV, NORM
初期値：NULL

機能説明

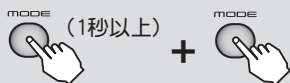
このスタートディレイ機能により、スタートコンディションの各舵のオフセットトリムを、予め設定したディレイ時間経過後に、自動的にノーマルコンディションの状態に戻すことが可能です。ハンドランチグライダーに最適です。

- エレベーター、ラダー、エルロン/フラップ毎にディレイ量を設定できます。
- ディレイ量は0~100% (最大10秒)迄設定が可能です。(約1秒/10%)

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押し続けてアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スタートディレイ"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



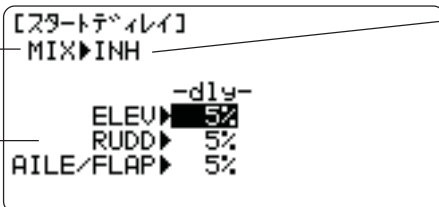
(スタートディレイ設定画面)



機能を有効にする

各サーボのディレイ量の調整

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



- "INH"の場合は機能が使用できない状態。"ON"または"OFF"の場合は機能が有効な状態。"ON"、"OFF"はスタートコンディションに連動して変化します。

スタートディレイ

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"-dly-"の各項目を選択した状態で、それぞれのディレイ量を、ダイヤルを回して調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：
0~100%
初期値：5%

- 設定値を初期値に戻したい場合はダイヤルを1秒以上押し続けます。



(1秒以上)

このスタートディレイを設定する前にコンディションスイッチ選択画面(コンディション)で、フライトコンディションをスイッチで切替え可能な状態にしてください。

機能説明

キャンバ-フラップツマミのトリム機能です。ツマミはVR(A)に設定されています。

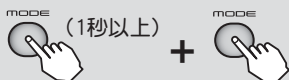
- 各舵のアップダウン毎の振り巾を調整可能
- フラップサーボの基準点をオフセット可能

*フラップトリム機能を有効("ACT")にすると、この機能は使用できません。

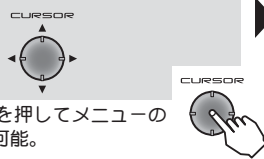
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"キャンバ-フラップ"を選択します。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(キャンバ-フラップ 設定画面)

●フラップトリム機能が"ACT"の場合、"OFF"が表示されます。

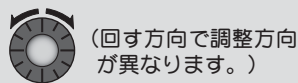
(フラップツマミの操作位置)

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

●"GLID(1A+1F)"および"GLID(2A+1F)"の場合はFLP1のみの設定となります。

キャンバ-フラップ

①各舵の振り巾の調整の項目で、フラップツマミを設定したい方向に操作した状態では、ダイヤルを回して調整します。

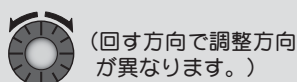


調整範囲：-100~+100%
初期値：+30%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。

●レート調整時、レートの極性を変えようとした場合、確認表示"Change rate dir?"が表示されます。この場合、ダイヤルを1秒間以上押し続けると表示が解除され設定が可能となります。

②フラップサーボの基準点の調整の項目では、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：-100~+100%
初期値：0%

- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押し続けます。

機能説明

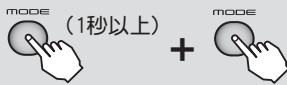
この機能は、各コンディション毎のエルロン、エレベーター、ラダーおよびフラップサーボのオフセットミキシング機能です。曳航時にグライダーが高高度を獲得できるようなスタートミキシングの設定や、最大速度を得るためのスピードミキシングの設定等に使用できます。

- コンディション毎のトリム設定が可能。
- エルロン、エレベーター、ラダーおよびフラップサーボのディレイが設定可能。(各コンディション共通)
- オフセットミキシング動作時、デジタルトリムでエルロン、エレベーター、ラダーの動作量を調整可能。(トリムモードを"MIX"とした場合)

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"**MODE**"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"**MODE**"キーを押し続けてアドバンスメニューを呼び出します。



②"**CURSOR**"レバーでメニュー内の"**オフセット**"を選択。



- "**CURSOR**"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"**MODE**"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(オフセットミキシング 設定画面)

●設定項目の選択は**CURSOR**レバーで行ないます。

オフセット量の調整
(コンディション毎)

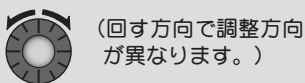
【オフセット】			
	-rate-	-dly-	
ELEV▶	0%	▶ 0%	norm1 ← (現在動作中のコンディション)
RUDD▶	0%	▶ 0%	SPEED
AIL1▶	0%	▶ 0%	DISTA
2▶	0%	▶ 0%	LANDI
FLP1▶	0%	▶ 0%	
2▶	0%	▶ 0%	
			TRIM▶NORM ← トリムモードの選択

ディレイ量の調整 (共通)

*Vテール機の場合、エレベータとラダーのディレイ量は同じ値に設定してください。

オフセットミキシング

①設定したいコンディションに切替えて、"-rate-"の各項目を選択した状態で、それぞれのオフセット量を、ダイヤルを回して調整します。

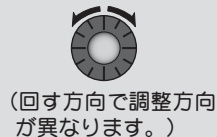


調整範囲：-100～
+100%
初期値：0%

●設定値を初期値に戻したい場合はダイヤルを1秒以上押し続けます。



②"-dly-"の各項目を選択した状態で、各サーボのディレイ量を、ダイヤルを回して調整します。



調整範囲：
0～100%
初期値：0%

③オフセットミキシング動作時にデジタルトリムでエルロン、エレベーター、ラダーの動作量を調整する場合、"TRIM"の項目でダイヤルを回して、"MIX"を選択します。



選択範囲：
NORM, MIX
初期値：NORM

機能説明

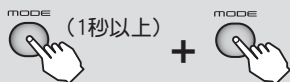
この機能はコンディション切替えスイッチを設定する機能です。各機能を設定する前に、コンディション切替えスイッチを使用可能な状態にしておきます。

また、3CH目（エアブレーキ）のファンクションをスティック以外のスイッチまたはボリュームツマミに変更することができます。スティック以外を選択した場合はスロットルトリムおよびファンクションリバース機能は使用できません。

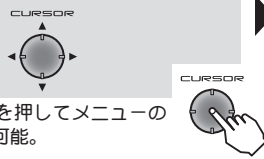
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態で、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"コンディション"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(コンディションセレクトの選択 設定画面)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。



各コンディションスイッチの設定
エアブレーキファンクションの設定

【コンディション/ファンクション】

	-sw-	-Pos-
START	INH	DOWN
SPEED	INH	UP
DISTANCE	INH	CENTER
LANDING	INH	DOWN
ARBK-FUNC	STICK	

ON方向の設定

スイッチの選択

コンディションセレクト

①設定したいコンディションの"INH"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

(スイッチを変更する場合)

②変更したいスイッチの項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A～H

- スイッチのON方向も変更する場合は"Pos-"の項目を選択した状態でダイヤルを回して変更します。

エアブレーキのファンクション選択

①"ARBK-FUNC"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチ等を選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：
STICK, SwA～SwH, VrA～VrE
初期値：STICK

機能説明

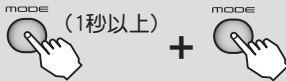
主翼のキャンバー調整機能です。コンディション毎のトリムの振り巾が調整できます。

- トリムつまみが選択できます。
- トリムつまみの両方向の振り巾を個別に調整可能。

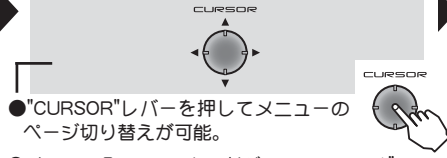
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"キャンバ-ミキシング"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。
- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

③ダイヤルを押し続けて設定画面に入ります。



(キャンバーミキシング 設定画面)

CURSOR	エルロン動作量の調整	AILE ↑+ 30% (0%)	NORML ←	(矢印は現在のフライトコンディションスイッチの位置を示す)
	フラップ動作量の調整	FLAP ↓+ 30% (0%)	START	
	エレベータ動作量の調整	ELEV ↑+ 30% (0%)	SPEED	
	つまみの選択	VR →NULL PRE →--	DISTA	
			LANDI	

(現在のつまみ調整量)

- 設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

キャンバーミキシング

①"VR"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してつまみを選択します。



選択範囲：NULL, VrA~VrE
初期値：NULL

②設定したいコンディションに切替え、動作量の項目を選択した状態で、つまみを設定したい方向に操作し、ダイヤルを回して、振り巾を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100~+100%
初期値：+30%



- 設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。

- 上記②をくり返して、各コンディション毎のつまみの各方向の振り巾を調整してください。

機能説明

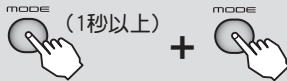
このミキシングは、エルロン操作にラダー動作を連動させる"エルロン→ラダー"モードとラダー操作にエルロン動作を連動させる"ラダー→エルロン"モードのいずれかを選択可能です。旋回特性の改善やくせ取りに使用します。

- コンディション毎のレート設定が可能。
- スイッチはA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。(ロジックスイッチの設定方法は64ページをご参照ください。)

設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"エルロン/ラダー"を選択。



- "CURSOR"レバーを押してメニューのページ切り替えが可能。



③ダイヤルを押して設定画面に入ります。

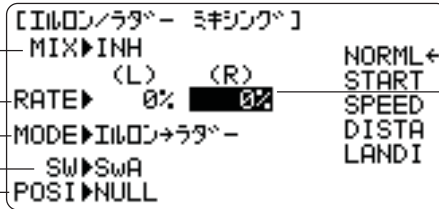


- ベーシックメニューとアドバンスメニューは"MODE"キーを押して交互に切り替えることができます。

●設定項目の選択はCURSOR (エルロン/ラダーミキシング 設定画面) レバーで行ないます。



- 機能を有効にする
- ミキシング量の調整
- ミキシングタイプの選択
- スイッチの選択
- スイッチON方向の設定



(現在動作中のコンディション)

- "エルロン→ラダー"の場合、エルロンスティックを左右に操作して項目を選択。"ラダー→エルロン"の場合、ラダースティックを左右に操作して項目を選択。

グライダー用機能

エルロン/ラダーミキシング

①"MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"または"OFF"に設定します。



- 機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

②"MODE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してミキシングタイプを選択します。



調整範囲：
エルロン→ラダー
ラダー→エルロン

③設定したいコンディションに切替えます。"RATE"の項目を選択した状態で、エルロン(またはラダー)スティックを左右に操作し、ダイヤルを回して、左右のミキシング量を調整します。



(回す方向で調整方向が異なります。)

調整範囲：-100~+100%
初期値：0%

④"SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：A~H, Lsw1~3
初期値：A

⑤"POSI"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：
2ポジションSWの場合、NULL, UP, DOWN
3ポジションSWの場合、NULL, UP, Up&Down, Up&Cntr, CENTER, Cntr&Dn, DOWN
ロジックスイッチの場合 NULL, REV, NORM
初期値：NULL (常時ON)

機能説明

スプ^レイ^ラ搭載機の場合、スプ^レイ^ラのOFFポジションおよびONポジションを個別に調整可能です。2サーボ仕様にも対応します。また、スプ^レイ^ラONポジション時のエレベーターレートおよびディレイ量が調整できます。

- スプ^レイ^ラスイッチはA~HまたはロジックスイッチLs1~Ls3の中から選択できます。また、スイッチ方向が選択できます。(ロジックスイッチの設定方法は64ページをご参照ください。)

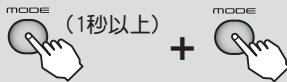
(バタフライミキシング使用時のスプ^レイ^ラ動作について)

- スプ^レイ^ラがONポジションの場合はバタフライミキシングでは動作しません。
- スプ^レイ^ラがOFFポジション時に、OFF位置→ON位置へ、バタフライでの設定値(0~100%)により動作します。
- バタフライのみで使用する場合は、SWのON方向の設定を"NULL"としてください。

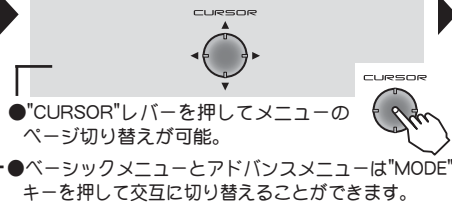
設定方法

設定画面の呼び出し

①初期画面の状態では、"MODE"キーを1秒以上押し続けてベーシックメニューを呼び出し、さらに、"MODE"キーを押してアドバンスメニューを呼び出します。



②"CURSOR"レバーでメニュー内の"スプ^レイ^ラミ^キシ^ング"を選択。



③ダイヤルを押して設定画面に入ります。



(スプ^レイ^ラミ^キシ^ング 設定画面1/2)

サーボポジションの調整
チャンネルの選択

【スプ^レイ^ラミ^キシ^ング】 <1/2>

-SP01-	-SP02-		(機能のINH/ON表示)
POSI ▶- 50%◀	▶- 50%◀	(SwB)	(スプ ^レ イ ^ラ スイッチ名)
▶+ 50%	▶+ 50%		上側: スイッチOFF側のサーボ ポジションの調整
CH▶CH8	▶NULL		下側: スイッチON側のサーボ ポジションの調整
-rate-	-dly-	(INH)	(スプ ^レ イ ^ラ の動作表示)
→ELE▶ 0%	▶ 0%		

エレベーター 動作量の調整 エレベーター デイレー量の調整

●設定項目の選択はCURSORレバーで行ないます。

(スプ^レイ^ラミ^キシ^ング 設定画面2/2)

【スプ^レイ^ラミ^キシ^ング】 <2/2>

機能を有効にする MIX▶INH

スイッチの選択 POSI-SW▶SwB

スイッチON方向の選択 ▶DOWN

スポイラーミキシング

- ① "MIX"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して"ON"に設定します。



●機能を使用しない場合は"INH"側に設定してください。

- ② (2サーボ仕様の場合)
"-SPO2-"の"CH"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してチャンネルを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

- ③ "POSI-SW"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチを選択します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：SwA~H, Ls1~3
初期値：SwB

- ④ スイッチON方向の選択の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してスイッチのON方向を設定します。



(回す方向で選択方向が異なります。)

選択範囲：(右記)
初期値：DOWN

●スイッチON方向
NULL(常時OFF), UP(上でON), Up&Dn(上または下でON), Up&Ctr(上またはセンターでON), Ctr&Dn(センターまたは下でON), DOWN(下でON)

●ロジックスイッチの場合
NULL(常時OFF), REV(ON方向が反転), NORM(ロジックスイッチの設定どおり)

- ② "POSI"の各項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、サーボポジションを調整します。



調整範囲：-100~+100%
初期値：
(OFF側)-50%
(ON側)+50%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



- ② "ELE"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回して、エレベーターレートを調整します。



調整範囲：-100~+100%
初期値：0%

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



- ③ "-dly-"の項目を選択した状態で、ダイヤルを回してディレー量を調整します。



調整範囲：0~100%
初期値：0%
●100%でディレー量最大

●設定値を初期値に戻したい場合は、ダイヤルを1秒以上押します。(1秒以上)



*仕様・規格は予告なく変更することがあります。

規格

送信機 T10CAP/T10CHP

(飛行機用/ヘリ用送信機)
 操作方式 : 2スティック、10チャンネル
 周波数(方式) :
 2.4GHz帯 FASST方式 (TM-10モジュール)
 40/72MHz帯 FM-PCM/PPM (TP-FSMモジュール)
 使用電源 : 12V (単3乾電池 8本) または
 9.6Vニッカド電池パック (NT8S600B)
 消費電流 : 280mA以下

受信機 R6014FS

FASST-2.4GHz方式、14チャンネル
 (Multi-ch/10ch/8chモード対応)
 アンテナ : ダイバーシティ方式
 使用電源 : 4.8Vまたは6.0Vニッカド電池またはBEC電源
 *BEC電源を使用する場合、ご使用のサーボ等の条件に
 合った容量のものをご使用ください。
 *乾電池は使用しないでください。誤動作の原因とな
 ります。
 サイズ : 52.3x37.5x16.0mm
 重量 : 20.8g

受信機 R3110DPS

(シンセサイザー方式デュアルコンバージョン受信機)
 受信周波数 : 40MHz帯または72MHz帯
 中間周波数 : (第一) 10.7MHz
 (第二) 455kHz
 使用電源 : 4.8Vニッカド電池 (サーボと共通)
 消費電流 : 40mA
 サイズ : 33.2x55.2x20.3mm
 重量 : 35.5g

サーボ S3010

(スタンダード/ベアリングサーボ)
 制御方式 : バルス巾制御
 使用電源 : 4.8Vまたは6.0V (受信機と共通)
 出力トルク : 6.5kg・cm (6V時)
 動作スピード : 0.16sec/60° (6V時)
 サイズ : 40.0x20.0x38.1mm
 重量 : 41g

サーボ S3151

(スタンダード/デジタルサーボ)
 制御方式 : バルス巾制御
 使用電源 : 4.8V (受信機と共通)
 出力トルク : 3.1kg・cm (4.8V時)
 動作スピード : 0.21sec/60° (4.8V時)
 サイズ : 40.5x20.0x36.1mm
 重量 : 42g

サーボ S9252

(コアレス/デジタルサーボ)
 制御方式 : バルス巾制御
 使用電源 : 4.8V (受信機と共通)
 出力トルク : 6.6kg・cm (4.8V時)
 動作スピード : 0.14sec/60° (4.8V時)
 サイズ : 40x20x36.6mm
 重量 : 50g

サーボ S9252

(ヘリ用ハイトルク/デジタルサーボ)
 制御方式 : バルス巾制御
 使用電源 : 4.8V (受信機と共通)
 出力トルク : 9.0kg・cm (4.8V時)
 動作スピード : 0.16sec/60° (4.8V時)
 サイズ : 40.0x20.0x36.6mm
 重量 : 55g

⚠ 注意

❗ 送信機、受信機、サーボ、FETアン
 プ、ニッカド電池その他オプション
 パーツは、必ずFutaba純正品の組み
 合わせて使用する。

■Futaba純正品以外との組み合わせにより
 発生した損害等につきましては、弊社で
 は責任を負いません。取扱説明書および
 カタログに記載されているものを使用し
 てください。

FASST-2.4GHzシステム
 送信機・モジュール vs. 受信機 対応表

送信機	受信機	
	R616FFM R607FS R617FS	R608FS R6014FS
TM-14モジュール	Multi-chモード	—
	7chモード	○
TM-10モジュール	10chモード	—
	7chモード	○
TM-8モジュール	8chモード	—
	7chモード	○
T7C-2.4GHz送信機	○	—
T6EX-2.4GHz送信機	○	—

○ : 対応します。 — : 対応しません。

オプションパーツ（別売り）

別売りのオプション・パーツとしては、次のものが用意されています。詳しくは弊社カタログをご参照ください。

●メモリーモジュール

（品名）データパックDP-128K／16K

●ニッカド電池&充電器

（品名）送信機用ニッカド電池 NT8S600B

受信機用ニッカド電池 NR-4J, NR-4RB, NR4F 1500

専用充電器 FBC-20A(4), FBC-29A(4)

●トレーナーコード

（品名）FF9トレーナーコード、FF9トレーナーコード（DINタイプ）等

*ただし、接続する送信機により異なります。

●延長コード

（品名）延長コード100mm～500mm（大電流タイプもあります）

*デジタルサーボを使用の場合は大電流タイプを使用してください。

●充電口付スイッチ

（品名）SSW-J

HSW-J（大電流タイプ）

*デジタルサーボを使用の場合は大電流タイプを使用してください。

●フックバンド

（品名）フックバンド

●送信機用アンテナ

（品名）T10C送信機用アンテナ

●スティックレバーヘッド

（品名）レバーヘッド（各種）

ワーニング表示／エラー表示

電源スイッチON時、ローバッテリー時及びその他で、アラーム表示又はエラー表示されることがあります。それぞれで処置の方法が異なりますので、それぞれ以下の方法で処置を行ってください。

■バックアップエラー

```
BACK-UP MEMORY ERROR !!
NOW INITIALIZING....
MODEL No.14 AREA
```

警告音：ピ・ピッピッピッピッ (繰り返し)

- このエラーが表示中は、送信出力がPPMモードに固定されます。

記憶しておいたデータが何らかの原因で消えてしまったときに表示されます。この場合、電源を入れ直すとすべてのデータがリセットされます。

⊘ このエラーが発生した場合は絶対に飛行しないでください。

原因調査のため、弊社RCサービスセンターまでご連絡ください。

■モデルセレクトエラー

```
MODEL SELECT ERROR !
CURRENT MODEL No.01
```

警告音：ピ・ピッピッピッピッ (約5秒間)

メモリーモジュール内のモデルデータを呼び出して使用している送信機で、メモリーモジュールを抜いた状態で電源をONした場合に表示されます。この場合自動的に本体側のモデルメモリーNo.01が呼び出されます。

前のモデルデータで飛ばしたいときは、メモリーモジュールを挿して、モデルセレクト機能で呼び出す必要があります。

■ローバッテリーエラー

- 電池マークが点滅します。

```
[ヘリコプター モデル(ACRO)] [電池マーク]
=ACROBATIC= MODEL-0001
▶モデル
▶デュアル、イクスポ ▶トリム
▶イントロ イント ▶スロットルカット
▶ソフトリム ▶アイトールダウン
▶リハーブ ▶フェイルセーフ
```

警告音：ピッピッピッピッ (連続)

送信機のバッテリー電圧が8.5V以下になると表示されます。

⚠ 速やかに飛行を中止し、電池を交換してください。

参考

■ミキシングワーニング（警告）

**** WARNING !! ****

エアブレーキ
アイドルダウン
スロットルカット

警告音：ピッピッピッピッ、休止（繰り返し）

電源ON時、安全上下記のミキシングスイッチがONの場合にワーニング表示されます。このとき、ミキシングスイッチをOFFにすると表示は停止します。

（ACROの場合）

スロットルカット、アイドルダウン、スナップロール、エアブレーキ

（GLIDの場合）

バタフライ、各コンディション

（HELIの場合）

スロットルカット、各コンディション

（スイッチOFFでミキシングワーニングが止まらない場合の操作）

画面にワーニング表示されたミキシングのスイッチをOFFにしても、ワーニングが止まらない場合、上記に示す機能同士が同じスイッチを使用し、OFF方向が逆の設定が考えられます。つまり、上記のいずれかのミキシングがOFFできない状態となっています。

この場合、**CURSOR**レバーを押すとワーニング表示が解除されます。その後、1つのスイッチに重なっているいずれかのミキシングのスイッチ設定を変更してからご使用ください。

■メモリーモジュール イニシャライズ表示

[EXT-MEMORY]
INITIALIZE Pac▶No
 ▶Yes
*データPac ショウデータセシ
Pac TYPE=128k(33models)

メモリーモジュールDP-16K/128Kを購入後始めてご使用になる場合、電源ON時に表示されます。このとき、モードキーを押すとイニシャライズ（初期化）が開始され、それが終了すると、メモリーモジュールが使用できる状態となります。以後の電源ONではこの表示は現れません。イニシャライズしない場合はエンドキーを押します。

参考

■高周波モジュールのワーニング（警告）

警告音：ピー（1回）

電源が入った状態で、高周波モジュールを抜いた場合に警告音を出力します。

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、もう一度この取扱説明書をお読みになって、チェックしていただき、なお異常のあるときは、次の要領で修理を依頼してください。

<依頼先>

お近くのFutabaラジコンサービスセンター
または工場ラジコンサービスまで修理依頼
してください。

<保証内容>

セットに添付の保証書をご覧ください。
保証書の範囲内で修理をお受けになる場合
は、修理品と一緒に保証書を送付してくだ
さい。

<修理の時に必要な情報>

トラブルの状況をできるだけ詳しく書いて
修理品と一緒にお送りください。

- 症状（トラブル時の状況も含めて）
- 使用プロポ（送信機、受信機、サーボの
型番）
- 搭載機体（機体名、搭載状況）
- お送りいただいた修理品の型番及び個数
- ご住所、お名前、電話番号

<ラジコンカスタマーサービスセンター>

修理・アフターサービス、プロポに関するお問い合わせは下記の弊社ラジコン
カスタマーサービスセンターへどうぞ。

<受付時間／ 9:00～12:00・13:00～17:00、土・日・祝日・弊社休日を除く>

- 双葉電子工業（株）無線機器ラジコンカスタマーサービス
〒 299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080
TEL.(0475)-32-4395
- 双葉電子工業（株）関西地区ラジコンカスタマーサービスセンター
〒 577-0016 大阪府東大阪市長田西 3-4-27
TEL.(06)-6746-7163

10C



2.4GHZ Futaba Advanced Spread Spectrum Technology
PCM1024 / PPM Selectable

Futaba®